橋の西畔矢作村の田の中に竹林ありて古へ矢矧の長者が住ひし宅趾なりと言傳ふ又淨瑠璃姫は此長の女なり義經を慕ひて陸奥に赴かんとし蒲原驛に至りて死せりと其墓の事は既に蒲原の部に記せり

大樹寺　は岡崎町の北凡そ三十町鴨田村に在り淨土宗、勢譽上人の開基にして文明七年松平親忠之を創立すと、本尊は長七尺の阿彌陀佛にして左右に圓光、善導二大師の像を安す什寶に吉瑞大貫木なるものあり昔し德川氏敵軍と交戰の時寺僧素堂といふ者此貫木を以て敵兵數十騎を毆殺し家康を守護して凱歌を奏したり故に今猶ほ吉瑞の兵器として之を藏し參詣者をして隨意に一覽せしむ

瀧山寺　は岡崎町の西北一里十町瀧村に在り山を瀧山と云ひ中に一條の溪流を挿み此流れに沿ひて村落あり乃ち瀧村なり、入口に仁王門あり飛驒の内匠の造る所と云ふ行くこと五六町にして一小丘あり其石階を登れば頂きに達す本堂には藥師如來を安置し寺は役の行者か創建せしものなりと又其傍らに東照宮の社あり此地古大瀑布ありし故に山を瀧山と云ひ寺を瀧山寺と呼びしが近年其瀑水を水車に利用し今は瀑の眺め古への半ばにも及ばずと云ふ措むべし

猿投山　は三州の西北隅に聳え尾濃二州に跨がるの高山にして老杉古檜全山を蔽ひ溪流潺々として清涼掬すべし山腹に猿投神社あり縣社にして大雄命を祭り仲哀天皇元年の創建なりと云ふ、岡崎より里程五里二十町、人力車賃は猿投神社の阪下まで凡そ三十錢内外なるべし

●安城停車場　（愛知縣三河國碧海郡安城村に在り）

○安城　は東海道を距る南一里の一村落にして戸數五千四百戸、人口二千八百人一村農を以て業とす

●苅谷停車場　（愛知縣三河國碧海郡苅谷町字花捨に在り）

○苅谷　は舊土岐氏の城市にして境川の海口に位し戸數四百七十戸、人口二千六百餘人、白魚を以て名産とす此地より知立まで一里餘

○知立　は五十三驛の一にして元と池鯉鮒と書す戸數六百餘戸、人口三千三百餘人、岡崎を距る三里廿八町なり驛内に

知立神社　あり驛の西口街道より北折すれば一町にして境内に到る延喜式内の神社にして蔦不合尊を祭り今は縣社なり、老樹蓊鬱社を圍み境内に多寶塔、神籬門等あり毎年四月大祭を行ひ神輿は知立、苅谷を渡る是日近郷より參詣する者頗る多しと

八ッ橋古跡　知立驛より東十町許り街道の北側に八ッ橋道と記せし榜示杭あり茲より北に曲り行くと七八町にして八橋村に抵る小川あり南より北に流れ傍らに小丘あり此近傍乃ち八ッ橋の古跡なりと去れど今は一本の燕子花をも見ず近傍は皆な田園にして古への俤をも止めず八ッ橋の事は伊勢物語、古今集にも見え殊に業平朝臣が「かきつはた」の五文字を折句として詠出たる「から衣きつゝ馴にしつましあればはるばる來ぬる旅をしぞ思ふ」と云ふ一首より名高し、今ま小丘の上に業平塚なるものあり

後人が其名を假りて建設せしまでにて據ころあるにはあらず

●大府停車場　（愛知縣尾張國知多郡大府村に在り）

○大府　は武豊線路の分岐する所にして苅谷の西一里、大高より半田、龜崎に至る街道に方り戸數二百七十戸、人口一千四百餘人、此地より南十五町に緒川ノ里あり海老を以て名產とす又村内地藏堂の前に澤潟ノ井あり地藏の加護にて安產すと言傳へ土俗此水を生湯に用ふ（以下龜崎、半田、武豊三停車場は武豊支線なり大高に至りて東海道幹線に復す）

●龜崎停車場　（愛知縣尾張國知多郡龜崎町に在り）

○龜崎　は尾張國知多郡の東岸に位し衣ケ浦に瀕する小灣灣にして灣深からずと雖も亦絕えず和船の出入するあり市街は三角形を爲し戸數一千六百戸、人口六千七十餘人、對岸高濱村（碧海郡）と相距る海路僅かに十八町、南半田港へ一里を隔つ、此地は釀酒を以て名高く町内數十軒の釀造あり旅店は中口屋新左衛門外數軒あり

◉半田停車場（愛知縣尾張國知多郡半田町に在り）

○半田　は成岩町に接し東衣ケ浦に面して港灣あり郵船會社の定期航海船は隔日横濱との間を往復し其他小汽船和船等の發着忙はしく商業の繁盛なるは知多灣中の諸港に於て此地を以て最とす、戸數一千一百餘戸、人口五千二百餘人、其隣町成岩は戸數人口とも幾ど半田町に一倍す、半田も亦清酒の産地を以て名高けれども其特殊の産物は酢にして酒は之に亞ぐが如し旅人宿は新文亭（小栗及兵衛）瀧利（瀧本利右衛門）其他數軒あり何れも汽車汽船荷客の取扱ひ業を兼ぬ

大野海水浴　は知多郡中夏季殊に繁昌を極むるの地にして同郡の西部海岸即ち半田港とは全く反對の海濱に在り半田より里程三里六町、人力車賃片道廿五錢、一時半にして達す、大野町は戸數四百三十餘戸、人口二千二百人西は伊勢灣に枕みて遙かに四日市町と相對し西南には朝熊山、西北には多度山を遠望し白帆點々海面に泛び涼風颯々樓上に滿つるなど



皆以て心神を養ふべし此地は古來より海水浴として名ありしが去る明治十五年長與專齋氏實地を檢査し次で後藤新平氏其海水を分析して水浴に効驗あることを證明せし以來繁昌轉た繁昌に赴き裏日浴客の多きは相州大磯と東西相伯仲するに至れり、海水浴旅館は海濱館、恩波樓の二軒最も宏壯にして和泉屋、信濃屋、兩角等之に亞ぐ割烹店には金谷園、茶松、桶文等あり海濱館の宿料は一泊上等五十錢、中等廿五錢、並十錢、魚貝は新鮮にして且廉價なり、大野を距る七町宮山齋年寺に雪舟筆の達磨大師二祖慧可斷臂圖を秘藏す九鬼臨時實物取調委員長曾て此地を巡回し會〻此幅を一覽して非凡の神品なりと賞し乃ち鑑査狀を下附せられし品なり其他大野町には醫師安富、湯淺の二氏あり、裁判所出張所あり、警察署あり、郵便電信局あり、其南一里にして常滑町に到る、常滑は有名なる陶器製造地にして就中土樋の如きは其需用最も多くして毎歳數百萬個を各地に輸送すと云ふ、偖前には半田よりの道順を記せしが若し名古屋地方より大野

に到らんとするには熱田港より滊船に乘るべし熱田より大野まで海上五里滊船は毎日一回づゝ兩所の間を往復し其賃金は上等三十錢、中等二十錢、下等十三錢一時間にして達す其外熱田、名古屋、四日市等へ和船の往復するあり

●武豐停車場（愛知縣尾張國知多郡武豐町に在り）

○武豐　は半田港の南一里餘、等しく東知多灣に面し灣内水深くして大船巨船の碇泊に便なり停車場は海濱近き所にありて鐵道假橋は海中に斗出すると凡そ百間船積み貨物運搬の便に供ふるものなり、武豐町は戸數七百戸、人口三千七百人

鳳翔山　は武豐町背後の小山にして樹木稀疎、崖頭稍〻平かなる所に一閣あり去る明治二十年聖上此地に巡幸ましまし陸海軍大演習を天覽あらせられたる處とす此山元と迎戸山と稱せしが同年五月今の名に改む近頃此の山上に養生館なるものを新築し患者を治療し傍ら身體榮養の場に充つ、空氣清良、風色絶佳、加ふるに其海濱は水浴に適するを以て夏季に至れば避暑を兼ねて此山に遊ぶ者多し



師崎海水浴　は知多郡師崎港に在りて武豐より南の方海陸共に四里半を隔つ先づ人力車にて河和村に至り同所より仕立舟にて師崎に至らば其賃金も舟車を併せて五十錢の上に出でず、海水浴旅館を養春館と云ひ家屋宏壯眺望快濶其海濱浪穩かにして汚物なき處を擇びて游泳場に充つ、師崎は知多郡中良港の一にして船舶常に輻輳し東は豐橋、西は神社港、鳥羽等に至る便船あり又師崎の岬を距る海上一里の東南に篠島あり周回凡そ四十町鴉民皆漁獵を以て業とす延元三年後村上天皇が此沿海を航し給ひし際上陸して蹕を駐めたまひたる舊跡今猶此島に存す

豐濱海水浴　は師崎港の西凡そ一里豐濱村に在りて武豐を距る陸路五里餘、人力車賃四十錢、熱田よりは海上十四里を隔て日々便船あり旅店は大西屋清四郎、梅屋清吉の二軒にして宿料は一泊二十錢、一ケ月滯在費は

三圓五十錢以上、其海邊の眺望は略ぼ師崎に同じ、海濱には漁家多く魚類を熱田港に送る日々數萬尾なり（以下再び東海道幹線に戻る）

㊀大高停車場（愛知縣尾張國知多郡大高村に在り）

○大高　は舊名氷上の里と云ひ後ち大鷹と改む鳴海より龜崎半田に至る街道に衝り戸數六百三十戸、人口三千五百三十人にして鳴海驛を距ること僅かに十町、村の東北八町にして鷲津城趾あり今川義元合戰の時猶毬り城なりと云ふ又北四町にして丸根砦の跡あり義元合戰の時佐久間大學の居りし處なりとぞ、此村一種の野菜を產し大高菜と云ふ

○鳴海町　は愛知郡に屬し五十三驛中繁華なる一市街にして戸數一千百九十戸、人口六千四百九十人、昔しは鳴海潟と稱し又宵月の濱と云ひ此邊都て海濱にして滿潮の時は旅人上野といふ街道を往復せしと云ふ夫の太田道灌が「遠くなり近く鳴海の濱千鳥」云々と詠たる和歌を見ても知るべし、驛内に鳴海神社あり鄉社にして日本武尊を祭る又名產鳴海絞は



遠近に名あり多くは隣村有松にて之を製す

桶狹間古戰場　は東海道の有松驛より南に折れ凡そ十二三町の處に在り大高停車場より距離一里二十町、人力車賃十錢、有松の旅店にては其案內を爲し又古戰場の繪圖を賜ぐ、永祿三年五月今川義元大擧して尾張に入る步騎總て四萬勢、織田信長兵三千を率ゐて間道より襲ひ其中堅を衝く會ま强雨大に至り義元終に敗績して毛利高定の爲めに刺さる今は原草荒涼の中に古碑一基を存す即ち義元の墓なり

㊁熱田停車場（愛知縣尾張國愛知郡古澤村字東熱田に在り）

○熱田町　は名古屋市の町續きにして其東に接し南に熱田港を擁して伊勢灣渡航の津頭に方り熱田神宮あるを以て一に宮と稱す戸數四千二百戸、人口一萬八千七百人、愛知郡役所、熱田區裁判所、警察署、郵便電信局あり熱田港よりは四日市、桑名、津、神社港等の間を往復する滊船日々數回發着し旅人宿は多く滊船乘客の取扱ひを兼ね、海濱木挽町の東に魚市

場ありて毎朝知多郡各地より送り來る魚類は積んで丘を爲し以て名古屋以西各地の需用に充つ其盛んなること殆ど東京の魚河岸と相似たり又尾頭町に尾張紡績所あり尾濃大地震の際其巨屋壞倒して死者數人を出せしが今は新築全く成りて舊觀に復せりと云ふ、旅店の重なるものは

岡田屋（岡田　澄七）熱田町字神戸町　上
伊勢屋（木岡久右衛門）同　上
大森升屋（大森仙右衛門）同　上

等にして中には回漕店を兼業とするものあり、東海鐵道より關西鐵道に移らんとする者は此地にて滊車を下り滊船にて四日市に渡るべし熟田四日市間滊船賃は上等四十錢、中等廿五錢、下等十五錢なり

熱田神宮　は官幣大社にして伊勢太神宮の次に列し昔し日本武尊が御嬢倭姫命より授かり給ひし草薙の寶劍を祀り祭神は即ち日本武尊幷に土用殿なり本社の構造は宏壯優美にして自から威德の厚きを表し境內廣寬にして數百基の燈籠あり八劍宮は本宮の南端にあり其他末社と雖



ものには高倉神社、日破神社、氷上神社、孫若神社、賓田神社等あり毎年五月大祭を行ひ是日勅使の參向あり又昔し正月には踏歌の神事を行ひ來りしが今は此事廢せられしと云ふ

白鳥の御陵　は熱田町字白鳥町法持寺本堂の裏手に在り丘上老樹蓊鬱として日光を遮り其入口に華表あり昔し日本武尊東征凱旋の後ち伊勢國にて薨じ給ふや朱鳥年間草薙の劍を熱田に遷坐すると同時に尊の所持し給ひし太刀、鉾、鏡等を此地に封じ陵を造りて神靈を祭る白鳥の御陵即ち是なり其白鳥と稱する所以のものは尊の靈魂白鳥と化して琴彈ケ原、能褒野等を翔揚せし事あるに由ると

●名古屋停車場（愛知縣名古屋市笹島町に在り）

○名古屋市　は古へ波越又は那古野と書し慶長十五年德川義直兄忠吉に代りて封を此地に受け同年名古屋城を增築せしより世々德川氏の治所として名高く維新後藩を廢して縣治となると雖も猶は三府に亞ぐの大都

會にして其繁盛は毫も幕政の時代に劣らず、地は尾張國の中央平野の南部に位し東海道の要路に方り南方熱田町に連なりて海運の便を有し鐵路は東西兩京に通じて交通自在、彼の第一期、第二期豫定鐵道線路の開通するに至らば此地の殷賑猶ほ今日に幾倍するや知るべし、戸數四萬八千四百戸、人口十七萬三千六百人、市坊三百十九を有し廣袤は東西一里三町、南北一里五町其商工の盛んなる寧ろ京都に讓らずと稱す、市内に愛知縣廳、市役所、控訴院、地方裁判所、病院、醫學校、師範學校、中學校、商業學校、測候所、第一第二第三警察署、郵便電信局あり銀行會社にては第十一銀行、第四十六銀行、第百三十四銀行、名古屋銀行、伊藤銀行、第一銀行支店、三井銀行支店、電燈會社、名古屋紡績會社、建築會社、尾州材木會社、明治襤褸會社、名古屋米商會所、新聞には金城、新愛知、扶桑等あり又神社佛閣にては東照宮、須佐之男神社、若宮神社、東西本願寺掛所、五百羅漢、建中寺、萬松寺、眞福寺、政秀寺、法華寺等あり大須觀音は境内常に雜沓し觀



物あり露店あり寺内に五層塔ありしが先頃火災に罹りて燒失せり又例に依り當市に於る旅館の重なるものを揭ぐれば左の如し

| | | | |
|---|---|---|---|
| 秋琴樓（井東英太郎） | 市内榮町三丁目 | 松宗（河合宗七） | 同　榮町三丁目 |
| さんか（伊藤嘉助） | 同　伏見町二丁目 | 山田屋（山田もと） | 同　榮町四丁目 |
| 丸文（丸川文左衛門） | 同　上園町二丁目 | 丸屋（丸屋さとし） | 同　本町八丁目 |
| しな忠（信濃屋忠兵衛） | 同　富澤町三丁目 | たはら（田原せい） | 同　富澤町三丁目 |
| 鶴田館（米屋伍平） | 同　門前町三丁目 | 信忠支店（……） | 同　停車場前 |

其他割烹店には秋琴樓（旅店を兼ぬ）得月樓、河文、魚半以下十數軒あり遊廓は花園町にありて旭廓と稱し妓樓の名あるものを梅本、三朝、金波、壽、清々の各樓とす又名古屋の名產を擧ぐれば名古屋扇、七寶燒、一閑張、漆器、富士見燒陶器、佐々飛白、袴地等なり

名古屋城　は市の正北にあり天文九年織田信秀の築く所にして加藤清正の繩張に係ると云ふ慶長十五年德川義直の當國に封せらるゝや大に其舊城を增築し五層の天主閣上に一對の金鯱を置く之を以て古來金城の名

あり其鯱の高さ八尺七寸、胴の周り七尺三寸、明治維新後大政王室に復歸するに方り明治四年藩主徳川義宣侯金鯱を宮中に献納し後ち澳國萬國大博覽會に出品せし事ありしが今や之を本城に還付せられ金城の名全く空しからざるを得たり、城内は今第三師團の本營となり城外空地を以て練兵場に充つ、停車場より本城まで距離凡そ十五町

小牧山公園　は東春日井郡小牧町にあり名古屋市を距る正北四里（人力車賃廿五錢）山太だ高からずと雖も尖峯突起して數里外より之を望むべく樹木鬱然として翠色滴らんとす近年此山を開鑿して公園地と爲し山巓に創亜館あり、天正年間徳川家康此山に據りて豊臣秀吉と抗戰し秀吉をして大に畏懼の念を生せしめ爾後家康の名天下に赫々たると三百年國家泰平の基を闢きたるは實に此山より起れり之を小牧の役と云ふ

豊國神社　は知多郡織豊村字上中村にありて名古屋市を距る西方一里此地は豊臣秀吉出生の地にして昔しは同村常行寺地内に大閣堂を設け堂



内に秀吉の肖像を安置せしが近年社殿を創建し豊國神社と稱して其靈を祭り祭日には名古屋市より參詣する者多し又同村に清正公靈殿ありて其西に今猶ほ加藤清正の舊宅趾なるものを存す

甚目寺　は海東郡甚目寺村に在りて名古屋市を距る西方二里十町眞言宗にして開基の年月詳かならず或は云ふ推古天皇の五年に創建せりと寺記に曰く昔し甚目龍麿と云ふ漁夫あり一日漁舟を泛べて網を海中に投せしに偶然紫金色の觀音を得たり龍麿自ら壇那となりて寺を創建し此の正觀音を以て本尊となせり故に龍麿の姓を以て寺號となせりと、其堂閣は高雅壯觀にして賽人常に絶えず又甚目寺村より西二里三十町にして

○津島町　に遂す、津島は海東郡中繁盛なる一市驛にして戸數二千三百五十戸、人口一萬千八百人、海東郡役所、區裁判所、郵便電信局、警察署等あり又市街に有名なる津島神社あり縣社にして素盞嗚尊、奇稻田姫、冥忍穗耳尊以下八神を祭り弘仁九年の草創に係る社殿、末社、神門に至

るまで結搆美を盡し彫刻また精巧其神徳を尊崇して來り參する者踵を接す毎に陰暦六月十五日に執行する神事は世に津島祭りとして名高く其前夜天王川に五艘の大船を泛べ之に數萬の紅燈を高く掲げ音樂合奏して宵祭を爲す等また奇觀なり、津島町旅人宿は山田屋平三郎、三好屋源六等にして名古屋より此地迄の人力車賃は四十錢内外なるべし

㊇清洲停車場（愛知縣尾張國西春日井郡清洲町に在り）

○清洲　は慶長十五年までは尾張國第一の城市にして織田信雄、福島正則等の封せられし處なりしも今は岐阜街道の一驛たるに過ずして大に衰微せり、戸數三百九十戸、人口二千〇四十人、町の北方鐵道線路の右に清洲城趾あり永和年間斯波義重の築く所にして後ち織田氏に歸し又徳川氏に歸し終に城を名古屋に移す今は其跡に唯た老松數株と古碑二三基を存するのみ又清洲本町の東に山王權現社あり素盞嗚尊を祭る

㊇一ノ宮停車場（愛知縣尾張國中島郡一ノ宮町に在り）



○一ノ宮　は名古屋の東五里十餘町に在る名邑にして戸數二千二百五十戸、人口一萬千六百九十人、中島郡役所、區裁判所、警察署、郵便電信局、一宮銀行等あり此地毎月三八の日古衣市を開き近郷より數多の商人來集して賣買の取引亦頗る熾んなり町の中央に一の宮あり國幣小社にして眞清田神社と稱し神武天皇三十三年創立、國常立尊を祭る社内に御鎭生の松、貫之櫻等あり毎歳十月十五日大祭を執行し流鏑馬等を儀すを恆例とす、此地の宿屋は油屋助三郎、泉屋庄兵衛外數軒あり

㊇木曾川停車場（愛知縣尾張國葉栗郡黒田村に在り）

○黒田村　は笠松の南凡そ一里岐阜街道の一村驛にして戸數八百四十戸、人口四千八百三十人、木曾川を距る三十町に過ざるが故に此地の停車場に冠するに木曾川の名を以てす、黒田村より東四里に

○犬山町　㊇　あり犬山は元と成瀬氏の封地にして稻置と稱し木曾川の南畔に在る一市街にして戸數一千三百戸、人口六千七百八十人、丹波郡役

所、警察署等あり又町の北端木曾川に臨みたる丘巒の地に犬山城あり永亨年間織田廣近一城を木ノ下に築く後ち信康の代に至りて之を今の地に移し天正の役豊臣秀吉此城に據りて小牧の徳川家康と對陣せり今猶其天主閣を存し亦歴史的觀察を下すに足る、町の西に瑞泉寺あり禪宗、僧宗舜の開基にして應永二十二年の創建なりと云ふ

木曾川　は源を信濃の木曾山中に發し尾張の丹羽郡に至りて五條川を分ち美濃州界より南流伊勢州界を經て中島郡野田村より東へ佐屋川を分ち勢州桑名郡油島村にて揖斐川と合し二派となりて長島を繞り桑名に至りて海に入る其延長五十五里、今や木曾川改修工事の議ありて其下流に於ては既に新河疏通の土工を起せり

**岐阜停車場**（岐阜縣美濃國厚見郡上加納村に在り）

**○岐阜市**　は稻葉山の西麓長良川の南岸に位し東西十八町、南北二十二町、戸數五千四百戸、人口三萬〇二百六十人、市坊六十八を有す、岐阜縣廳、地方裁判所、區裁判所、厚見、各務、方縣郡役所、師範學校、岐阜病院、警察本部、郵便電信局、商業會議所、第十六銀行、其他の銀行支店、新聞には岐阜日々、濃飛等あり此地は街衢繁盛管内第一の商區なるも明治廿四年九月の大震にて家屋顚倒燒亡して全市の狀況稍や一變するに至れり例に依り此地の旅店幷に近傍遊覽すべき處を掲ぐれば凡そ左の如し

| | | | |
|---|---|---|---|
| 玉井屋 | （玉井伊兵衛） | 岐阜市字今小町 | 一 |
| 津國屋 | （渡邊光太郎） | 同　上 | |
| 菊瓶 | （市橋平七） | 同　字中竹屋町 | |

（割烹店は松岬樓（魚屋町）水翠亭（伊奈波境内）總文樓（今小町）十八樓（河原湊町）鯉美樓（七曲町）松田屋（笹土居町）等數軒ありて孰れも鵜飼案内を爲す

**稻葉山**　は一に金華山と稱し市の東に峙立す其山巓に城趾ありて今猶は土中より古瓦を掘出す事あり此城は舊と井ノ口城と稱し建仁年間齋藤行政の築く所なりしが織田信長之を破りて清洲より茲に移り周の岐山に擬して名を岐阜と改む後ち織田信孝、池田輝政等代る〳〵之に居り關ケ

原の役後徳川氏終に之を廢す其麓大佛閣の北に公園ありて園内に東照宮を祭り物品陳列場を建設す其南三四町、山麓のつゞきに縣社伊那波神社あり本社、華表共に大震の時燒失して今は假建の祠あり

長良川鵜飼　は岐阜の奇觀として世に名高く毎歳五月上旬より十月中旬までの間之を行ふ、漁舟は一組七艘若くは五艘一舟毎に篝火を點じて流れを下り鵜を放ちて香魚を獲らしむ一艘の乘組都て四人舳頭に立ち主となりて鵜十二羽を使ふ者を鵜匠と名け十二條の手繩を捌きて魚を逐はしめ已に七八尾を呑たりと思ふ頃は交る〳〵鵜を舟に引上げて魚を籃の中に吐かしめ復た水に逐入るゝと始めの如く其狀戰鬪と相似たり之を傍觀せんとするには前記の旅店または割烹店に就て遊船の雇入れ酒肴の準備等を頼み其時刻を計りて長良川の流れを溯ぼり船を漁舟の傍らに寄せて見物するにあり其入費は船の大小酒肴の多寡に依りて差異ありと雖も客五六人一組にて一舟を艤ひ肴三四種を載せて見物する費用は一人割凡そ六七十錢なるべし又鵜飼に關する詳細の記は三浦千春氏の著「美濃奇觀」に譲りて茲には縷述せず委しくは同書に就て覽るべし

篠谷梅林　は岐阜市の東南、稻葉山の南麓に在り園内廣くして數千の梅樹を栽ゑ老幹新枝嵯峨として開花の候は殆ど銀界の如く芳香馥郁として人に迫る其梅樹の多きと眺望の佳なるとは濃飛二州中他に其比を見ず、其近傍に瑞龍寺あり元は土岐成頼の香華院にして堂宇宏壯境内また廣寬にして老樹鬱然天を蔽ひ其幽寂愛すべき所あり

## 大垣停車場（岐阜縣美濃國安八郡大垣町字高屋村に在り）

大垣町　は岐阜の西南凡そ四里に在り岐阜縣下第二の賑地にして戸數三千九百餘戸、人口二萬九千八百餘人、安八郡役所、區裁判所、郵便電信局、警察署、第百廿九銀行、美濃銀行等あり此地は土田氏の舊城市にして始め豊臣氏の時池田信濃此地を領し慶長六年徳川氏石川康通を封じ元和二年松平忠良に、寛永元年岡部長盛に、同十年松平定綱に、同十一年土田

氏鐵に賜ひ以て維新前に至る其居城の跡は猶ほ町の西北隅にあり城墟は今は公園となり石垣幷に天主閣を存す、大垣は屢々水害を被り尋で尾濃の大震に遭遇し家を亡し産を失ふ者幾千人なるを知らず市街の光景舊時と相反して大に衰微の模様あり、此地より揖斐川を下りて勢州桑名に至る川船毎朝七時より九時迄の間に出船し翌拂曉ずでに桑名に着す其賃金は上等一間借切九十錢、下等乘合一人前十二錢なり又旅店の名あるものは左の如し

玉屋（長橋珠右衛門）大垣町字廓町　京丸屋（松岡重吉）同　字東船町
安田屋（安田小平）同　字俵町　本陣（飯沼武右衛門）同　字竹島町

○養老公園　は多藝郡白石村養老山中にありて大垣町を距る西南三里強り途中高田村を經て山麓まで人力車を通ず(車賃二十五錢)山腹に有名なる養老ノ瀧あり高さ九十二尺幅九尺其近傍楓樹多く秋季錦繍を晒すの候に至れば亦一層の雅趣を添ふ瀧より東西町の山腹に登れば茲に養老神



社あり祭神詳かならず老杉翁欝社殿を圍み其石階の下岩石の間より噴出する清泉ありて之を菊水の瀧と名く、又瀧壽山養老寺ありて本堂には不動佛を安置す傳へて云ふ天正年間豊臣秀吉連歌師紹巴に命じて謡曲百番の注釋を作らしむ德永壽昌其中より養老の註本を請ひ得て此寺に寄付し今に傳へて寺寶と爲すと後ち慶長十二年大に堂宇を修築し以て今日に至れりと云ふ寺を登ること二町にして僧樂社あり其近傍に三四軒の割烹店兼旅館ありて豆馬亭、掬水樓殊に名高し此邊を都て公園地となし僧樂社近傍には數十株の櫻樹を栽ゑたるを以て春、夏、秋三季ともに此山に杖を曳く騒人墨客陸續として絶えず亦一個の仙境なり又垂井、關ヶ原二停車場より養老への道ありて其距離は大垣よりするに比すれば少しく近けれども道路嶮惡にして一人曳の車を通せず故に京阪地方より來る旅客も大垣にて汽車を下り前記の坦道を經て養老に到るを順路とす

**垂井停車場**　（岐阜縣羙濃國不破郡垂井町大字垂井村に在り）

○垂井町　は中山道の一驛にして大垣町を距る西方二里、戸數三百八十戸、人口二千人、驛内に郡役所、警察署等あり、市街の北裏御幸町と稱する所に垂井頓宮あり後光嚴帝文和三年南軍に襲はれ此處に行宮を建て給ひし跡なりと云ふ又驛内玉泉寺の前に垂井清水あり

南宮神社　は國幣中社にして金山彦を祭り垂井の南十二町宮代村に在り社殿は壯嚴ならずと雖も亦自から高雅、境内には老樹枝を交へて翠色滴らんとし眞に幽邃閑雅の地なり本社は元と美濃中山に在りしを崇神天皇の五年十一月今の地に遷坐せしものなりと云ふ

㊀關ヶ原停車場（岐阜縣美濃國不破郡關ヶ原村に在り）

○關ヶ原　は慶長年間德川家康が石田三成等と戰ひて大勝を得たる古戰場にして其關ヶ原若くは不破野と稱するは今の關ヶ原村近隣方一里餘に亘れる原野の名にして今も鐵道線路の北傍に二三の古墳あり、關ヶ原村は垂井を距る西方一里二十町、戸數四百二十戸、人口二千百九十人其西



五六町字松尾と藤下との間に不破關の舊趾あり關所は天武天皇の二年始めて建つる所にして昔の和歌紀行に名高く今は此邊りを大木戸と云ふ

伊吹山　は關ヶ原の北凡そ二里美濃近江の州界に屹立する峻峯にして山麓上野村より頂きに至る二里半其山脈北に走りて國見山、金糞ヶ嶽、丼に三國嶽（美濃、近江、越前國境）と連なる此山後拾遺集賀方の一かくとだにえやは伊吹のさしも草」云々の歌より名高く古へ遂を產し交黃鳥、郭公の名所とす其西麓伊吹村に伊富岐神社あり

寐物語　は關ヶ原の西凡そ一里半、今須と長久寺村の間即ち美濃近江の國界を云ふ昔し兩國の人一重の壁を隔てゝ相談話せしより其名高く今も猶は國界に二三の民家あり

㊀長岡停車場（滋賀縣近江國阪田郡東黑田村字長岡に在り）

○長岡　は春照村を距る南半里、山間の一邑にして戸數百戸、人口四百八十人に過ぎず此地は常に乘客の出入至て少なく唯だ敦賀支線の分岐點

なるを以て時々貨物車の解放、連結を掌どるのみ

○米原　は琵琶湖に臨みたる一小市にして戸數八百戸、人口四千二百人許り土地は湖の水面より高きこと僅かに二三尺其東に磨針嶺の山脈を負ひ凹形にして濕地たり故に線路は高く堤防を築き乘車場は停車場の階上に設く、此地は東海鐵道線と敦賀支線との分岐點にして左するものを幹線と爲し右するものは長濱を經て敦賀金ヶ崎に達する支線とす

琵琶湖　は皇國第一の大湖にして東西五里二十六町、南北十六里十三町其形ち琵琶に似たるを以て名とし又鴈ノ海とも云へり、風光絶佳富嶽と併べ稱して我邦の雙美と爲し其沿岸に八景あり所謂近江八景なるもの即ち是なり（八景の案内は馬場大津の部に掲ぐ）湖中鱒、鮭、鰻、鯉、鮒等を產し就中源五郎鮒を以て名產とす

㊀彦根停車場　（滋賀縣近江國犬上郡彦根町字上新屋敷町に在り）



○彦根町　は井伊氏の舊城市にして琵琶湖の東北岸に位し東西二十一町、南北十三町餘、戸數三千四百餘戸、人口一萬九千六百人を有し犬上郡役所、區裁判所、警察署、郵便電信局、第百三十三銀行等あり、彦根城趾は金龜山と稱する丘阜の上に在り德川氏井伊直政を當國佐和城に封じ後ち此地に新城を築かしむ今は纔かに五層の天主閣のみを存し地は陸軍の管轄に屬しまた公園となれり園中旅館あり茶店あり金龜山に登れば近傍の勝景を一瞰し風光明媚眞に畫圖を觀るが如し、湖岸より西北水上凡そ一里半に多景島あり其周回五町に過ぎずと雖も奇岩重疊して此小島を造り奇景云ふべからず其高さ七丈許りにして島中に古刹一宇を存す、又松原は彦根に接續せる一漁村にして日々大津長濱等に汽船和船の往復あり、彦根町の旅店は樂々園（公園内）鎗屋仲次（本町）松屋竹次郎（停車場前）大和屋伊兵衛（職人町）其他數軒あり

多賀神社　は彦根の東南凡そ二里（人力車賃十二錢）犬上郡多賀村にあ

り創建年月詳かならざれども舊社にして伊弉諾、伊弉冊尊を祭る社地廣濶、老杉社殿を圍繞し樓門あり反橋あり一の華表は其途中高宮驛にありて同所より本社まで三十町と云ふ、國中日吉神社に亞ぐの大社にして褰人常に絶えず其境内より彦根町及び琵琶湖を遠望し得べし

●能登川停車場　（滋賀縣近江國神崎郡八幡村に在り）

○能登川村　は八條村に屬し停車場所在地と相距る十町許り、地勢平坦にして湖岸に近く交通八達、運輸至便、元は一小村落に過ざりしも停車場設置以來年を追ふて殷賑に趣くの模樣あり戸數は百五十戸、人口七百八十餘人、八幡全村の人口は四千三百人なりと云ふ

●八幡停車場　（滋賀縣近江國蒲生郡金田村に在り）

○八幡町　は停車場を距る西北凡そ十町蒲生郡中湖岸に近き所に在りて東西十町南北六町、戸數一千五百餘戸、人口七千四百八十人を有し蒲生郡役所、區裁判所、警察署、郵便電信局、八幡銀行、近江セメント會社等あ



り此地は江州豪家の聚まる所にして商業繁昌し湖上には滊船和船の便あり又市街には蝟地を鬻ぐ商舖多く之を八幡蚊屋と稱へて名産とす驛端に八幡神社あり社殿宏壯其後山に豊臣秀次の城墟あり

長命寺　は八幡町を距る西北一里十五町、奥ノ島字松ヶ崎の阜頭に在り石階を躋ること八十八級其境内に達す、境内に觀音堂、三層塔あり北は沖ノ島に對し湖上の眺望奇絶にして褰人常に絶えず八幡濱字南津田の湖岸より小舟を泛べて長命寺山下に達し得べく其舟賃は二十錢なり

●野洲停車場　（滋賀縣近江國野洲郡野洲村字小篠田に在り）

○野洲村　は野洲川（一名横田川）の東岸中仙道の一驛にして停車場と相隔たる凡そ八町、戸數百八十戸、人口九百强り今は町村制に依りて市三宅、行畑、小篠原、久野部の數村と合し人口二千九百六十を有す

三上山　は野洲の東南一里餘、野洲川の東岸にありて直立一千百八十八尺其麓三上村より登路十八町と云ふ滊車進行の際野洲川鐵橋より之を

望めば其形富士の如し故に近江富士の名あり、古へ其山上に御上神社あり て伊弉諾尊を祭りしが今は之を山麓三上村に移せり

○草津停車場（滋賀縣近江國栗太郡草津村字大路ノ井に在り）

は東海中仙兩道の分るゝ所にして又東海、關西兩鐵道の分岐點に當り商家旅舍軒を連ねて古來繁昌の一市驛なり、戸數千六百三十戸、人口五千一百餘人、粟太郡役所、警察署等亦驛内にあり、名物姥ヶ餅は街道の左側にありて今猶は繁昌せり傳へて云ふ昔し佐々木義賢の信長に亡さるゝや其子孫此地の代官となり數代の後ち主人某一子に貞宗の銘刀を付し乳母に托して死す乳母其子を養育せんとするも資財なし因て已むを得ず餅を賣りて生活の助けとなせり是れ姥ヶ餅の濫觴なりとぞ、驛内名ある旅舍は蔦屋巳之助、伊勢屋新兵衛の二軒にして蔦屋には今猶は奇石活人石を秘藏す此石の事は東海道名所圖繪（寛政七年版）にも其記を掲げたる如く高さ二尺餘、幅一尺五寸茶褐色にして中腹少しく廣し中山亞相此の化石の銘を作り蔦屋には猶は此幅を藏すと云ふ

矢橋　は近江八景の一にして草津の西一里許り、大津通ひの汽船日々數回發着して交通至便の地、其北に鞭崎神社あり應神天皇を祭り此地の生土神とす、此地より橋本に至る凡そ一里、同じく大津波止場に至る凡そ一里半汽船四十分間にして達す

玉川古跡　は草津より西南十五町許り野路村にあり千載集に後頼朝臣が「明日もこん野路の玉川萩越えて色ある波に月宿りけり」と詠みしより名高く所謂六の玉川の一なり今に街道の傍らに小池の埋もれし跡を存し野路玉川の古跡と記したる木標を樹てたり

○馬場停車場（滋賀縣近江國滋賀郡大津町字馬場に在り）

は大津町の爲めに設けたる停車場にして大津まで僅かは二十町、貨物線路の布設あり地は湖水に臨み東南膳所と相接し昔しは古市鄉と稱す馬場一村の戸數百十戸、人口五百七十人なりと云ふ

**膳所**　は馬場の東三町餘にありて町村制實施以後別保、中庄、膳所、錦の各村を合せて膳所村とす維新前は本多氏の領地にして古昔より日吉神社の神饌を此地より供す故に膳所の名あり膳所の城は有名のものにて湖邊に一の景色を添へ來りしが今は毀ちて監獄所と爲し大に舊觀を損せり

又村内字別保に義仲寺あり此處は木曾義仲戰死の地にして佛堂に位牌を安し堂前に義仲の墳あり又義仲の墳に並びて芭蕉翁の墓あり翁は元祿七年十月十二日大阪に沒す門人其角、去來、丈草等其遺言に因り棺を此處に葬りしと云ふ其傍らに芭蕉堂ありて翁の木像を安置す

**粟津ヶ原**　は膳所より勢田橋本に至る街道松原の名にして亦八景の一なり此地は壽永三年の昔し木曾義仲、範頼義經等と戰ひたる處にして義仲終に亡び其臣今井兼平も亦茲に誅戮せらる兼平の墓は松原より西北へ入ること三町許り田野の中に在り高さ四尺今井四郎兼平と刻す

**勢田斷橋**　は一名青柳橋と呼び東海國道の堺勢田川の上に架す八景の



寶に屈竟の避暑地なり

**上賀茂神社**　は賀茂別雷神社と云ひ同じく愛宕郡上賀茂村に鎭坐する官幣大社なり祭神は即ち別雷命にして欽明天皇の御宇之を草創すと云ふ社地廣寬、神殿嚴整、殊に神威のいやちこなるを覺ゆ社前の清流を御手洗川と稱し一の鳥居より本社まで距離數町其間樹木蓊鬱として晝猶は晴きが如し又葵の祭、賀茂の競馬は古へより名高く毎年四月酉の日を以て之を行ひ是日賽人四方より蝟集して其賑ひ言はん方なし

**大德寺**　は龍寶寺と號し市北愛宕郡東紫竹大門村字紫野に在り大燈國師の開基にして正中元年の創建、釋迦佛を以て本尊とし梵天、帝釋、達磨、臨濟の像を安す堂宇頗る宏壯にして閣は千ノ利休の寄付せしもの、眞珠庵は一休和尚の居住せし處、共に其遺物を存す

**金閣寺**　は平野の西北衣笠山の麓に在り足利義滿の造營せし山莊にして三層の高樓に金箔を粧ひ屋上に金鷄を置く初層を法水院と云ひ第二層

を潮音洞と云ひ第三層を窮意頂と云ひ天井板は三間角の一枚板を以て造り床柱には太さ二握の南蛮樹を用ふ、閾の前に苑池あり鏡池と云ふ奇石怪岩を以て装飾し又四季の花卉を栽ゑて其風致を補へり

北野天満宮　は市の西北隅宇北野に在り天暦九年の創建にして社殿は豊臣秀頼の造営に係り其構造宏壮社域も亦廣濶にして攝社末社多く毎年八月四日大祭を執行す

仁和寺　は御室に在り眞言宗仁和四年の創建、宇多天皇譲位の後ち宮殿を此處に營みて密教を修せられしと云ふ、金堂の本尊は阿彌陀佛にして弘法大師の作なり又當山は古へより櫻の名所にして今猶ほ枝幹屈曲せる老樹多く花候に至れば都鄙の男女花下に群集す

嵐山公園　は七條停車場より東三里許り（人力車賃二十五錢）桂川の上流一名大堰川の南岸に在り滿山櫻樹多く翠松其間に交はりて風景絶佳さ櫻は龜山院吉野山より茲に移し栽ゑたまひしものにて川を隔てゝ之を望めば苑も白雲の靉靆たるが如し、橋あり渡月橋と云ひ橋畔に割烹店あり二軒茶屋と云ふ扁舟に棹さして大堰川を溯ぼり戸無瀬の瀧、千鳥ヶ淵を觀過するも亦一興にして殊に月夜を以て最とす、山に法輪寺あり藏王堂の山嶺に登れば京都市街を遠望すべく又二尊院の後山を小倉山と云ひ往昔定家卿が百人一首を選びたる處とす此邊を嵯峨野と稱し古へ風流韻士の隠棲せし處なれば山川の勝雨ッながら備はり眞に仙境の名に愧ぢず

保津川　は桂川の上流にして源を丹波桑田郡に發し山城葛野郡にて清瀧川と合し西南流澱に至りて淀川となる、先づ京都より丹波龜岡に赴き（龜岡まで距離五里廿町、一人乗人力車賃四十五錢）同所より川舟に棹さして保津川の急流を下り嵐山の前に出るの一往復は最も壯快なる旅行なり保津川は水清くして玉の如く途中瀧あり瀬あり且巨岩水中に起伏して小舟は今にも之と衝突するが如く見ゆれども船頭は一竿を携へて舳先に立ち巧みに岸を支へ岩を除けて流れに舟を下し龜岡より嵐山まで僅か一

時間餘にして逢す殊に初夏の頃は兩岸の躑躅咲き亂れて風景絶なり、舟賃は客四五人を載せ龜岡より嵐山渡月橋まで一艘に付壹圓內外なれど雨後水多き時は二割乃至三割を增すを通例とす

此外京都市の內外にて遊覽すべき神社佛閣又は名所舊跡等は枚擧するに遑あらず今重立たるもののみを列記すれば東に東福寺、三十三間堂、泉涌寺、豊國神社、西大谷、鳥邊山、清水寺、東大谷、南禪寺、鹿ヶ谷、若王子、永觀堂等あり北に修學院離宮、鞍馬山、貴船神社、今宮神社、相國寺あり西に愛宕山、嵯峨天皇の陵、高尾、槇ノ尾、栂ノ尾、天龍寺、梅ノ宮等ありて此地を悉く遊覽せんとするには少くとも一週日を要するなるべし而して其詳細なる案內は到底斯かる小冊子の能く盡すべき所に非ざれば悉く之を省略するとゝなしぬ

【旅店】　京都市に於る上等旅館は圓山四條近傍に在りて其商人宿と稱するものは重に三條通り及び上中下珠數屋町邊に在り今ま日本商人錄に據りて各旅店を列記すれば凡そ左の如し

◎京都市內旅人宿一覽

也阿彌（井上喜太郎）洛東圓山町
常盤樓（前田はな）河原町通二條下ル
中村樓（辻金三郎）八阪祇園前
後屋（岡崎和助）麩屋町通姉小路上ル
柊屋（西村庄五郎）同上
萬屋（岡本猶吉）三條通小橋西へ入ル
鍵屋（甲斐伊兵衛）三條通大橋東へ入ル
あだち（足立吉太郎）同上
釘拔亭（中澤清次郎）三條小橋西北詰
日光屋（長谷川與之助）三條通り小橋
茶屋（隱岐久左衛門）三條通大橋東へ入ル
砂糖茂（中村金三）油小路御前通り下ル
河內屋（田伏六右衛門）中珠數屋町通り
もち屋（木村槌之助）六角通東洞院西へ入ル
桝屋（城山吉五郎）五條大橋東詰
さは文（澤田文二）麩屋町通押小路
田中屋（田中文右衛門）西六條西中筋
井筒屋（井筒安次郎）東洞院中珠數屋町
藤屋（藤井伊兵衛）醒ヶ井通花屋町
松屋（松谷吉兵衛）御幸町三條上ル
近江屋（梅村宗七）醒ヶ井通花屋町
八尾宗（青木宗五郎）高倉通松原下ル
八幡屋（網島勘兵衛）富小通松原下ル
丸万（上杉萬助）東洞院三條下ル
近江屋（中川善六）六角通高倉東へ入ル
わた屋（小野常吉）柳馬場通六角下ル
平野屋（遠藤新助）蛸藥師東洞院東へ入ル
富田屋（富田庄太郎）同　東洞院西へ入ル

【名物】　京都市の名物は西陣織、友仙染、鹿子絞り、刺繍、粟田燒、清水

燒、銅器、漆器、扇、團扇、玩弄品、紅、白粉等なり

●向日町停車場　（京都府山城國乙訓郡向日町字寺戸村に在り）

○向日町　は乙訓郡役所の在る所にして戸數七百六十戸、人口三千九百四十人、京都より西中國へ通ずる街道に方り東、下鳥羽へ一里、同く伏見へ一里十五町、南方山崎へ三里三十町、土地平坦にして四通便利の地なり、其西に長岡天滿宮あり

長岡天滿宮　は向日町の西一里（人力車賃八錢）新神足村字開田村に在り元は弘法大師開基の佛寺なりしが昌恭四年菅公筑紫に謫せらるゝに當り祐房なる者公の影姿を寫して茲に祭り社を造營して長岡天滿宮と稱す社地の傍らに小池あり池塘躑躅、櫻、楓の類を栽ゑ春秋ともに風景に富み賽人常に絶えず、其北十餘町粟生野に光明寺あり淨土宗にして圓光大師の像を安す寺地に山吹多く春季近鄕より來りて花を賞する者多し

●山崎停車場　（京都府山城國乙訓郡大山崎村に在り）



○大山崎ノ庄　は天王山の麓に在りて淀川を隔てゝ京街道の橋本と相對す此地は天正年中羽柴秀吉西より還りて明智光秀を誅殺せし古戰場にして又明治初年會津桑名二藩の兵が薩長の兵と接戰せし處なり戸數三百十戸、人口一千六百九十人

離宮八幡宮　は停車場の前、街道の北傍に在り、貞觀元年の創建にして應神天皇を祭る此地は嵯峨天皇の離宮跡にして行敎和尙敕を奉じて神殿を造營せしと云ふ明治初年の兵燹に罹り社殿は今ま假建なり

寶寺　は停車場の北、天王山の半腹に在りて數十級の石階重疊し樹木鬱蒼たる靈區なり山號を補陀洛山と云ひ眞言宗にして十一面觀世音を安す寺内は眺望頗る快活にして近くは淀八幡の市街、木津、淀の河流、宇治山、鳩ヶ峯等を煙霧の中に望み亦一佳境なり

男山八幡宮　は官幣大社にして淀川の對岸、綴喜郡八幡ノ莊鳩ヶ峯の北麓に在り山崎停車場より東南に方り里程一里途中淀川の渡ありて人力

車賃は七八錢の間にあり本社は貞觀二年の創建にして應神天皇、神功皇后、玉依姫を祭り社殿頗る壯觀なり社記に曰く大和國大安寺の行敎和尙筑紫宇佐八幡宮に參籠の時八幡宮神宣ありて王城の邊りへ遷坐せよとのたまふ行敎都に歸りて此事を奏聞し貞觀二年六月十五日勅を奉じて神殿を造營す云々、其麓木津川の南岸に八幡町あり奈良、龍田等の通路に方り舟車共に便利の地にして戸數一千餘戸、人口五千六百三十人を有す、此地より南六里餘に木津村あり玆より右すれば一里半にして奈良に出で左すれば六里餘にして月ヶ瀨に至るを得べし其途中笠置村あり右折すれば笠置山にして後醍醐天皇行宮の跡、笠置寺の舊趾、藥師石、虛空藏石、文珠石等の奇石あり、月ヶ瀨の案内は關西鐵道の部に委しければ玆に略す

●高槻停車場（大阪府攝津島上郡高槻村字上田邊に在り）

○高槻村　は元と水井氏の城下にして今猶ほ其城濠を存す、戸數六百八十戸、人口三千一百人、西北は鐵道線路を隔てゝ芥川村に近接し南は淀



川を越ねて牧方と相對し其距離一里餘なり、此邊多く煙草を產し又陶器を鬻ぐ所謂古曾部燒なるものは高槻の北半里古曾部村にて之を製す又中國街道は高槻より岐れ芥川、昆陽を經て西ノ宮に至る

神峯山寺　は高槻の北二里餘、原村神峯山の頂きに在り、役の小角の開基にして文武天皇元年の創建なり本尊は毘沙門天にして役の行者の作なりと云ふ、高槻より途中原村まで人力車を通じ同所より右折して山道に差掛る其道頗る峻嶮登り易からず又山の中腹に本山寺あり同じく役の行者の開基にして寶龜五年開成皇子の創建なり後ち天正の頃火災に罹りて燒失し慶長年中内大臣秀頼更に堂宇を建立す寺地には千載の老樹繁茂し幽邃愛すべき所あり、堂後五町許り谷を降りたる處に五水瀧あり高さ三丈日光に映じて瀑水五色に見ゆることあり故に五水瀧と名くと

金龍寺　は高槻の北一里餘、成合村邂逅山の中腹に在り桓武天皇延曆年中の創建、天台宗にして參議是雄卿の開原なりと云ふ、寺地に能因の

に池沼多きを以て泪池の古跡は孰れの池を云ふにや分明ならず又此地に蓮を産し蓮根と姑慈とを以て名物とす

箕面の瀧　は吹田停車場の北三里（人力車賃二十錢）豊島郡箕面山中にありて瀑布の高さ十一丈二尺、幅三間餘、飛沫は柳絮の風に亂るゝが如く又白玉を散らすが如く其水響は數十間の外に達す殊に秋老い霜深き頃は滿山の楓樹は恰も蜀錦を織るが如く其間より飛泉の白布を懸けたるが如きを望む亦絶景なり、瀑布の手前凡そ十五六町の處に梵刹あり瀧安寺と云ふ役の小角の開基にして白雉年間の草創に係り本尊は毘沙門天の像なりとぞ、本坊より瀑布に至る途中唐人戻り岩あり又瀧の上に龍穴あり近年本坊の邊りに岩本樓其他二三の旅店を設け夏秋二季は店を開きて客を宿泊せしめ又料理を調進す、又大阪より此地に至る里程五里餘、人力車賃三十錢内外、神崎停車場より里程四里三町、人力車賃二十五錢、神戸地方より來る者は神崎にて瀧車を下るを順路とす



勝尾寺　は茨木の西北一里十餘町（人力車賃十錢）栗生村勝尾山の麓に在り眞言宗にして寶龜八年の創建、攝州の刺史藤原致房の雙兒善仲、善算の開基なり本堂に十一面觀世音を安置し西國巡禮二十三番の札所とす又栗生より北數町の山麓に光明天皇の陵あり

○吹田村　（大阪府攝津國島下郡吹田村に在り）

●吹田停車場　は神崎川の北岸に位し戸數七百九十餘戸、人口四千一百人、村内に高濱觀音寺、護國寺、圓滿寺等あり、神崎川は淀川の分流にして豊島郡を經て池田川に會し尼ヶ崎吹田間に水運の便あり又村内に古池あり泪池と稱す昔し此の池畔に惡七兵衛景清の叔父大日坊なる者住めり壽永の役景清八島より逃れて茲に來り大日坊の爲めに隱匿はれ居りしに一日大日坊の擧動怪しきを見て源氏方に訴人するものと思ひ誤り景清大日坊を殺して其血刀を此池に洗ふ後ち景清は其過ちを悔い池水を汲みて叔父の靈を弔ひたりとて俗に之を景清の泪池と云ふ去れど吹田近傍は一体

櫻あり又其山麓を淺茅ケ原と云ふ能因法師の歌あり左の如し

山里の春の夕ぐれ來て見れば入相の鐘に花ぞ散りける　能因法師

淺茅原まとふ黒髪さのふまで誰が手枕の上に置きけん　同　上

○茨木村　は島下郡役所の所在地にして戸數六百八十戸、人口三千五百餘人、市街の西に昔の茨木城あり福島某の築く所にして中川瀨兵衛、片桐且元等相尋で之に居りしが後ち廢城となり今は全く水田と變じて其跡をだも留めず又村内に梅林寺あり中川瀨兵衛の香華院なり

總持寺　は茨木の東北十餘町字總持寺村に在る巨刹にして眞言宗、寛平年間藤原高房の草創なり元龜の頃兵燹に罹りて堂宇燒失せしも唯り本尊のみ火中に在りて炎燒すること無し慶長八年豐臣秀頼堂宇を再建し片桐且元をして之が奉行たらしむ、寺域廣濶、堂宇壯嚴なりしも今は太く衰頽して其觀昔日の如くならず



○大阪市　は日本三都の中特に商業の繁盛を以て知られたる大都會にして廣袤凡そ一里四方之を四區に分ち南區、北區、東區、西區と云ふ、市坊五百二十、戸數九萬五千八百餘戸、人口四十八萬四千人（内南區十四萬五千四百、北區八萬四千三百、東區十一萬八千一百、西區十三萬六千二百人）淀川は市街の北部を貫流し分れて安治、木津、尻無の三川となり其他市内を縦横に貫通する溝渠は無數にして實に二百餘の橋梁を有す而して其西には大阪灣ありて船舶の出入繁く鐵道は東は東京、西は岡山以西に通じ其他大阪鐵道、阪堺鐵道ありて旅客の往復忙はしく市内には巨商豪家軒を聯ね其一年の取引高は常に三府の首位を占め全國物價の變動亦大阪の商況如何に由來するもの多し、市内商業の盛んなる所を心齋橋筋とし高麗橋通り、淀屋橋筋、本町等之に亞ぐ又道頓堀には五座の劇場あり千日前には觀物、寄席等櫛比して其賑ひ云ふべからず北郊三番村近傍には凌

雲閣、鶴の茶屋、車茶屋其他の茶亭多くして遊人常に絶えず、西區には大阪府廳、控訴院、川口居留地あり東區には兩本願寺、商業會議所あり其東端は大坂城にして今第四師團の本營たり、南區には高津ノ宮、新清水寺、難波停車場、湊町停車場あり、北區には天滿天神社、中ノ島公園、豐國神社、地方裁判所、造幣局、商品陳列所あり又川口には商船會社ありて中國、四國、九州の各國へ日々滊船の解纜するあり今ま市内重立たる遊覽地を擧ぐれば

**大阪城**　は市の東端に在り元は眞宗本願寺の居城にして石山城と名く天正十年豊臣秀吉之を築き其周圍一里、大手、京橋、青屋、玉造の四門を開き石疊高く濠渠深し古へ七層の天主閣ありしも元和の兵燹に罹りて燒亡し成辰の役また殿堂を燒失して今は僅かに本丸のみを存す現今は第四師團の本營にして城南に練兵場あり城北に砲兵工廠あり銃砲、彈藥其他の武器を製造し頗る精巧にして工業日を逐ふて隆盛なり



**生國魂神社**　は梅田停車場の南一里餘、東成郡生玉にあり官幣大社にして生國ノ神、足國ノ神を祭り永祿年間大物主命を合祀す、社殿は昔し難波崎に創建せしを天正十一年今の地に遷坐す境内廣く社殿美にして參詣人絶ゆることなく社地には數十株の櫻花を栽ゑ春風駘蕩の候は雲霞を置き茶亭、割烹店多く又正門を出たる處に北向の天神祠あり梅田停車場より華表前までの人力車賃は七八錢なるべし

**高津神社**　は生國魂の北三四町高津町に在り府社にして仁德天皇を祭り古へ東成郡比賣古曾神社の境内に在りしを天正十一年今の地に移すと云ふ社地は一堆の丘陵にして蒼々たる老松蹊路を擁し本社は南面して其結構また嚴整なり本社の左に舞臺あり茲より眺むれば大阪市街は一眸の中に集まり數萬の人家足下に迫り幾百の煙筒天を衝き宛も氣球に乘りて市中を一瞰するの思ひあり殊に雪の旦は其眺望絶佳にして茲に觀雪の宴

を張る者あり、本社の東數町にして菊園あり梅ヶ辻と云ふ又一二町にして梅屋敷あり其南北を桃谷と稱し田圃は一圓の桃林にして花時雅客の遊觀する處とす、桃谷には產湯樓其他二三の割烹店あり

中之島公園　は北區中之島の東端難波橋畔に在り園内に豊國神社あり て豊臣秀吉を祭り其側らに明治紀念碑、能樂堂幷に自由亭、洗心館等の割烹店あり園は廣きに非ず且樹木少なくして公園としては其眺めに乏しきも盛夏の頃は難波橋上に納涼の客群集し橋下大川の流には數百艘の小舟を泛べて涼風を迎ふるありて其賑ひをさ〳〵京都四條の納涼に讓らず亦此地の壯觀なり

天滿天神社　は北區天滿に在り本社には菅原道實を祭り末社には蛭子、猿田彦、手力雄幷に野見宿禰等を祭る社殿壯麗、境内廣寬にして常に露店鱗次として相並び晝夜ともに遊人群集す昔し天曆の頃此地の北方に天滿山あり里人其叢林中より靈光の發するを見て祠を其地に營み後ち寬文年中今の地に遷坐すと云ふ、毎年六月廿五日大祭を執行す之を天神祭りと稱し神輿を舟に載せて大川を下り無數の提燈、篝を點じて之を送迎す其壯嚴筆紙に盡し難く實に大阪第一の賑ひなり

櫻の宮　は淀川の東堤、造幣局の對岸にありて東成郡都島村に屬す大阪櫻花の名所にして堤の右に櫻ノ宮あり故に地名とす一簇の老松社殿を擁し數百株の櫻花は堤上に散在し淀川の清流を隔てゝ造幣局の西洋館を望み稍や東京向島の趣きあれども其風景は彼に及ばざると遠し花候に至れば男女此處に集まり來り花に醉ひ花に狂す亦一個の樂境なり

天保山　は梅田停車場を距る凡そ二里安治川河口に在り天保年間海を埋め山を築きて砲臺を設け後ち此地に燈臺を建設す高さ五丈二尺燈光は白色にして十二海里に達すと云ふ、近年此處を公園地となし新たに桜、櫻の類を栽る又其海濱を以て海水浴場に充つ海水浴旅館は海濱院を第一とし其他二三の料理屋あり梅田より人力車賃十五錢

〔旅店〕　例に依り大阪市内の旅店を掲ぐれば左の如し（商人錄に據る）

◎大阪市内旅人宿一覽

自由亭（草野きみ）北區中之島一丁目
花屋（壷井秀吉）同　三丁目
せん崎（專崎きやう）同　北濱三丁目
環龍館（後藤玉城）同　中之島五丁目
紫雲樓（平川善右衛門）東區今橋四丁目
きた川（北川芳助）同區大川町
竹式（寶田寅之助）北區北濱一丁目
岸澤屋（岸澤彌吉）南區大和町
丸萬（西村半助）同　心齋橋筋一丁目
松屋（内藤與兵衛）同　道頓堀筋
桝屋（桝市兵衛）同　日本橋筋一丁目
花外樓（德光伊八）北區北濱一丁目
錦波樓（西村榮助）北區北濱四丁目
山鶴（矢木喜兵衛）東區島町一丁目
竹田屋（武田藤十郎）北區樋上町
加納屋（野村榮助）東區伏見町三丁目
柏屋（岩岡喜四郎）同　本町一丁目
備忠（豐田忠兵衛）同　大川町
鈴木屋（鈴木庄左衛門）同　備後町二丁目
大八（古寺かち）同　本町一丁目
松卯（伊藤宇兵衛）同　大川町
宮もと（宮本九平）西區長堀橋北川岸
駒井屋（駒井喜十郎）東區安土町二丁目
柳屋（竹山猪之助）同北久太郎町一丁目

〔名物〕　大阪市の名物として特書すべきものは紡績糸、木綿類、煙管、淀屋橋煙草入、鼈甲細工、硝子細工、玩弄物、砂糖、昆布、粟おこし、飴、奈良漬、煙草、銅版石版印刷物等なるべし



●神崎停車場●（兵庫縣攝津國河邊郡小田村に在り）

○神崎村　は停車場の東北凡そ十町、神崎川の西岸に在り戸數百二十戸、人口六百四十人許り今は自治制に據りて他村と合し小田村の中に屬す古へ此邊は西國街道の繫船場に當りて市街殷賑を極め又幾多の遊女あり夫の一休和尚と和歌の問答を爲したるより名高き江口の君も亦此地の遊女なりしと云ふ、神崎停車場より南は尼ヶ崎北は伊丹池田より寶塚に至る阪鶴鐵道あり伊丹池田は共に清酒の釀造を以て有名なる地にして伊丹の東に伊名寺あり池田の北に大廣寺あり又伊丹より小濱、生瀬を經て有馬溫泉に至るの道ありて其距離四里二十町なり

●西ノ宮停車場　（兵庫縣攝津國武庫郡西ノ宮町に在り）

○西ノ宮　は武庫菟原郡役所のある所にして戸數二千五百餘戸、人口一万二千一百餘人此地も亦清酒の釀造を以て名高く其他愚美酒銀行、釀

酒會社等あり町より五六町を距る海濱を打出ノ濱と云ひ昔し神功皇后三韓を征伐せられ歸朝の後皇子を產み給ひしは乃ち此處なりと言傳ふ又市街の北に聳ゆるを兜山其西に連なれる山嶽を武庫山(六甲山)と云ふ武庫山の南麓蘆屋村は古へ蘆屋の里と稱し猿丸太夫の墓、業平の邸趾等あり

鳴尾の里　は大字鳴尾の地を云ふ亦古歌多き勝地にして鳴尾の泊、鳴尾の浦、鳴尾の沖など皆著名なり又此東を小松崎と云ふ

大國主西神社　は俗に西ノ宮の蛭子と稱へ縣社にして市街の西北森林鬱蒼たる間に在り社地廣寬にして池あり矼あり本社には大已貴神を祭る毎年一月十日大祭を執行し是日賽する者は一年の福を授かると言傳へ大坂、神戸より參詣人群集し境內爲めに立錐の餘地なきに至る亦神戸大坂間に數回の臨時滊車を往復せしむ所謂西ノ宮の十日蛭子是なり

御前の濱　は西の宮の海濱を云ふ　往古神功皇后の三韓より凱陣し玉へる時筑紫より此濱に着船し給ひたりと云ふ、御前の濱、御前の沖共に



古歌多し尤も和歌には又之を廣田の濱と詠じたるものあり

廣田神社　は西ノ宮の北十二町廣田村にあり官幣大社にして天照太神の荒御魂を祭り神功皇后攝政元年の創建なりと云ふ社地は一圓の小丘にして樹木繁茂し社殿も亦壯麗なり

●住吉停車場　(兵庫縣攝津國原郡住吉村に在り)

○住吉村　は御影町より有馬に至る街道に當り戸數六百餘戸、人口三千二百餘人村內鐵道線路の傍らに住吉神社あり故に村名とす住吉神社は神功皇后攝政中の創建にして底筒男命、男筒男命を合祀す社殿壯嚴ならざれども古へより有名なる神社にして賽人絕えず、其南五六町に御影町あり此地は淸酒の產地を以て名高く又御影山には花崗石を產出し俗に御影石の名あり御影山は停車場の西北に在る小丘の名にして皆し住吉大明神此山に影向あり故に御影と云ふとぞ

岡本梅林　は住吉より東北半里許り岡本村に在り山麓民家より山の中

腹に至るまで一面の梅林にして花候に至れば山上に數軒の掛茶屋を設けて客を待つ山に登れば東は尼ヶ崎、大阪灣、西は神戸、淡路島等を遠望し紀伊の青山は雲と聯なり山海の眺め共に佳なり

○有馬温泉　は關西第一の温泉場にして住吉を距る正北三里十町有馬郡湯山町に在り神戸よりは有馬街道を經て谷上唐櫃等を過ぎ有馬まで里程五里十五町、神崎停車場よりは同く六里、故に西よりする者は神戸より赴き東よりする者は神崎より赴くを善しとすれども住吉より六甲山を越ゑ瀧ノ川の流れに沿ひて同地に到る方距離最も近くして其途中亦風景の賞すべきものあるを以て編者は鐵道旅客に向つて住吉にて下車するを勸むるものなり、有馬温泉は遠く神代より涌出し後ち人皇四十五代聖武天皇の御宇に至り僧行基此地を再興す其後堀河天皇の御宇承徳元年及び後鳥羽天皇の御宇建久二年の兩度に淫雨洪水ありて人家を流失し文祿五年大地震の爲めまた人家を破壞する等屢〻天災に罹りて中絶せしも其年豊



臣秀吉時の五奉行に命じて温泉浴場を修築せしめたる以來今日まで年を逐ふて繁盛を來し今は戸數三百五十戸、人口一千八百人を有す、温泉地は海面を抽くこと一千一百五十五尺其三方は樹木蓊欝たる山嶽を環らし北の一方のみ僅かに開け三田を經て丹但地方へ通ずるの道路あり土地は山崖に沿ひ一段は一段より高く人家稠密、街衢狹隘、冬季は寒威頗る强けれども夏季は常に凉風を蓄へ寒暖計は九十一二度の上に昇らざれば避暑には最も適當の地なり、近年温泉取締所を設け其浴室は混浴にして幕ノ湯、二ノ湯、三ノ湯等の區別あり浴場は去る明治十六年西洋風の建築となせしが去る廿四年また之を日本宮殿風の建物に改築し其入浴料は幕ノ湯一回十錢、二ノ湯二錢、三ノ湯壹錢にして浴客は宿屋より導かれて入浴するを常とす又其泉質は多量の鹽化那篤僧母を含蓄し之を嘗むるに鹹味あり且毎に酸化鐵游離して茶褐色を呈し手拭浴衣の如きは忽ち褐色に染まり入浴の屢〻なる時は其爪先まで褐色に變ずる事あり効能は皮膚病、腺病、中

風、婁麻質斯、貧血性、慢性神經病、潰瘍等に宜しく口瘡、咽喉腐爛等には含嗽して驗あれど肺炎、肋膜炎、腦病等には却て害ありと云へり偖有馬温泉宿は昔し建久二年仁西上人此地へ和州吉野より數名の僧俗を連れ來り十二坊を營みて温泉を守らしめたるより今猶ほ坊と稱するもの多く孰れも二層三層の高樓を搆へて客を待つ其家號左の如し

| | | | |
|---|---|---|---|
| 奥之坊（淺野仙太郎） | 二階坊（佐々木孝太郎） | 池之坊（久武直之助） | |
| 御所坊（金井四郎兵衛） | 中之坊（梶木源治郎） | 尼崎坊（岸本久吉） | |
| 角坊（宇保はる） | 北之坊（風早喜右衛門） | 若狹屋（田中林兵衛） | |
| 大門（佐野時之助） | 稱宜屋（増田兵右衛門） | 休所（杉本松太郎） | |
| 清水屋（清水靈造） | 刀根屋（刀根あい） | 福島屋（廣岡忠兵衛） | |
| 立花屋（川島治助） | くし屋（杉本時松） | （以下數軒あり） | |

旅籠料は一日上等五十錢以上、並廿五錢なれども自炊を爲さんとする浴客には座敷のみを貸與する事あり其座敷料は一等席一週間一圓二十錢、二等席一圓、三等席七十錢、四等席五十錢、五等席三十五錢にして貸蒲團



料一夜一枚に付五錢より一錢までを申受くべし、又近傍に有馬六景なるものあり皷ヶ瀧の松嵐、落葉山の夕照、温泉寺の晩鐘、功地山の秋月、有馬富士の暮雪、有明櫻の春望即ち是なり其他鳥地獄、蟲地獄、落葉山古城趾、温泉神社等の名所あれども玆に詳記せず、名物は有馬筆殊に名高く竹細工、籐細工、墨、湯染手拭等之に亞ぐ、竹細工は近年益〻精巧を極め外國へ輸出するもの其價額五萬圓に降らず又二階坊主人佐々木孝太郎氏近頃此地の白土を採りて陶器を製造し之を有馬燒と稱す、神戸より有馬まで二人曳人力車賃壹圓、住吉停車場より同じく駕籠賃午後二時までは六十錢、二時過ぎは八十四錢、二時以後住吉を發すれば駕輿丁は其日有馬に一泊せざるを得ざるが故に午前の賃金に四割を増すを通例とす

●三ノ宮停車場　（兵庫縣神戸市元町通一丁目に在り）

○三ノ宮　は神戸市の東端にある神社の名にして停車場は其社に近きを以て名とせり神戸市の東部及び外國人居留地等に往來する旅客は皆な

此の停車場にて上下し其人員却て神戸停車場よりも多き事あり

生田神社　は三ノ宮停車場の北僅かに五町生田の森に在り官幣小社にして稚日女尊を祭り神功皇后攝政元年の創建なりと云ふ此地は壽永年間源平の古戰場にして生田川は直ちに其東隣に在りしを近年開鑿して道路となし其水流は東に移して新生田川と稱す、境内に旌の梅、梶原の井、數盛萩あり又源平兩家に由緣ある寶物を藏す

布引の瀧　は三ノ宮停車場の北半里葺合村布引山の麓にあり（三ノ宮より人力車賃五錢）瀧は新生田川の水源にして二流あり上にあるを雄瀧と云ひ直下十五丈、下にあるを雌瀧と云ひ直下七丈三尺雌瀧は岩角に遮られて瀑水の奔下すること稍や緩なり山上茶亭多く山下は整然たる一市街を爲し割烹店商家軒を並ぶ街の左傍に布引温泉あり泉質は冷泉にして多量の炭酸分を含み夏季に至れば浴客群集す、入浴料は幕湯一回十錢、總湯二錢にして其近傍常磐舍、富貴樓、菊水等の料理屋にては入浴の案内を爲し又客をして宿泊せしむ宿料は一日五十錢以上なり



摩耶山　は六甲山の西に聯亙せる山脈にして三ノ宮の東北凡そ一里廿町其麓上野村より登り二十餘町にして數百級の石階重疊し山頂に至れば有名なる天上寺あり寺は法道仙人の開基、大化元年の創建にして本堂に十一面觀世音を安置し寺内別に摩耶夫人堂、開山塔あり毎年夏季暑を山上に避くる者多く寺にては其客殿を貸して宿泊せしめ又精進料理を供す歸路は石階の中腹より右折し菅合村に出るも可なり

## ●神戸停車場　（兵庫縣神戸市東川崎町と相生町に跨がる）

○神戸市　は五港の一にして其繁盛殷賑なる敢て横濱港に讓らず所謂神戸港は西和田岬より東小野濱の間にして灣内水深く神戸停車場には棧橋を設け市街は後に山を負ひて東西に長く市坊一百廿五、戸數三萬六千餘戸、人口十四萬一千五百人、湊川其中央を横ぎり河東を神戸と云ひ河西を兵庫と云ふ神戸には兵庫縣廳、市役所、神戸地方裁判所、神戸稅關、商業

會議所、小野濱造船所、日本郵船會社支店其他各會社銀行あり兵庫には川崎造船所、山陽鐵道會社、米穀輸出會社、日本精米會社、米商會所等あり、外國人居留地は榮町元町の東端より生田川迄を限りとし市街井然高樓軒を連ぬ又市街の最も殷賑なるは元町通り、榮町通り、多門通り等にして殊に元町通りは商家櫛比し往來雜沓を極め夜は電燈煌々として白晝を欺くなど實に市内繁昌の中心と云ふて可なり例に依り市内重立たる旅人宿(重に滊船宿を兼業とす)を擧ぐれば左の如し

自由亭（……）神戸字治川西側
常盤樓（前田喜兵衛）同　上
東常盤（天川もよ）同　山本通四丁目
常盤屋（田中はる）同　五丁目
常盤花壇（前田はな）兵庫湊町
青羽花壇（魚谷善助）同　宮内町
後藤（後藤勝造）神戸海岸通三丁目
花屋（西村雅貫）同　榮町三丁目
常盤舍（中川榮治郎）同　海岸通四丁目
備前屋（大森榮助）同　榮町四丁目
龍谷（龍谷伊三郎）同　海岸通二丁目
蓬萊舍（安藤善作）同　三丁目
紀伊國屋（加納宗三郎）同　四丁目
鹽喜（田中儀助）同　榮町三丁目
安藤（安藤嘉左衛門）同　海岸通五丁目
筏松（筏まち）兵庫宮内町



湊川神社　は別格官幣社にして楠正成を祀る、同市多門通二丁目に在り正門内に一の碑あり嗚呼忠臣楠氏之墓と刻す之は水戸黄門光圀の建設にして即ち黄門の筆なり本社は頗る壯麗にして參詣日夜雜沓す境内に劇場、寄席、茶店揚弓等あり又毎夜露店市を爲せり此地第一の賑ひなり

諏訪山湯泉　は神戸停車場の北十二町、山腹に諏訪神社あり故に山の名とす山は甚だ高からずと雖も之に登れば兵庫神戸の両市街は悉く眼中に落ち港内碇泊の船舶、市内の勝蹟等一々指點すべし温泉は山の東部より涌出し泉質は炭酸泉にして温浴、冷浴の設けあり割烹店には本常盤、西常盤、中常盤、東常盤、播半、一力亭、山海樓等ありて皆な入浴者の案内を爲す、痛風、慢性僂麻質斯、胃病、瘰癧等に効能ありと云ふ

再度山　は諏訪山の後に在り山上に觀音堂あり如意輪觀世音を安置す此寺は行基菩薩の創建なり後ち延暦年間弘法大師二回此山に登臨せしを以て再度山と稱す陰暦廿一日大師の緣日には之に參詣する者多し

# 北陸鐵道

●米原停車場（滋賀縣近江國田坂郡なり）

○米原　は東海鐵道の部に載たれば茲に略す

●長濱停車場（同上）

○長濱町　は米原を距る二里十餘町、北陸の要路に當り頗る頻繁を究むる港市なり此地は古へ今濱と稱せしが豐太閤茲に居城し遂に長濱と改む、戸數一千四百餘戸、八口七千餘人を有し郡役所、區裁判所、郵便電信局、警察署、直間稅分署、製絲會社、水運會社、共同運搬會社、長濱病院等あり豪商軒を列ね港内には漁船和船共に織が如く百貨輻輳し頗る繁盛の地たり、物産は濱縮緬、絹、奉書紬、天鵞絨等なり

長濱城趾　は湖岸に在り織田信長江州を略定せしめ秀吉を此地に封じ城を築きて江北の鎭府とす後慶長年中德川氏内藤某を封ず



八幡神社　は字神前町に在り、坂田八幡と稱す、延久元年源義家の創立にして後二條帝の勅願所なり、境内廣く社殿壯嚴にして末社數宇あり毎歳九月祭典を執行す長濱祭とて頗る盛なり又神輿は豐太閤の營みしものにして一奇觀たり

智善院　寶生山勝安寺と號す天台律宗坂本西敎寺の末にして古へ小谷山に在しを豐太閤此に移せり本尊彌陀如來は太閤播磨征伐の時書寫山より携へ歸りし所なりと、又長濱町には巨刹數多あり

●高月停車場（滋賀縣近江國伊香郡なり）

○高月村　は長濱を距る一里餘

●木ノ本停車場（同上）

○木ノ本村　は此道の要路にして郡中の名邑たり、郡役所、警察署及び區裁判出張所、郵便局、直間稅分署等ありて繁盛の地たり

淨信寺　は大字木ノ本に在り、白鳳年中僧祚蓮の草創なり本尊地藏尊

は南天竺龍樹菩薩の作にして軀長六尺餘あり木ノ本の地藏尊とて世に有名なり此地藏尊は古へ難波の浦に漂着せしを僧祚蓮之を引揚げ一宇を建立し後此地に遷す弘安年中僧空海地藏經三卷を手寫して納む菅原道實も亦勅を奉じて此に詣る堂宇壯嚴にして賽客常に絶ることなし

中川清秀墓　は大字黑田の大岩山に在り中川瀨兵衛は織田信長の功臣なり、賤ヶ嶽の役に豊太閤命じて此に北軍を拒がしむ時に佐久間盛政急に襲來る清秀憤戰して死す後天和中清秀の末孫久恒此に碑を建てり

●中ノ郷停車場　（同上）

○中ノ郷　は木の本を距る一里半餘

余吾湖　は停車場より十餘町余吾、下余吾、八戸の三村に誇り一大湖にして湖岸の漁村鬟靆の間に隱見し頗る勝景たり古來和歌の秀詠多し湖中鯉鮒鰻等を產せり

賤ヶ嶽　は余吾湖の西に峨々として聳ゆり余吾、伊香具の二村に連る



頂上まで凡十二町餘、山上より余吾湖を一瞬し亦勝地たり猿ヶ馬場、蛭谷其他小字あり古へ天正の役に賤ヶ嶽の七本鎗とて童子も能く知る所なり近時有志者謀りて此に其の碑を建り

●柳ヶ瀨停車場　（同上）

○柳ヶ瀨　は中ノ郷を距る一里半に過ぎず

毛受勝助の墓　は大字池原にあり停車場を距る數町、勝助は織田信長の國老柴田勝家の小姓頭たり智勇義孝共に備り賤ヶ嶽の役に北軍の敗るや茲に至り敵軍の襲來甚だ急なり勝助主人の金幣の指物を請て勝家を落し一人止まつて遂に茲に死す

●疋田村停車場　（福井縣越前國敦賀郡なり）

○疋田村　は柳ヶ瀨を距る二里餘、一小村落なり

●敦賀停車場　（同上）

○敦賀町　は北海の要港にして市街頗る稠密戸數三千二百餘戸、人口

一万五千餘人を有し元敦賀縣を茲に置り港内には船舶常に輻輳し金ケ崎には宏壯なる長橋を設け商業殊に繁盛にして富饒の地たり

氣比神社　は東入口にあり、官幣大社にして御食津大神、仲哀天皇、神功皇后を祭り亦其他四座を合祀す社殿壯觀にして末社數宇あり當社は由緒ありて其履歷頗る多し

氣比の松原　は字松島にあり一勝景にして万葉集にも此地を詠せし秀吟夥多あり古へ渤海使の客舘ありしと云ふ林中に武田耕雲齋己下數十基の墓あり

金ケ崎宮　は金ケ崎に在り此地は南朝の古城趾にして新田義顯等の據たる所なり本社は尊良、恒良の二親王を祀り宮幣中社に列す兩親王の御事蹟新田義顯之に竭せし事足利尊氏の弑逆等の遺事頗る多し近時社殿を修營し壯嚴美觀を究む遍額は有栖川宮殿下の御筆なり

西福寺　は松原村大字に原あり應安中僧良如の開基にして西福寺は後光嚴帝の勅號なり此地は大原山の麓にして櫻樹林泉ありて一奇觀の地たり又當寺には什寶夥多り



○杉津驛

●杉津停車場（同上）

は敦賀を距る八哩半海岸に近き國道の一小驛なり

●今庄停車場（同南條郡なり）

は杉津を距る七哩半餘、

○今庄驛

は今庄を距る四哩半、今庄と共に寒村なり

●鯖波停車場（同上）

○鯖波驛

●武生停車場（同上）

は郡中の大都會たり始め國府を置たる地にして元府中と云ふ、戸數三千六百餘戸、人口一万四千三百餘人を有し人家稠密市街頗る繁盛の地なり就中鍛冶を以て業とする者多し

○武生町

總社大神　は字幸にあり大己貴命を祀る天平十一年の創建にして聖武

天皇の勅祭なり境内廣く社殿壯麗なり後陽成帝の震翰其他什寶及社領寄附せし朱印黑印の尙書等數多を藏す

●鯖江停車場　（同今立郡なり）

○鯖江町　は元間部氏の城下にして戸數七百五十餘戸、人口三千七百餘人郡役所其他官衙ありて殊に繁榮をなせり

常照寺　は眞宗にして俚俗鯖江の御堂と稱し往古開祖如覺師より今に其血脈を傳れりと云ふ

舟津神社　は市街を距る南數町に在り孝元天皇の皇子四道將軍大毘古命を祀る成務天皇四年の勸請なり後圓融天皇の震筆其他數多の寶物あり

●大土呂停車場　（同上）

○大土呂　は鯖江町を距る五哩、國道の一小驛なり

●福井停車場　（同福井郡なり）

○福井市　は北陸道中金澤市に次ぐ大都會にして戸數一万に近し人口



四万二千餘人を有し縣廳其他官衙、學校、病院、銀行、新聞社等あり又百貨一として備らざるはなし商賈軒を列ね市街最も繁華なり當城は元柴田勝家の據城にして北の庄と云しが後慶長六年結城秀康此に封ぜられ福井と改む

足羽山　は市街の南隅にあり石階を登りてより左右に酒樓軒を列ねり招魂社は戊辰の役戰死者の靈を祀る其他社殿堂宇所々に點々す山頂に男大迹皇子の石像並に碑文を建つ樹木蓊鬱として櫻楓を交へ殊に光景たり花期來遊する者頗る多し

足羽神社　は足羽山の中腹に在り男大迹皇子を祀り外に四座を合祀す男大迹皇子は即ち繼體天皇の御事なり今縣社に列す

●森田停車場　（同吉田郡なり）

○森田村　は福井市を距る一里餘中間に九頭龍川あり舟橋を架す往時柴田勝家の架せしめし橋なりと云ふ

永平寺　は南志比谷村永平寺山の麓にあり寛元年中高祖道元和尚古寺の趾を復興し大伽藍を造營すと禪宗曹洞派の本山にして曾て有名なる巨刹なり道元は村上天皇九代の裔久我內大臣通親の四子なり嘉永年中傳東國師の諡なを賜ひ又今上天皇陛下より承陽大師の號を諡り賜ふ

●新庄停車場　（同上）

○新庄　は森田を距る二哩餘にして一小村落なり

●金津停車場　（同坂井郡なり）

○金津　は三國を距る二里拾餘町人家稠密にして郡中の一都市なり

三國町　には郡役所其他官衙あり人家稠密にして戸數二千五百餘戸、人口一万一千餘人を有し百貨輻輳し殊に繁華を究む、坂井港と云ひ河口を銚子口と云ひて汽船出入し又福井市へは川舟常に往復せり、蘆原温泉は此を距る東一里半

三國神社　は鄉社にして繼體天皇外一座を祀る、此地は曾て天皇の未



だ皇子たりし時在せし舊蹟にして多く寶物を藏す、境內古樹繁茂し樹間より市街、港口及び北洋を一望し風景最も佳なり

●細呂木停車場　（同上）

○細呂木　は金津を距る三哩

●大聖寺停車場　（石川縣加賀國江沼郡なり）

○大聖寺町　は街道の要衝にして郡中の一都邑なり戸數二千六百餘戸人口一万有餘人を有し郡役所其他の官衙あり又九谷陶器會社等あり市街頗る頻繁にして盛況を極め舟楫の便ありて百貨備はれり、金澤市を距る十三里十六町

寶相院　は字下屋敷に在り有名なる巨刹にして万治四年の創建なり

江沼神社　は西の方錦城山の麓に在り、鄉社にして前田利治の靈と菅原道眞とを合祀す境內に築山泉池あり老樹蓊鬱とし奇石磊々として風致あり、錦城山は往古大聖寺の城趾にして山上に壘壁の趾今尙は存す

菅生石部神社　は東の方大字敷地に在り、縣社にして彦火々出見尊外二座を祀る俗に菅天神亦敷地天神と稱す末社には八幡宮、天満宮等あり、寶物には順徳帝御寄附の古刀、菅原道眞の筆外に古書數多あり

篠原古戰場　は大聖寺を距る北一里半、海岸にして青松蒼々として光景たり一の古墳は齋藤實盛の首塚なり曾て壽永の戰ひに手塚太郎に討れたりし地にして亦古池あり首洗池と云ふ

山代温泉　は大聖寺より東南一里餘、山中温泉は同所より西南一里餘、共に靈泉なり、亦鹿島、千束瀧等は光景の地にして納涼に適す（同上）

○動橋（いするぎはし）　●動橋停車場（同上）

は大聖寺を距る四哩半、國道の一驛なり

那谷寺　は驛を距る一里餘、古刹にして境内頗る勝景なり、菅寺には多くの什寶を藏す

片山津温泉　は驛の西北一里に在り



○小松町　●小松停車場（同能美郡なり）

は古へ村上義明の城市たり、郡役所其他の官衙あり戸數三千六百餘戸、人口一万四千餘人を有し北陸道中屈指の驛にして頗る繁盛を究む、絹、紬、葭簀等を名物とす

多太神社　は字上本町に在り、縣社にして衝梓等乎留比尊命を祀る、舊社にして武烈天皇五年の鎭座なりと又當社に實盛の兜並に錦の直垂其他の什寶を藏す

梯神社　は大字上牧に在り、郷社にして菅原道眞を祀る當社には菅公の眞蹟其他夥多の寶物を藏す

安宅關舊趾　は西北一里許に在り、古へ奥州の官道にして關を据りそ詰し源義經の容められしも此地なり曾て童子も能く聞知る所たり

粟津温泉　は小松より西南二里餘粟津村に在り

○尼ヶ崎町

●尼ヶ崎停車場（兵庫縣攝津國河邊郡なり）

は元と櫻井平松氏の封市にして河邊郡の南端神崎川の西にあり、戸數二千七百五十餘戸、人口一万三千七百餘人、溝渠四通舟楫に便にして市街稍や繁盛なり、此地に尼ヶ崎紡績會社、尼ヶ崎銀行、貴布禰神社、木奥寺、栖賢寺等あり其他名所古蹟多く所々に散點す

○大物村

●大物停車場（同上）

は尼ヶ崎の東端なり當村に大物神社在り、市杵嶼命、瀛津嶼命、湍津嶼命を鎭座す、此地を大物浦と呼び往昔平治年間平清盛嚴島に詣らんとし遇々暴風に遭ひ嚴島天女を祈りて幸ひに無難なることを得たり依て之を茲に祀れりと蓋し源義經の風難に遭るも即ち此處なりし

●長洲停車場（同上）

は神崎の西に在りて元と一小村落に過ぎず

○塚口

●塚口停車場（同上）

は神崎を距る北行一里半餘に在り

○伊丹町

●伊丹停車場（同上）

は郡中の首都にして郡役所所在の地也、戸數一千八百餘戸、人口七千三百餘人を有し古來釀酒を以て名あり豪商軒を並べ百貨備はらざるなし

野ノ宮祇園　は字天王町にあり往古豊櫻崎の宮と稱し素盞烏尊を祀る延喜四年の鎭座にして善樂寺と號す後久安六年源爲朝暫く此に寓し修補をなして金剛院と改む時に年十三、後天正の兵燹に烏有に屬し豊臣秀頼亦之を再修す今建る所は貞享年間の修營五して最も舊社たり

○池田町

●池田停車場（大坂府豊嶋郡なり）

は猪田川の東岸に位し戸數千五百餘戸、人口五千三百餘人

を有し郡役所、警察署、區裁判所等あり頗る繁榮の地にして其頻繁なる
僻阪に稀なり亦北方の山村に産する物皆此地を經て他方に輸送するに皆
池田産の名を以てす又此より釀出する酒は古來伊丹と共に著名なり
呉織神社　は町の南端に在り、漢織神社は北口に在り、古へ呉織、漢
織始めて着せし所なりとて唐船ケ淵と云ふ其他之に關する舊蹟數多あり

●中山停車場　（兵庫縣攝津國阿邊郡なり）

○中山村　は池田町より西行し距ること一里十餘町

中山寺　は中山の南麓にあり眞言宗にして用明天皇の二年厩戸皇子の
開基なり本尊は十一面觀世音を安置し西國巡禮三十四番の札所とす、山
上には櫻樹多し此より遙かに臨めば東南に西の宮尼ケ崎及び大坂灣大坂
城等を眺望し一帶の武庫川は白蛇の如し風致殊に富り

●寶塚停車場　（同上）

○寶塚　は中山村を距る西南一里餘にして達す



寶塚温泉　は六甲山脈の東麓武庫川の南岸字伊子志村にあり新開の鑛
泉にして多量の格魯兒那篤留母（鹽分）を含み脚氣、貧血性、婁麻質斯、
子宮病其他疾病に効能ありと云ふ旅舘數軒ありて皆崖の中腹に家を設け
眺望最も宜し夏日は浴客充滿せり、宿料一日上等廿五錢已下、下等は十
八錢、又此地より生瀬村を經て有馬に至る道あり

清澄寺　は中山寺奥院の西南字米谷の山中に在り寛平五年宇多天皇勅
して淨舍を草創し釋迦、彌陀、彌勒を安置せしむ亦本尊大日如來は弘法
大師の作なり境内に荒神、荒神影向榊、加持水、糸櫻等あり、庭園に飛
泉花卉ありて四時佳景あり、

楪葉嶽　は武庫山の支峰にして寶塚の上に峙てり、山間に楪葉窟と云
ふあり、寶塚温泉を距る二十餘町

# 關西鐵道

○名古屋市　●名古屋停車場　（愛知縣尾張國愛知郡なり）
は東海鐵道の部に記載したれば茲に略す

○蟹江町　●蟹江停車場　（同海東郡なり）
は郡中の一都市にして豪商軒を並べ楫舟の便ありて百貨輻輳し頗る繁盛を極む此地は古へ瀧川一益の居城にして今尚は其趾を存す

明眼院　は大治村に在り元と安養寺と號す延曆廿一年の創建にして聖圓上人の開基なり

甚目寺　は甚目寺村に在り、推古天皇五年の創建なり本尊聖觀世音は古へ甚目龍麻呂と云る漁夫曾て魚漁の時網中に出現せる靈軀なりと云ひ常に賽客陸續として絕ることなし

津島神社　は津島に在り縣社にして素盞烏尊、奇稻田姫命外九座を齋祀る弘仁九年嵯峨天皇の勅祭なり

●彌富停車場　（同海西郡なり）

○彌富　は前ケ須新田に屬す、此地は元東海道佐屋廻りの一驛にして木曾川の東岸に在りて海陸共に要路にして人家稠密し旅舍、酒店軒を並べ頗る繁華を爲せり

○彌勒寺　は實地村に在り明應九年の創建にしてト外宗鐘の開基なり、密宗彌勒寺と號す境內頗る眺望に富り

●桑名停車場　（三重縣伊勢國桑名郡なり）

○桑名町　は楫斐川の下流に位し東海道の要津にして一都會を爲せり元と松平越中守の封市にして其城趾今尚は東北に在り、戶數三千五百餘戶、人口一万六千餘人を有し郡役所其他官衙及び病院、學校、銀行等あり豪商高甍を並べり就中米商の取引最も盛なり妓樓は船場町に軒を列ね喧囂を極む港には船舶輻輳なして百貨備はらざるなし

桑名神社　は大字三崎町に在り、天津日子根命外四座を祀る

天武天皇社　は鍋屋町に在り、天皇並に高市皇子を祀る曾て天皇の此地に行幸せられたることは史に詳かなり但頓宮の地は蛎塚楊柳寺の舊地にして同所に菊の井と云る古井あり即ち天皇の御手洗なりと言傳へり

法盛寺　は大字西萱町に在り西本願寺の別院にして阿彌陀堂と稱すと加禎年間親鸞上人の布教所なり

淨土寺　は大字清水町に在り永承四年の創建にして古へ三崎の神官寺と稱す、當寺に本多忠勝並に其臣等の墓墳あり

●四日市停車場　（三重縣伊勢國三重郡四日市町にあり）

○四日市町　は伊勢灣の西岸に位し東海道及び參宮街道に衝り其港灣は水深くして船舶の碇泊に宜しく日本郵船會社の定期航海船常に往復し其他尾參の各地に日々汽船の航海するあり、戸數三千五百餘戸、人口一萬九千餘人を有し、市街は三岳川に沿ひて交通至便にして物貨隨て湊集



し國内最好の商區なり、町内に三重朝明郡役所、區裁判所、市公會所、關西鐵道會社、郵船會社支店、三重紡績會社、製紙會社、郵便電信局、警察署等あり又諏訪神社、東漸寺、光運寺等あり又停車場の傍ら濱田村堀ノ田に濱田城趾あり城は赤堀の城主田原某が應永年間に築く所にして後ち天正年間織田信長の爲めに攻られ終に廢城となり今は僅かに土壘の跡を存す、此地より發する郵船會社汽船幷に小蒸氣船の出帆時刻幷に賃金を掲ぐれば郵船會社汽船は毎日午後四時解纜し賃金は上等四圓五十錢、中等三圓、下等一圓五十錢、熱田行小蒸氣船は午前八時午後二時の二回に解纜し其賃金は上等四十錢、中等廿五錢、下等十五錢、其他津、神社港、大野、紀州各地、大阪、神戸等へ出帆する便船あり、例に依り此地の旅店を擧れば左の如し

濱田屋（伊藤傳六）四日市町字高砂町　美濃喜（岡田喜兵衛）同　字南町
吉高屋（平野彦吉）同　字藏町　白木屋（藤戸清七）同　上
警屋（小林七郎右衛門）同　字稻葉町　十九村屋（森新吉）同　字北町

濱田屋、吉高屋其他の旅店は海岸に船客取扱ひの出張店あり

湯ノ山温泉　は伊勢著名の鑛泉場にして四日市を距る東南五里菰野村字湯ノ山に在り菰野まで三里十二町の間道路は三岳川の左岸に沿ひ傾斜急ならずして能く馬車人力車(乘合馬車賃十錢、人力車賃二十錢)を通ずれども菰野より温泉場まで一里廿四町の間は道稍や嶮峻にして僅かに二人曳人力車を通ず(二人曳人力車賃五十錢、駕籠賃三十五錢)此地は海面を抽くこと一千〇四十四尺、北西南の三方には龍ヶ嶽、釋迦嶽、御在所嶽、鷄足山等の高峯連亙し唯だ東の一方のみ開け伊勢灣を隔てゝ遙かに尾參の平原を望み雲烟謨糊として其景色亦愛すべき所あり氣候は夏暑からず冬寒からず殊に夏日は凉風木の間を洩れて輕く袂を動かし且蚊少なくして蠅を用ふるを要せず伏して泉聲を聽き又蟲聲を聞く等最も閑を消し神を養ふに宜しく唯だ蚋多きに苦しむのみ、鑛泉は微温泉にして常に之を沸し用ふ其質單純にして微かに亞兒加里分を含み無色透明無味、無臭、而し



て特効を有する成分あるに非ざれば却て諸般の疾患に用ひて害なく浴用の外胃腸加答兒、咽喉病等には亦之を飲用して宜しく特に其水土は能く脚氣、肺病患者の療養に適するを以て九夏三伏の候避暑を兼ねて此地に來り遊ぶ者四五千人の多きに及ぶと云ふ、温泉宿は壽亭(瀨古きく)旭亭(伊藤傳左衛門)三杉亭(武藤吉兵衛)の三軒にして壽亭一日の宿料は晝食湯錢ともに二十九錢、席料は八疊一週間三十七錢、六疊二十二錢五厘、四疊半十五錢、他の二軒に於る席料は右に順じて大抵二三錢づゝ安し

●河原田停車場　(三重縣伊勢國三重郡河原田村に在り)

〇河原田　は東海國道の追分より岐れて津に至る街道(所謂參宮道)に當り四日市と神戸驛との中間に在り戸數四百三十戸、人口二千二百十人、村の北端に内部川あり南十町にして鈴鹿川あり又鈴鹿川の南數町高岡村に高岡城趾、高岡神社あり

〇神戸町　は河曲郡の參宮街道に當れる驛市にして河原田を距る南一

里、此地は元と本多氏の舊城市にして戸數六百九十戸、人口三千五百五十人今猶ほ其城市あり驛内、警察署、郵便電信局、龍光寺、飯野神社、等あり

て龍光寺は一に神戸の釋迦堂と稱し寺内に松平廣忠の宅趾、一柳直盛の墓等を存す、旅舍は道具屋善六、桐屋彥七其他數軒あり

○白子町　は神月の南一里二十町、同じく參宮街道の一驛にして戸數一千三十戸、人口五千一百三十八、地は伊勢灣の海岸に瀕し驛内奄藝、河曲郡役所、裁判出張所、警察署、郵便電信局等あり驛の南端字寺家村に子安觀音あり眞言宗にして天平勝寶年中藤原不比等の創建、聖武天皇の勅願所たりしと云ふ寺内に不斷櫻あり古へは此櫻樹四季ともに花を着け開落の遑なかりしとて今猶ほ其名高し、驛内名ある旅店は野島屋武助、紺屋治郎平等にして茲より上野を經て津に至る四里十町なり

●高宮停車場　（三重縣伊勢國鈴鹿郡高津瀨村字高宮に在り）

○高宮　は庄野驛と石藥師驛との中間に在る一村落にして庄野へ十餘



町、石藥師へ二十餘町を隔つ、石藥師には有名なる西福寺（石藥師堂）あり神龜年間僧泰澄の開基にして本尊は一の奇石なり後空海此石に醫王尊の像を刻して開眼供養す又壽永の頃源の範頼上洛の時此の藥師を祈り土中に鞭を挿して去る後世其鞭より發芽せしを蒲櫻と云ふとぞ又高宮字椎山に加佐登神社ありて日本武尊を祭る即ち尊の持ち給ひし笠を埋むる所なりと祭日四月八日賽人群集して甚だ盛んなり

●龜山停車場　（三重縣伊勢國鈴鹿郡龜山町字西町に在り）

○龜山町　は東海道五十三次の一、舊石川氏の城市にして戸數一千六百餘戸、人口七千七百八十人、驛内に鈴鹿郡役所、裁判所出張所、警察署、郵便電信局、龜山公園、龜山城趾、皇太神宮社、眞澂神社等あり又龜山城趾の北に御茶屋山あり高丘にして風光明媚北方は鷄足、冠嶽等の諸山を望み又椋川を瞰下し東に長太、若松の諸浦を遠望す承應三年舊城主石川憲之氏曾て別墅を此山に設けて遊觀の處とし當時八景の勝ありしと云ふ、

龜山城は、天正十七年岡本宗憲の築く所にして石壘、濠塁等猶ほ存す、驛内旅舍は魚屋嘉七、伊勢屋竹次郎、柏屋多吉等なり

能褒野神社　は龜山町の東北三十町（人力車賃五錢）鈴鹿郡田村字女ケ阪に鎭坐し日本武尊を祭る地は高さ二三間面積三千六百餘坪の丘陵にして其後に古松繁茂して林を爲せり此地は古來尊の陵地なりと稱へ來りしが明治十二年内務省之を撿査して愈〻陵所と決定し爾來大に修補を加へ終に社殿を造營して能褒野神社と稱す、按ずるに日本紀、日本書紀共に尊薨去の地を明記せず故に古へより尊の陵所なりと稱へ來りしものニ三にして足らず一は高富村の加佐登神社を以て陵墓と定め一は國府村の西王塚を以て薨所なりと云ひ共に據ころあるもの〻如し而して官此地を以て古への能褒野なりとし終に神社創建の擧あり、社殿は宏壯ならざれども清麗にして嚴整自から神威の高きを覺ゆ

（以下龜山より分岐して津市に至る各停車場近傍の案内を爲す）



○下庄　は龜山の東南一里十四町を隔てたる一小村落にして畫生村一村の戸數四百八十戸、人口二千三百二十人、村内記載すべき名所なし

◎下庄停車場　（三重縣伊勢國鈴鹿郡畫生村字下庄に在り）

◎一身田停車場　（三重縣伊勢國奇藝郡大里村字窪田に在り）

○一身田　は關より掠本、高野尾等を經て津市に至る參宮別街道に衝り津市を距る僅かに一里、戸數八百六十戸、人口四千三百四十八今は自治制に依りて豊野、平野、大古曾、中野の各村と合併す、村内に警察分署、郵便局（一日二回の集配）及び花街等あり旅店は圓城卯兵衛、辰巳屋政次郎、桝屋すて、角屋貞之助等を良しとす又村内に

專修寺　あり眞宗高田派の總本山、見眞大師の開基にして始め嘉祿二年下野國芳賀郡大内庄に創建し後ち後堀河天皇より專修阿彌陀寺の號を賜ひ寛正六年今の地に移すと、祖師堂には見眞大師の像を安し其他阿彌陀堂、鐘樓、山門、太鼓門等あり大祖師堂の左右に菩提樹、枝垂柳あり共に

大師の手づから栽うる所にして始め下野にありしを本堂移轄と共に其根株を分ちて此地に移し植ゑたるものなりと云ふ寺内頗る宏大、本州第一の巨刹にして參詣人常に群集す

●津停車場（三重縣伊勢國津市字榮町に在り）

○津市　は舊と藤堂氏の城市、今は三重縣廳の所在地にして伊勢國の中部、伊勢灣の西岸に位し東阿漕浦に臨み贄崎港を擁し岩田川は其中央を横ぎりて地は參宮街道に當る、市坊八十八、街衢殷賑を極め就中大門町、分部町、伊豫町等を最とし戸數五千八百五十戸、人口二萬七千一百人を有す市内重立たる建物を擧ぐれば縣廳の外に區裁判所、警察本署、市役場、尋常範師學校、尋常中學校、郵便電信局、縣立病院、測候所、第百五銀行、物産會社、精米會社、伊勢新聞社等ありて名産にては綟子、編木綿、紙、安東燒陶器、茄子團扇、杓子餅等を著名とす、津城趾は市街の南に位し今僅かに本丸西丸の石壘を存す永祿年間細野藤敦の築く所にして同十一年



織田信長之を攻取し信昌をして城を守らしむ後ち豊臣秀吉富田知信を此地に封じ慶長年間藤堂高虎之に居り數代藤堂家にて之を守りしが明治維新に至りて廢城となり今は陸軍省の所轄に屬す又津公園は市の北部下部田村に在る一丘陵にして其東隅に高山神社を祭る園中數株の櫻樹、躑躅其他の雜樹を點植し中央に澗水を湛え園内に廣明館、博物場等を設け山海の景勝一目にして盡すべし其外神社佛閣等にては結城神社、八幡神社、招魂社、觀音寺、眞敎寺、願王寺、四天王寺等枚擧するに遑あらず、市内名ある旅館は左の如し

大觀亭（河野よし）津市字入江町
聽潮館（後藤喜兵衛）同　字極樂町
若六（小曾木六左衛門）同　字東町
櫻水樓（岡新六）同　字萬町
喜亭（若林喜平）同　字西町
加喜伊（齋藤伊藏）同　字京口町
國分屋（桐生彌八）同　字中ノ番町
林屋（林新藏）同　上
山際屋（山際長左衛門）同　字伊豫町
松阪屋（松島市兵衛）同　字下部田

右の内大觀亭、聽潮館等は料理屋を兼業とす

（是より以下元の幹線に戻る、亦茲より參宮鐵道へ連絡し神宮に詣る）

◉關停車場　（同鈴鹿郡關町なり）

○關町　は東海道の一驛にして古へ大化二年始めて當所字關臺の地に鈴鹿の關を据られしを以て今猶は町の名に呼べり、戸數は九百餘戸、人口四千五百餘人、警察署、郵便局あり、有名なる關の地藏は九關山寶藏寺と號し驛内字新所村に在り天平十三年僧行基の開基にして天長年間僧應直堂宇を再建して天台宗に改む本尊地藏尊は一休和尚の開眼にして其名世に高し、寺内に二大櫻樹あり樹下に泉池ありて夏日最も避暑に宜し傳へ云ふ昔し蝦夷人櫻枝を杖にし來り此に挿せしが後ち枝葉を生じたるを以て之を蝦夷櫻と名く

筆捨山　は關町を距る西北三十町字市ノ瀬より右へ十五六町にして麓に達す山は高からずと雖も奇岩點在し老松繁茂す其枝葉皆岩の爲めに妨げられ自から屈曲して造りし松の如く麓に八十瀬川あり川を隔て眺望す



傳へて云ふ昔し狩野古法眼此山の眞景を寫さんとして能はず終に筆を投じて去る故に筆捨山と呼ぶと、岩根山は其本名なり

鈴鹿山　は東海道阪下驛の西端に在りて伊勢近江の國境に屬す峯巒重疊老樹陰鬱、其山頂に鈴鹿神社あり鄉社にして瀨織津姫を祭り例年三月阪下にて大祭を執行す、山は嵯峨として幽谷多く俗に八百八谷と稱し古へより東海道第二の峻嶺とす昔し田村將軍鈴鹿の鬼神退治の事は實記の徵すべきものなしと雖も普く人口に膾炙す

◉上柘植停車場　（三重縣伊賀國阿拜郡東柘植村字上柘植に在り）

○上柘植　は關町より分岐して大和に至る縣道に當り伊賀の上野町と相距る三里十八町又加太村、岡寺峠を隔て、關町と相距る三里三十町、東柘植全村の戸數七百三十戸、人口三千五百八十人、郵便局は一日三回の集配を爲し電信は停車場内にて取扱ふ、旅店は尾張屋佐七外二三軒あり山間の一寒村に過ざれども上野町往復の旅店は皆此處にて滊車に乘降する

●深川停車場　（滋賀縣近江國甲賀郡寺庄村に在り）

○深川　は東海道の水口より伊賀の上野町街道に方り南一里餘、內保の嶺を越ゑ玉瀧を經て大和街道の佐那具に至る凡そ四里、北は横田川を渉りて水口驛に至る二里十町、今は町村制に依り深川、森尻、寶木、寺庄、葛城、稗谷の各小村を併せて寺庄村と稱し戸數四百八十餘戸、人口二千九百餘人を有す、停車場前に一二の旅店あり

（是より西南に分れて上野、加茂等を經て奈良に至る支線あり）

廣德寺　は深川の西一里餘北杣村にあり、延曆二年の創建にして俗に甲賀の庚申堂と稱す古へ里民藤右衛門と云ふ者家甚た貧に苦しみ此に祈念し夢想によりて眞鍮の製法を發明し後頗る盛業となりて大に富めりと云ふ今尙ほ眞鍮を製する者多く玆に參詣をなせり

飯道神社　は深川の西北一里三十町（三大寺村より登り五十町）飯道寺山の頂きに在り古へは飯道寺と號し僧良辨の開基せし梵殺なりしが後ち



神佛の區別を明かにし飯道神社と稱す和同七年の創建にして飯道神を祭り今は甲賀郡の總社たり、境內には老樹枝を交へ西は阿星の山脈と連なり東の方谿谷の間より遙かに水口の人家を望む

○水口驛　は東海道の驛市にして深川停車場を距る北一里十町同く三雲を距る東一里十五町、舊と加藤氏の城市にして今猶ほ城墟を存す、驛內甲賀郡役所、區裁判所、警察署、郵便電信局、水口神社、美濃部神社、蓮華寺等あり戸數一千三百八十戸、人口六千九百五十人、旅店は桝屋市兵衛、萬屋傳兵衛其他數軒あり

●三雲停車場　（滋賀縣近江國甲賀郡三雲村字三雲に在り）

○三雲　は東海道の一村落にして石部、水口兩驛の中間に在り戸數七百五十戸、人口三千八百九十人、垂仁天皇の御宇天照太神太和より伊勢へ遷坐の際此處に四年間鎭坐し給ひしとて村內に其靈跡あり今の三雲神社の地即ち是なり西より水口に赴く者此處にて汽車を降る

岩根山　は三雲より南一里餘（岩根村より登り二十五町）に在り山頂に善水寺あり延暦年間傳敎大師の開基にして一寸八分の藥師佛を本尊とす山の絶頂を十二坊ヶ嶽と稱し此處に登臨すれば琵琶湖、多景島及び比叡、比良、石山、飯道山等の峯巒を遠望し風景また賞するに足るものあり

●石部停車場（滋賀縣近江國甲賀郡石部村に在り）

○石部村　は東海道中の一驛にして草津を距る二里二十五町、古へ西部の山より金饌を出せしとて金山の稱あり今は多く石灰を產出す、驛西石部神社あり村社にして倭姫を祭る又驛の南凡そ半里東寺村に東寺あり西寺村に西寺あり共に聖武天皇の勅願所たりし古刹にして寺地は阿星山の麓に屬す故に兩寺ともに山號を阿星山と云ふ、石部全村の戶數七百二十戶、人口三千七百十八、旅亭は扇屋孫右衛門、八幡屋吉助等なり

●草津停車場（滋賀縣近江國栗太郡草津村字大路ノ井に在り）

○草津村　は關西鐵道と東海鐵道と相聯絡する所にして西すれば京



都、大坂等に至り東行すれば岐阜を經て名古屋に至る、驛內には亦東海道と中山道との追分あり委しくは東海道草津驛の部を見るべし

（是より亦上柘植よりの支線に戻りて大和街道の佐奈具驛に出る）

●上柘植停車場

○上柘植　は幹線の部に此地の說を揭げたれは今茲に略す

風森神社　は天御柱命、國御柱命を合祀す往時此處に大なる神木ありしを領主藤堂家に於て之を伐りて上野城を築きしに忽ち暴風起りて天守を破壞す因て伐株の上に一祠を建て龍田の神靈を遷祀すと云ふ

●佐奈具停車場

○佐奈具　は上柘植を距る二里餘、府中村に屬す

玉瀧寺　は玉瀧村に在り最と古刹なりと云ふ古歌に『詠めばや玉瀧寺の空はれて瑠璃の光にうつる朝日を』とあり蓋し奈良朝の創建に係れる歟境內に玲瓏の瀧、國界松、龍王岳、靈鷲山、沼清水、古溫泉、山王社、

子院三遍、等の八學地あり

敢國神社　は一の宮村に在り、國幣中社たり、敢國津神、少彦名命、金山彦命に合祀す老樹陰鬱として社殿を圍み最も幽邃を極む

◉上野停車場

○上野町　は舊と藤堂氏の分城地にして最も名邑なり商家軒に並べ頗る繁盛をなせり猶は白鳳城の跡を存す、阿山、及び山田郡役所、區裁判所、警察署、監獄署、郵便電信局、通運會社支店、第八十三銀行等は皆町内に在り、戸數三千二百餘戸、人口一万三千五百餘人、上野公園及び渡邊靜馬が荒木又右衛門の助太刀に依り父の讐たる澤井又五郎を討ちたる舊跡鍵屋の辻等は此地に來る者の一覽すべき處にして其他菅原神社、杉谷神社、念佛寺、廣禪寺、芭蕉翁の宅趾等あり、産物は茶、木綿を最どし其他蒟蒻田樂、靜馬餅等の名物あり、上柘植より上野町まで里程三里十八町、道路は柘植川の右岸に沿ひ佐那具驛を經て上野に入る



之を大和街路と稱す人力車賃片道二十五錢二時間餘にして達す

月ノ瀬梅林　は齋藤拙堂翁が「月瀬記勝」の著ありしより以來其名大に顯はれ終に香世界中第一の絶勝と呼ばるゝに至れり、地は上野町を距る西南三里餘、木典、朝屋、法華等の小村落を經て白樫村に至れば此村既に梅樹を培養し猶は行くこと半里にして尾山村に達す尾山は梅村の一にして全村悉く梅、一目千本、大谷等は花殊に多く漸く佳境に入るの思あり、行くこと數十歩名張川の渡を渉れば地は即ち大和の山邊添上二郡に屬し嵩を經て月ノ瀬村に至るを得べし月ノ瀬の東一里餘、嵩、獺瀬、中峯山、吉田の各村其北は桃香、高尾の各村悉く梅ならざるは無く花は經となり松は緯となり水竹之を點綴して其風色の絶佳なる眞に仙鄉の名に負かず殊に名張川の清流に舟を泛べ流れを溯りつゝ兩岸の花を看るを以て最も興ありとす此川月を浮ぶるの夕一層の風致を增し踈影横斜山水倶に動くの觀あらしむ月ノ瀬の村名蓋し是より起りしなるべし去れど毎歳月の昃盈と花

の開落一樣ならず月前の梅花の盛を見るは概ね三四年目にありと云ふ、尾山、月ノ瀬等には旅店、小料理屋あり其他寺院にても亦泊一を許す

●島ヶ原停車場

○島ヶ原　は上野町を距る西南二里餘なり

●大河原停車場

○大河原　は島ヶ原を距る二里餘、島ヶ原と共に憲村なり

●笠置停車場

○笠置村　は木津川に誇り南北に分る

○笠置山　は南笠置の上に峙ち峰聳ゆ溪深く樹木繁茂す、此地は曾て元弘年中後醍醐帝の行宮を定め給ひし處にして名勝舊蹟頗る多し、文珠院、福壽院等は古へ笠置寺の殘坊なり、其他繁を厭ひて茲に略す

●加茂停車場

○加茂　は此驛より奈良に至る同所の記は大坂鐵道奈良驛の部に委し



## 參宮鐵道

●津停車場（三重縣伊勢國安濃郡）

○津市　は關西鐵道支線の末驛なり之に接續なして此鐵道の起點とす此市の記事は同鐵道の部に詳記す

●阿漕停車場（同上字津興）

○阿漕の浦　は津市を距二哩、字津興の海濱を云ふ、青松蒼々として佳景なり、古へ阿漕平次制禁を犯して此濱に於て魚漁をなし遂に捕はれ簀巻にせられて淵に投せられしと今小祠あり平次の靈を祠る又字柳山に芭蕉翁の碑あり『月の夜になにを阿古木に啼千鳥』

●高茶屋停車場

○高茶屋　は久居町の東なり久居町は元藤堂佐渡守の城邑なり名邑にして豪家櫛を列ね商業頗る繁盛なり又茲より初瀬街道、伊賀街道あり

桃林　は小戸木村字若宮邊より戸木村に亙りて七千餘株又桃園村には廿五町餘に渉りて三万八千餘株有り花期には遠く來遊する者甚多し

●六軒停車場

○六軒　は高茶を距る三哩餘、此間に雲出川有り川口の邊を矢野浦、幸洲浦と云ひ茲に海水浴場あり又南を松崎浦と云ふ

●松坂停車場

○松坂町　は街道第一の驛市なり、和歌山街道、熊野街道の兩路に當り又運輸に便あり常に旅客輻輳し商家旅店軒を列ね頗る繁盛を究む、名物には松坂木綿、壺屋の煙入、梳油等なり

松坂公園　は字殿町に在り上古四薗生御園是なり、土地高燥老樹蓊蔚として頗る幽邃なり遙かに海を望みて光景を備り園中に意悲神社、南龍神社等あり、又本居神社は花岡村の高峰に在り平田篤胤の碑傍に建てり本居宣長は曾て國學中興の祖たり



菅相寺　は字愛宕町にあり境内に天神祠あり梅樹多し亦一の雅境なり此他龍泉寺、來迎寺、清光寺、常念寺等あり

●德和停車場

○德和　は松坂を距一哩半餘、南に櫛田川あり長橋を架す古へ倭姫命此水中へ櫛を落せりと因て名とす往古より有名地にして詩歌に佳詠多し

●相可停車場

○相可村　は和歌山、熊野等への岐路ありて旅客繁く殊に賑ひり

○千鳥ヶ瀨　は太木川の東邊にして眺望頗る風致あり、西行の歌に『渡れゐる我をともよぶ千鳥が瀨、越てあふかに旅寢こそすれ』と齋宮舊趾　は齋宮村にあり、蛭の澤には齋宮花園ありて花菖蒲頗る多し、齋宮は菅笠を以て名物とす

●田丸停車場

○田丸町　は街道の一驛にして殊に繁昌の地たり、東北に明野と云ふ

あり

●宮川停車場

○宮川　は三十餘里の長流にして其水源を大和の吉野郡大臺原山に發し數多の郡村を經て茲に來り之より海に注ぐ、川口を大淀浦と云ふ

●山田停車場

○宇治、山田町　は宮川の東畔に位し相の山即ち尾部阪の西を宇治と稱へ東を山田と稱す、此地は志摩、大和、紀伊等の街道に當り東北に大湊、神社港在り交通頗る頻繁商業昌盛を究む、両太皇神宮、豊受太神宮へ諸國よりの參拜者四季共に絶えず隨つて市街の殷賑なること殆ど津市に讓らず、戸數五千七百餘戸、人口二萬八千二百餘人を有し神宮司廳、度會郡役所、區裁判所、警察署、郵便電信局、神宮皇學館、神宮教院、神大秡局、其他花街は古市、劇場は長盛座、新福座等あり亦神社佛閣等は數ふるに遑あらず名物は山田細工、春慶塗、宮木箸、篠笛、紙貰入、茶、傘



等なり又朝熊の萬金丹を鬻ぐ家多し古市には旅舍數軒あり就中油屋は元と有名なる油屋騷動のありし妓樓にして樓主は其實錄を出版して旅客に之を呈す、

豊受太神宮　は一に外宮と稱し山田町の南山田ノ原にあり此近傍の丘陵を高倉山とも云ふ宮域廣く、社殿壯麗にして本社には豊受太神を奉祀し瓊々杵尊、天兒屋命、天太玉命を合祀す雄略天皇廿二年七月之を創建す皇太神宮に後るゝと四百八十二年多賀宮、土宮、月讀宮、風宮之を四所の宮と稱し其他攝社十六座、末社八座あり、宮域は八十一町に渉り外宮接續の神苑は一萬五千餘歩又建物は神庫、九丈殿、五丈殿、遙拜所、第四御門、第三御門、蕃垣御門、玉串御門、瑞垣御門、東寶殿、西寶殿、正殿、御裏御門、外幣殿、御饌殿、内宮遙拜所、子良齋館、廳舍等にして其他名所舊跡頗る多し又茲に案内者あり

皇太神宮　は一に内宮と稱し外宮と相距る凡そ一里宇治町の南五十鈴

川の上流にあり我邦の總廟にして夫照太神宮を奉祀し天手力雄命、萬豊秋津師姫を合祀す此の大神は人皇十代崇神天皇の御宇に至るまで宮中に奉祀せられ給ひしに天皇其神威を濱さんとを恐れ大和の笠縫の里に移し給ふ後ち人皇十一代垂仁天皇廿五年倭姫命神誨を受けて祠を此の五十鈴川の川上に建つ今に至るまで一千九百年を經たり御神體は八咫の御鏡にして歴朝の天皇御崇敬あらせらるゝに固より日本臣民として其神德を仰がざるは無し、人皇四十代天武天皇の二年御遷宮の式を定められ爾後毎廿一年に此式を擧行せらる而して維新革命の際は政務多端の折柄として大に其式を略せられしも去る明治廿二年は恰も憲法發布の大典を行はせられ四海太平を謠ふの時なりしを以て此の年復た絶ゑたる典例を紹ぎ廢れたる儀式を興し嚴かに其宮遷式を行せられたり、宮城は六十七町餘、附屬神苑は九千六百三十餘歩、別宮を荒祭宮、月讀宮、月讀荒御魂宮、伊佐奈岐宮、伊佐奈彌宮、瀧原宮、瀧原並宮、伊雜宮、風日祈宮と稱し其



他攝社廿五座、末社十六座あり又建物は時雍館、廳舍、一殿、申貴殿、酒殿、忌火屋殿、板垣御門、玉垣御門、四丈殿、玉串御門、正殿、東寶殿、西寶殿、外幣殿等なり東南の丘陵を神路山と云ひ古杉老檜蓊鬱天を衝き五十鈴川は麓を遶る、川中に神足石と名くる奇石を産す

朝熊山　は宇治町の東二里伊勢、志摩の界にあり國中第一の名山にして勝地名區多く頂に登れば内海を隔てゝ駿、遠、參、尾を遠望し風景眞に佳絶なり山上に金剛證寺あり欽明天皇の御宇僧曉臺の開基なり寺院宏壯にして今猶は珍奇の什寶を藏す其奥に呑海庵及び富士見臺あり又朝熊神社は山に倚り川に臨めり朝熊は伊勢名勝の一にして參宮の次手登山する者絶ゑず旅店あり又萬金丹を賣る家多し

二見ケ浦　は伊勢第一の名區にして山田町の東凡そ二里度會郡立石江村の西北海岸の名なり此地は後に音無山を負ひ前に伊勢灣を擁し海邊に奇岩起伏して配置自然に備り尾參の翠巒鬟鬟の間に遠望し光景絶佳頗る

奇觀なり海岸より數間を隔て二個の巖双立す一は二十九尺、一は十二尺二岩の間に注連を張れり又奇巖奇石頗る多し參宮者の茲に來遊するのみならず旭日を拜するに此地を以て最とし毎歳一月一日の如きは庶人群集し立錐の地をも餘さゞるに至る、背の山に傘の臺あり又海濱に賓日館あり、神苑會に屬し倶樂部樣の組織にして時に貴賓の投宿に充つるとあり其隣地に海水浴塲（清亭）あり家は浪打ち際に接し眺望絶佳夏日の冷浴游泳に適す



# 大坂鐵道

●湊町停車塲（大坂市南區雜波村に在り）

○湊町　は大坂市南區道頓堀の稍南なり此地は遊覽所夥多あり阪堺鐵道難波驛の部に記載す

●天王寺停車塲（同天王寺村に在り）

○天王寺村　は大坂市と町續きにして今宮の東に方れり此驛より二線に分る順路は總記に掲ぐ

●桃山停車塲（同東區鵜橋村に在り）

○桃山　は城南に方り此西に梅屋敷及ひ桃山あり、花期には頗る賑はゑり眞田山は昔し大坂御陣の時眞田幸村の出丸を築し處にして神社あり亦境内に呑春樓（割烹店）あり

●玉造停車塲（同上）

○玉造　は桃山の北に方れり、此地には有名の稻荷社あり

●京橋停車場（同北區野田町に在り）

○京橋　は城北にして片町より關西鐵道に接續す、鳴野口には砲兵工廠亦其南に練兵場等あり、櫻ノ宮は野田町の川に沿ひて道あり

●天滿停車場（同區天神の北に在り）

○天滿　は北區にして此邊遊覽所最も多し、天滿天神、露の天神、網敷天神、堀川戎の社、寒山寺、大融寺、凌雲閣、小林遊園、菊亭、牡丹茶屋、開花園等なり、明治絕念標は西南戰死者を弔祀す

（梅田停車場は東海鐵道に詳記す是より本線の天王寺に戻る）

四天王寺　は天王寺村に在り、停車場を距る北へ八町有名の寺院にして今その境内を公園となす、當寺は用明天皇二年聖德太子の創建にして始めは西成郡玉造に在りしを後推古天皇元年荒陵の東に移す即ち今の地なり、境内は二万五千六百有餘坪あり、西の入口には石の華表あり、小



野道風筆「釋迦如來轉法輪所當極樂土東門中心」十六字の額を掲げ本堂は繞らすに練塀を以てし其内に五層塔あり之に登れば西北に大阪の全市を瞰下し東に生駒山、暗峠を望み寺内別に太子堂、愛染堂等あり近來其南園を開きて櫻桃數百株を栽ゑ又割烹店、茶亭等ありて四時共に賽人絶えず實に大阪第一の巨刹なり

一心寺　は天王寺西門の西二町、同村内にある淨土宗の梵刹にして僧源空の開基、文治元年の創建なり元和元年大阪城の戰死者を寺内に葬り猶は其墓碑を存す其西一二町にして有名なる合法ケ辻あり

茶臼山　は一心寺の南にあり寺を邦福寺と號し庭園幽邃四時の眺めに富み雅客の杖を曳く者多し、寺中遊息亭にて菜蔬の料理を調進し僧を定めて客に薦むと雲水の精進料理と呼びて亦浪花の一名物とす、其西新清水及び安井天神に隣れる地には櫻樹楓樹多し

●平野停車場（大阪府摂津國住吉郡平野郷に在り）

○平野郷町　は大阪奈良間の街道に方り又堺、高野山等に通ずるの道路ありて戸數一千五百二十戸、人口七千七百六十人、人家稠密、商業繁盛、大阪府廳を距る三里二十町、町内郵便局、警察分署及び大念佛寺、光源寺等あり其東數町の處を以て攝津河内の國界とす

●八尾停車場　（大阪府河内國澁川郡龍華村に在り）

○八尾村　は若江郡に在り長谷川を隔てゝ龍華村（停車場所在地）と相對し其距離十町に過ぎず今は町村制に基き八尾町、西郷村、東郷村外十三ヶ村を併せて八尾村と稱す、戸數一千五百五十戸、人口六千八百餘人、區裁判出張所、郵便電信局、警察署等あり、町の西方久寶寺村には顯證寺あり眞宗、文明十一年僧兼壽の創建にして本堂には阿彌陀佛及び聖德太子の像を安し俗に久寶寺御堂と稱す又龍華村字太子堂村には勝軍寺、字植松には澁川神社、若江村には江鏡神社ありて共に停車場より距離遠からず而して其停車場近傍に龍華寺の古跡ありと言傳ふれども所在の地明らかならず、龍華寺とは後世の稱へにして古へは橘寺と呼び夫の萬葉集に「橘の寺の長屋に我いねし」云々と詠たるは此の廢寺の事なるべしと云へり



●柏原停車場　（大阪府河内國志紀郡柏原村に在り）

○柏原村　は志紀郡の南端、大和川の北岸に在る一村落にして戸數四百五十戸、人口二千百九十人、所謂高野街道に方り古市、富田林、橋本等を經て高野山に到る凡そ十二里、東南國分村に到る三十町、村内人家多からずと雖も往來頻繁にして小料理屋、旅人宿あり、又國分村には縣主神社鎭坐せり、柏原の東一里の地を龜瀨越と稱し鐵道線路は此處に三個の隧道を穿ち其最も長きもの一千四百二十尺、龜瀨隧道即ち是れなり

道明寺　は柏原の南凡そ廿五町道明寺村にあり昌泰四年菅原道實筑紫へ謫せらるゝに方り其伯母覺壽尼を此寺に問ひて告別せし處にして寺内に天滿を祭り本社に菅公自作の木像及び覺壽尼の像を安す古へ道明寺

の堂宇は巍々として頗る壯嚴を極めしも元龜年間高屋の兵燹に罹りて燒亡し今の本堂は天正年間の再興に係るものなり本堂には十一面觀世音を安し天滿宮と分つて神佛の區別を明かにし土師八島の塚、菅公廟碑、木櫻の古樹等皆境内に在り、毎歳二月廿五日會式を行ひ是日遠近より參詣する者群集し大阪鐵道會社にては爲めに臨時汽車を發する事あり

譽田神社　は道明寺村の南十餘町（柏原停車場より凡そ一里）古市郡譽田村に在り府社にして應神天皇を祭り仲哀天皇、神功皇宮を合祀す社地に隣りて一丘陵あり是れ即ち應神天皇の陵にして石階重疊し陵上に六角形の廟を營み近傍數十基の石燈を建て又櫻樹楓樹等を栽ゑたり毎年四季に神事を行ふが中に四月八日には氏子より車樂を曳出し舞殿にては猿樂を奏する等頗る嚴かなりしが今は其式多く廢せられたりと云ふ

葛井寺　は柏原の西南一里餘丹南郡藤井寺村に在りて道平坦車を驅るに宜し、寺は一名剛琳寺と稱し眞宗、僧行基の開基、神龜二年聖武天皇の勅を奉じて之を建立す本堂には千手觀音、地藏尊を安し地藏尊は行基の作にして丈五尺五寸和州長谷寺の御衣木と同木なりと云ふ、西國巡禮第三十三番の札所なれば詣人常に絶えず又寺寶として後醍醐天皇の綸旨楠正成菊水の旗、松虫の鈴等を藏す



**王寺停車場**（奈良縣大和國葛下郡王子村に在り）

○王寺村　は奈良街道より高田及び御所等に至る岐路に方り大和川の東に位する一村落にして戸數六百戸、人口二千三百七十人、停車場は奈良幹線と高田支線との分岐點に當るを以て旅客の乘降忙はしく停車場前には大文字屋其他の旅店あり又村を距る東の方數町字門前に達磨寺あり推古天皇の二十一年聖德太子衣を飢人に與へ死後墓を建てゝ達磨塚と云ひ後ち僧勝月堂宇を營みて遠磨寺と稱す、また大和名所の一なり

信貴山　は王寺停車場の西北凡そ一里十五町（勢野村より登り三十町）山は大和平群郡と河内の高安郡とに跨かり之に登臨すれば大和一ヶ國を

雙眸の中に収め眺望絶佳恰もパノラマを觀るが如し其中腹信貴畑に朝護國孫子寺ありて毘沙門天を祭る、此山は聖德太子官軍を率ゐて守屋大臣を追討せし舊地にして寺は推古天皇十五年僧明蓮の開基なり或は云ふ用明天皇の三年聖德太子の創建に係ると（以下記載の二停車場は高田支線に屬するものなり本線は直ちに法隆寺に接續す）

●下田停車場（奈良縣大和國葛下郡下田村に在り）

○下田村　は王寺の南五十町、御所街道の一驛にして戸數五百九十戸、人口二千四百九十人、其南染野村に石光寺ありて俗に染野寺と云ひ此處より當麻寺に至る十數町、石光寺内には役の行者が手づから栽たりと言傳ふる糸懸け櫻あり又下田には釜屋孫助外二三軒の旅店あり

當麻寺　は下田停車場の南三十餘町、當麻村字丸子山の麓にあり用明天皇の第四の皇子麿古皇子の創建にして始め推古天皇の二十年河内の山田鄕に造營して萬藏院と號し後ち白鳳二年天武天皇今の地に移すと、大



平寶字年中右大臣豊成の女中將姫此寺に入て尼となり蓮の糸を以て衣を織る是れ即ち有名なる蓮の曼荼羅にして今猶秘藏せり、本堂には觀世音を安置す又講堂、金堂等あり、奥の院往生寺等は背の小丘にありて源空上人の木像を安置す、中將姫の事は元亨釋書に詳かなり

●高田停車場（同上高田町に在り）

○高田町　は奈良より堺に至る竹内越街道の一驛なり（此驛より南に分れて南和鐵道に接續す）

●畝傍停車場（同上今井村北に在り）

○畝傍驛　は高田を距る三哩弱、稻繁榮の地たり

畝傍山　は今井町より南へ三十町一に慈明寺山と云ふ、紀元元年神武天皇の皇居を營み給ひし橿原宮の趾なり麓に天皇の山陵あり四方に瑞籬を繞らせり又吉田村には安寧天皇、池尻村には懿德天皇の山陵等あり

●櫻井停車場（同上櫻井に町在り）

○櫻井町　は畝傍を距さる三哩強、郡中の一都にして物産會社、村木會社等ありて殊に繁盛を爲せり、當國は名所舊蹟頗る多し

稚櫻宮趾　は安倍村にあり神功皇后、履中天皇共に茲に都し給へり

文珠院　は同村に在り知足院と號す、孝徳天皇大化元年の創建なり本尊文珠菩薩は本朝三文珠の一なり

○○○吉野山　は日本第一の櫻花の名所なり、芦原峠の西字車阪を越えて吉野川の北岸下淵村に出る迄の間に山路稍嶮峻を極む夫より川に沿ひ東して北六田村に達し柳の渡を渉り吉野村字六田に至る、同所より三十餘町の間は路傍櫻樹多し花候に至れば白雲の靉靆たるが如く佳景云はれ方なし六田より三十町目に千本の茶屋あり此處を一目千本と稱しに北七曲の櫻花を一瞰し四望只だ皎雪の爲めに包まるゝに似たり、行くこと二町乃ち飯貝よりの登り阪と相合す飯貝は上市より吉野町に至る途中吉野川の北岸に在りて同所より此出合の辻まで凡そ二十五町其中間の七曲には櫻樹



最も多し又一町にして一ノ橋あり豊臣秀頼の再修する所なり茲より二三町にして銅の華表あり高さ二丈五尺簸心門三字の額は弘法大師の筆なり華表より以南は古への吉野町にして兩側に商家旅店等櫛比し春時は觀櫻の客群集して頗る賑へり旅店は多く崖造りの三階建にして街衢の方より見れば皆平家の如くなるも家に入れば二級三級の座敷を道路の水平以下に設け階に由りて昇降するを見、始めて其三階造りなるを知る者あり旅店にては名所の案内者を出して客を導き又近傍商家の中には名物の吉野葛、塗物、だらに助、櫻漬、葛菓子、曲物其他苗類を鬻ぐ店多し、町の南端に金峰山寺あり俗に藏王堂と稱し本堂は十八間四面にして長二丈六尺の藏王權現の像、其傍らに觀世音、彌勒の像を安す、寺は役の小角の開基にして古へは大塔迦藍あり頗る壯嚴なりしも今は頽廢して僅かに其礎石のみを存す、其寺内に威徳天神社ありて菅公の靈を祭る又藏王堂より行くこと二三町左折して阪路を下れば茲に吉水院あり古へ後醍醐天皇の行宮たり

し處にて院内に綸旨其他の寶物を秘藏し文祿三年には菅公此寺に宿し源平の戰ひには義經辨慶等も亦當院に潛みて軍議を凝らしたる事ありとて其居席今猶は存せり、吉水院より東北五六町の谿間に如意輪堂ありて如意輪觀世音を安す寺の庭を歩して其後山に至れば茲に後醍醐天皇の陵ありて此地を塔ノ尾と稱す、御陵墓より少し下りたる處に楠正行髪の毛塚、茲より再び舊の徃還に立戻り南行すると一二町道の右傍に勝手明神社ありて八大神の一なる愛髮命を祭り又文治元年義經の妾靜が法樂の舞を奏せし時の裝束幷に源義經の鎧等を藏して什寶とす、猶は南に向ひて阪路を登るに從ひ其傍らに喜藏院、竹林院、世尊寺、子守神社、金精明神社等ありて勝手の社より凡そ五十町にして奥ノ院の茶屋に至る其間民家の途絶たる處は兩側に櫻の並木打續き雲井櫻、後瀧ざくら等の名所あり、奥ノ院より行くと三四町道の右傍に泉ありて之を苔の清水と呼び一町にして西行庵に達し其傍らに西行庵あるを見るべ



し又奥ノ院より左折する阪路を瀧道と稱へ阪を下る二十餘町にして蟻蛤の瀧に到る、瀧は吉野郡西河村に屬し直下十二丈、幅四間下流を音無川と云ひ其下吉野川に合す、茲より五町にして大瀧あり大瀧は瀑布に非ずして吉野川の上流水勢岩に激し奔湍怒るが如き急瀨の名なり、此處より川に沿ひて下ると一里吉野川を渉れば山田街道の南大野村に出づ去れど通常の旅客は再び吉野町に歸り飯貝より上市に出で多武の峯より初瀨等に至るを大和名所巡りの順路とす

吉野川　は水源を大臺ヶ原山に發し西北流汐之波、和田を經て大瀧の早瀨となり柒摘、立野各村の南を流れて上市町に至り西流宇智郡に入り阿陁鄉、五條、上野を過ぎ相谷村に至りて紀伊に入り紀伊川の稱あり其延長三十二里三十四町、吉野近傍には前記の大瀧を始めとして宮瀧、汐ヶ淵、子守ヶ淵等の名所あり汐ヶ淵の近傍小丘の流を挾で相對する山あり是れ即ち有名なる妹背山にして北なるを妹山南なるを背山とす背山は其

形ち矮山よりも大なりしが今は其山土河水の爲めに流されて大に山容を變せり又上市より飯貝に渉るを櫻の渡と云ひ北六田より六田に渉るを柳の渡と云ふ其近傍を六田の淀と云ふとぞ

多武の峯　は吉野山より北凡そ三里二十町、十市郡多武ノ峯村に在り上市町より阪路を攀ぢ志賀、瀧ノ畑を經て字細峠を越ゆれば四軒茶屋より八町にして同寺に到る、山腹に別格官幣社談山神社あり社は古へ妙樂寺に屬せしが今は寺を廢して宮となし境内櫻樹多くして春時觀花の客絶もるとなし本殿には藤原鎌足公の靈を祭り樓門あり回廊あり石階を設けて其甃路とし山下には商店幷に花中屋、和泉屋等の旅亭あり、多武の峯は日本紀に田身と書し或書には太務と記し今は談山と云ふ…（談の音多武に通ず）夫の中大兄皇子と中臣鎌子連とが鞅作（入鹿）を誅伐すべき事を談合せられし地なるを以て談山と呼ぶ云々順禮記に見えたるは恐らく附會の說なるべし、境内また文珠塔、妙樂寺開基定慧和尙の墳、淡海公の



墓及び其近傍に雨槻ノ宮、若櫻神社等あり

岡寺　は一名龍蓋寺と號し多武ノ峰の西凡そ一里高市郡岡村に在り眞言宗僧義淵の開基、天智天皇二年の創建にして古へ此處は舒明天皇の皇居岡本宮の舊地なれば岡村又は岡寺の稱ありと云ふ、本尊は如意輪觀世音にして西國七十番の札所なり、茲より隣村飛鳥に至る途中の田間を昔し逝曲の丘と稱へ櫻花の名所なりしも今は櫻樹枯朽して一の靑田とはなりぬ、岡村より飛鳥を經て八木町に至る里程一里十五町、同所より西すれば一里八町にして高田停車場に達し東すれば一里十町にして櫻井町に至る、次には櫻井より三輪、初瀨等への案內を揭げん

大神神社　は官幣大社にして俗に三輪の祠と稱へ櫻井町の東北凡そ三十町（高田停車場より櫻井まで一里半）三輪山の半腹に在り祭神は大物主神にして神代より三諸山（今の三輪山）に鎭座し崇神天皇の八年始めて之を祭祀すと古記に曰く大貴己命高國を平定し功績既に成る仍て宮殿を

日本の三諸山に造營し就て居住す此れ大三輪の神なり社傍一株の老杉あり名けて驗の杉といふ云々、三輪町に一の華表あり並木の甃路を過ぎ行くと三歩許り左に曲れば若宮あり茲より數十歩石階を登れば櫻門あり櫻門を入れば拜殿の前に到る此の神社には本殿なく三輪山を以て神の形と崇し甃人之を崇敬す拜殿の後山は仍ち三輪山にして三諸又は神並の名あり三輪町より山頂まで凡そ二十町山上古松老杉鬱然として繁茂し孤峯峻拔古へ山巓に奥の不動と稱する石像ありしが今は之を毀ち且山上に人の登るを禁じたりと云ふ、三輪町には數軒の宿屋あり又素麺を以て此地の名物とし其他干瓢、蕨粉等を賣る家多し

大和神社　は同じく官幣大社にして三輪町の北一里十五町ばかり奈良街道の成願寺村より左折し行くと僅々數町山邊郡新泉村に在り、祠は垂仁天皇二十五年の創建にして倭國魂神、八千矛神、御年神を合祀す社殿は壯麗ならざるも整然として神威のいや高きを示し境内廣濶四季の花卉を栽ゑ華表の傍らに小池あり鏡の池と云ふ、毎年四月大祭を執行し神樂を奏し山車を出す等其式頗る盛んなり

石上神社　も亦官幣大社にして同郡布留村に鎭座せり、大和神社の東北一里二十町、奈良街道の丹波市町より東に折れ行くと半里許りにして其社殿に達す、韴靈を祭り崇神天皇五年の創建にして社殿清麗繞らすに回廊を以てし別に七社、若宮、神庫、櫻門等あり舊記に曰く崇神天皇の御宇伊香色雄命大臣たりし時天神、國神を定め今の石上の里に神體を移す神器十種の瑞寶は高皇產靈尊より饒速日尊に傳はり次で神武天皇に奉つり後に石上の大神と號す云々、又山後に布留ノ瀧あり一名桃尾瀧と云ひ高さ四丈、幅二間半飛泉岩に觸れて白玉四散し之を翠巒の間に望むや一奇景なり、布留村より丹波市を經て奈良まで里程二里三十町(一里半坦にして人力車を通ず(人力車賃十八錢)故に石上神社のみに參詣せんとする者は奈良より來るを便利とす

大阪鐵道　高田

長谷寺　は式上郡初瀬町の北端にありて櫻井町を距る一里半ばかり一に豊山神樂院と號す、眞言宗にして僧徳道の開基、元正天皇の養老五年創營とも云ひ又一説には文武天皇の御宇に草創せしとも云へり本堂は八棟造りにして長一丈六尺の十一面觀世音を安し其南麓に二王門ありて崖に長廊を設け屋根下に石階を築きて本堂への通路とす、其傍らに講堂あり傳へて言ふ此堂昔は小池坊と稱へ紀州の根來寺に在りしに天正十一年豐臣秀吉根來寺を破壞せし後ち智積院は京都に建立し小池坊は此地に移す乃ち今の講堂なりと、其後山を初瀬山と云ひ古へは名高き櫻花の勝地なりしが今は櫻樹稀疎にして寺内數十株を存するのみ又回廊の傍らに眞之の梅あり彼の「人はいざ心も知らず故郷は花ぞ昔の香に匂ひける」と詠み し古木は即ち是なりと云ふ者もあれど今の梅は後世植ゑ接ぎたるものなるべし其山下初瀬町は戸數八百九十餘戸、人口三千九百八十人、郵便電信局、警察署等あり旅店は吉野屋平左衛門外數軒にして孰れも初瀬名所の



案内を爲す（以下再び奈良幹線に戻る）

◎法隆寺停車場（奈良縣大和國平群郡富郷村字與留村に在り）

○法隆寺村　は平群郡の南端堺、奈良間の通路に方り西は龍田町へ八町東は小泉村へ十八町、村内法隆寺と呼ぶ巨刹あるを以て村の名とす、戸數五百七十戸、人口二千一百九十人、停車場は其東端に在り

法隆寺　は舊名斑鳩寺と號し推古天皇の十五年聖徳太子の開基創建にして堂宇宏嚴、寺域廣寛、先づ南門より入り二王門を潜れば右に金堂ありて釋迦、藥師、阿彌陀の金佛其他多門天、廣目天、持國天、増長天の像を安置し左に五重の伽籃峙だち正面に講堂ありて長廊之を圍み寺地の東隅には八角造りの夢殿あり、夢殿と金堂との間にあるを太子堂と云ひ又講堂の背後にあるを西圓堂と云ふ、太子堂には聖徳太子攝政束帶の像を安し又寺寶として沈水香と名くる奇木を藏す世に法隆寺と稱して珍重する旃檀香は即ち是なり、寺地の東を昔し斑鳩の里と云ひ推古天皇の九年太

子此處に宮を建て斑鳩の宮と云ひし處なり

龍田神社　は官幣大社にして龍田町の西一里弱（王寺停車場の北十六町許り）字立野村に在り、祭神天ノ御柱命、國ノ御柱命、崇神天皇御宇の創建にして古へより龍田明神と稱し古歌に立田比古、立田比賣なと詠みしは乃ち此神なり、本社は東面し正殿に小野道風筆「正一位立田大明神」の額を掲げ松柏蓊鬱として社域を圍み頗る幽雅、清閑の地なり又前記法隆寺の西七八町龍田町街道の右傍にも龍田神社なるものありて之を若宮と稱す龍田町は繁華なる一市驛にして旅客の往復も亦隨つて繁ければ此の若宮を以て龍田神社の本宮なりと誤認する者多く其他昔しより古歌に詠合せたる三室山、岩瀬ノ森、龍田川等の舊跡は東西二ケ所にありて龍田町の方にては其近傍にあるものを眞の名所なりとし立野村にては村内にあるものを擬なき舊跡なりと稱し徃々探勝者を惑はすとあり飯に是等の人々には菅原眞人の著したる「龍田考」こそ好き栞ならめ



廣瀬神社　は同じく官幣大社にして法隆寺停車場の南二十五町、廣瀬郡川合村に在り祭神は若宇迦能賣命にして白鳳四年の創建、近年社殿を修繕し結搆美を盡し參人常に絶ゆるとなし

◉郡山停車場　（奈良縣大和國添下郡郡山町に在り）

○郡山町　は舊柳澤氏の領地にして奈良を距る二里十二町、其繁華は奈良に亞ぎ市坊六十五、戸數三千四百戸、人口一萬二千七百八十人、郵便電信局、警察署、第六十八銀行、舊城趾及び八幡宮、觀音堂、正願寺、西光寺、正等寺、法傳寺等あり又同所より奈良に至るの途次神社佛閣多きを以て名所巡りの人々は此地にて汽車を下るもの少からず、旅店は菊屋なは、花内屋忠平其他數軒あり

唐招提寺　は郡山の北二十五町許り添下郡五條村に在り、眞言宗、唐僧鑑眞和尚の開基、天平勝寶八年の創建なり、古へ聖武天皇の勅願所にして櫻門の額は孝謙天皇の宸筆なりと云ふ、境内に金堂、講堂、開山塔あり昔

し此地は新田部親王の宮殿ありし處にて寺域頗る廣く翠松林を爲して堂宇を圍み又孤山の松、醍醐味泉等の名所あり

西大寺　は郡山の北一里二十町添下郡西大寺村に在り、孝謙天皇の勅を奉じて僧常騰之を建立し天平神護元年伽藍悉く竣工せしと云ふ、本堂には觀音の立像を納め愛染堂には愛染明王の像を安す其東北五六町山陵村に神功皇后の陵と稱ふる地あり

菅原天神社　郡山より西大寺に至る途中伏見村字宮原村にあり此地は菅原道實誕生の地にして社には其靈を祭る社殿は方二間ばかり小祠にして輪奐の美なしと雖も賽人は殊に多し

◉奈良停車場（奈良縣大和國添上郡奈良町字三條に在り）

○奈良町　は古への平城京、後世所謂南都にして文武天皇の母后元明天皇和同二年に都を此地に建て同三年遷都ありしより以來七代の天皇相尋で此地に皇居あり桓武天皇延曆三年に山城國長岡ノ宮に遷都し給ひし



まで其年紀七十五年、降つて德川氏に至りて奈良奉行を置き今は奈良縣廳の所在地にして地方裁判所、區裁判所、師範學校、病院、警察本署、郵便電信局、添上、添下、山邊、廣瀨、平群郡役所、大和新聞社、新大和社及び各銀行支店あり、市街の廣袤東西二十四町、南北一里、市坊二百三十五、戸數六千一百八十、人口二萬四千七百人、町の內外に神社佛閣多く其過半は一千年以上の建築に係り且什寶として古器物古書畫を藏するの社寺少なからざるを以て古代の建築法及び日本固有の美術を參考せんとするには此地に來觀するに如かず近年鐵道の開通したると奈良縣を再設せられたるとに依り遠近より此地に入り込む旅客年を追ふて其數を增し每春博覽會開設の頃は市中殊に繁賑なり、著名の物產は曝布、足袋、革沓、紙、奈良漬、團扇、扇、偶人、角細工等にて團扇、扇は年々海外へ輸出するもの頗る多しと、例に依り此地の名ある旅店を擧ぐれば左の如し

武藏野（梶　幸三郎）奈良町三笠山麓

鬱山樓（角谷　定七）奈良町字今小路町
含翠樓（山田正一郎）同　字菩堤
三景樓（足代秀太郎）同　字池ノ町猿澤池畔
印判屋（箕輪庄太郎）同　字樽井町

かま屋（藤井　音吉）同　字今御門町
魚屋（金田　榮藏）同　上
桝屋（桝屋　伊平）同　上

春日神社　は官幣大社にして停車場より二十町、奈良町の東端春日山の麓に在り、武甕槌神、經津主神、天兒屋命、姫神、四神を祭り神護景雲二年の創建にして正殿四棟相並び古へより四社大明神の稱あり、正殿には瑞籬を繞らし其外部に復た長廊を設け瑞籬の内を内院と云ひ外圍を外院と云ひ内院の二小社には手力雄命、太玉命を祭り外院の三小社には大巳貴命、金山彦、素盞嗚尊を祭る其南に樓門ありて社殿の結搆悉く善美を盡し境内賽路の兩側には數百基の石燈籠を建て連ね社地頗る廣濶其後は直ちに春日山に連接す、本社の南に春日若宮あり長保五年の創建、長承四年の再建にして天押雲尊を祭り、本社にては春秋二回大祭を執行し若宮にても亦別に古式の神事を行ひ來りしが今は本社若宮を併せて一年



一回の大祭を行ひ勅便參向其他の儀式頗る嚴かなりと云ふ

春日山　は春日神社の後に聳ゆる丘陵にして古來著名の勝地、同神社より登り二十町許りなり、山巓を本宮ヶ嶽と云ひ山中鹿、猿多く其北に連亙せる小峯を三笠山と呼び觀月を以て其名著はる又春日神社大華表の近傍は古への春日野にして雪消の澤、野守の鏡等の舊跡あり

東大寺　は春日神社の北に隣れる巨刹にして停車場より距離凡そ二十二町、寺は華嚴宗、天平十六年良辨の開基にして寺内に大佛殿あり堂の高さ十五丈六尺、東西五十四間、南北二十七間餘、中に巨大の盧舍那佛坐像（青銅製）を安置す是れ所謂奈良の大佛にして像の高さ膝下より頭上まで五丈三尺五寸實に吾邦第一の巨像たり、始め天平十五年聖武天皇の勅命に依り僧行基其鑄造を企てしより設計を改むること前後八回爾後七ヶ年を費し天平勝寶元年悉く竣工し降りて元祿年間僧公慶大に之を修造すと云ふ殿の前に金燈籠ありて宋の陳和卿の鑄造に係る者とぞ、又大佛殿の北

に寶藏ありて正倉院と號し和漢數百種の寶物古書畫を藏す此庫今は宮內省の管理に屬し每歲風入れ虫干を行ふ際には特に待從其他の宮內官吏出張して開扉するを例とす

二月堂　は東大寺々內大佛殿の東方小高き丘の上に在りて絹索院と號す天平勝寶四年僧良辨の弟子實忠勅命を奉じて創立せしものにして十一面觀世音の像を攝州難波の浦より遷して本堂に安置す每年二月其大法會を執行するを以て俗に二月堂とは呼べり又其西に三月堂あり良辨開基の小堂にして絹索觀世音を安し一に金熟寺又は金鐘子とも云ふ

興福寺趾　は奈良市街の中央樽井町の北に在り、古へ大職官鎌子大臣山城國宇治郡小野鄕に寺院を創造して山階寺と云ふ後ち元明天皇の和同三年藤原淡海之を春日の地に移して興福寺と改む、今は頽廢して僅かに樓門、金堂等の礎石を遺し目下現存するものは五層塔、南圓堂其他二三の建物に過ぎず維新前までは每年二月南大門の前にて薪の能を演し來り



此地の一奇觀と稱せられしが是も亦近年廢止せらる

猿澤ノ池　は興福寺の門前に在りて半月形を爲し池畔より五層塔、南圓堂を望み池の近傍旅店、割烹店多し、昔し奈良の帝に仕へし采女此池に身を投じたる事は大和物語に見え今も池の邊りに采女祠、衣掛柳等あり近年此地に櫻樹を植ゑ春は看花の客、夏は納涼の人池畔に群集して頗る賑へり、池を猿澤と呼ぶは印度の獼猴池に倣ひしが爲めなり

手向山神社　は縣社にして手向山にあり應仁天皇、姬神、仲哀天皇、神功皇后を祭り天平勝寶二年の創建、境內に若宮ありて仁德天皇を祭る神殿清麗、松杉之を圍み社前に無數の石燈籠あり、手向山は古へ紅葉の名所にして古歌に名高かりしが今は楓樹太だ稀なり

眉間寺　は市街の北端、般若寺村と法蓮村との間字多門山の麓に在り聖武天皇の勅願所にして長寬年中の創建、僧行階の開基なり多門山は一名佐保山と號し寺の後に聖武天皇の陵、其東に光明皇后の陵あり、

# 南和鐵道

●高田停車場　（奈良縣大和國北葛城郡高田町に在り）
○高田町　は大坂鐵道の一驛なり之に接續なして當鐵道の起點とす、
此他の記事は同鐵道の部に詳記す
●新庄停車場　（同上新庄村に在り）
○新庄村　は高田を距る二哩強、
栗栖小野　は忍海村に在り萩に著名の所なり
●御所停車場　（同南葛城郡御所村に在り）
○御所村　は下街道下市街道の一驛にして從來より繁華の地なり此驛
より吉野道あり
●掖上停車場　（同上掖上村に在り）
○掖上口　は御所を距る二哩強、



嚢間丘　は大字柏原にあり、神武天皇三十一年帝巡行の御時此に暫く
駐まり給ひし地なりと云ふ
●葛停車場　（同上葛村に在り）
○葛村　は掖上を距る二哩半、
巨勢山　は大字古瀬に在り又巨勢野と云ふあり小明原も此邊なるべし
●北宇智停車場　（同上宇智郡北宇智村）
○宇智村　は葛村を距る四哩強
梅室院　は榮山寺と號し古へ役の小角が創開せし靈場なりと云ふ
●五條停車場　（同上五條町に在り）
○五條町　は下街道又和歌山街道にして旅店割烹店等ありて郡中の名
區にして稍繁昌をなせり幕府の頃は代官所を茲に置り
眞土山　は坂合部村に在り一に待乳越と云ひ此北に立戸山在り又西に
二見の城趾あり

# 奈良鐵道

●奈良停車場　（奈良縣大和國奈良町に在り）

○奈良町　は大坂鐵道の最終驛なり之に接續なして當鐵道の起點とす良の記事は既に同鐵道奈良驛の部に掲載せり

●木津停車場　（京都府山城國相樂郡木津町に在り）

○木津町　は大和街道の一驛にして商家軒を列ね山城南部の一都會たり此地は古へ泉の里又高瀬の里と稱せり、木津川も一名泉川又輪韓川、桃川等の名あり曾て南都東大寺の大佛殿建立の時用材茲に着せしを以て木津と稱せしとぞ、

大智寺　は東二町許に在り此寺古へ泉川橋破壞せし其柱水底に殘しに時々光を放てり是靈木なりとて引揚げ此寺を創建なし初め橋柱寺と云ふ哀堂　は其南に在り俗にアハレ堂と稱す平重衡此河原に於て刑に處せ



られし時の引導佛なりとぞ重衡の塚は堂の前に十三層の塔を建り首洗池堂後に在り又ならずの柿と云ふあり

○誓願寺　は其南に在り本尊は十一面觀世音脇壇には小野篁作の地藏尊を安置す蓋し聖武天皇の勅願に依りと云ふ此外和泉式部の墓、鹿背山、恭仁の宮趾、瓶の原、柞の杜、國分寺等あり

●棚倉停車場　（同上棚倉村に在り）

○棚倉村　は木津を距る三哩餘、近傍には高倉の宮趾、蟹滿寺、神音寺、泉橋寺、狛の里等あり

●玉水停車場　（同綴喜郡玉水村に在り）

○玉水驛　は大和街道の一驛にして旅舍割烹軒を列ね稍繁昌なり茲に井堤の玉水と稱する名水あり因て名とせり又井手村玉井寺にも玉の井と云ふあり井堤左大臣（橘の諸兄）の舘趾東南に在り、井堤の玉河は驛の傍を通過す殊に著名なり

●長池停車場（同久世郡富ノ庄村に在り）

○長池　は小村落なり北に久世の鷺坂と云ふあり

●新田停車場（同郡大久保村に在り）

○新田　は長池を距る二哩半弱、寺田村には久世神社あり萬葉集に開木代來背社と云るは蓋し是なるか

●宇治停車場（同郡宇治町に在り）

○宇治町　は郡の東北に位し宇治川を隔てゝ菟道と相對す、旅舍割烹は川に沿ひて檜を削ね光景佳境にして四時茲に逍遙する者多く殊に著名の一勝地たり、平等院、縣神社、橘姫の祠等此地にあり

●木幡停車場（同宇治郡宇治村に在り）

○木幡　は宇治村に屬し、西方寺あり本尊は金銅長一尺三寸許の阿彌陀如來にして古へ淀の邊一口の漁夫彌陀次郎の感得せし所なりと

萬福寺　は大字菟道に在り、黄檗派の總本山にして隱元和尚の開基な



り境内數多の堂宇は皆壯嚴にして都にも其比を觀ざる巨刹なり、又常光寺（橋寺）興聖寺、三寶戸寺、喜撰岳等あり

●桃山停車場（同紀伊郡伏見村町字桃山に在り）

○桃山　は藤の森の東南にして豊太閤の殿舍の舊趾なり桃花頗る多く又梅溪には梅樹夥多あり南に宇治見堂あり巨椋の池淀の川瀬等を眺望なし殊更一勝景なり又黒染寺には黒染櫻あり、欣淨寺は古へ深草の少將の舊蹟にして少將井、少將塚、小町塚等あり

●伏見停車場（同上伏見町に在り）

○伏見町　は郡中の一都市なり、當所の記事は既に東海鐵道の部に記載したれば茲に略す

●七條（京都）停車場

○七條　は京都市にして之も東海鐵道の部に掲げたれば茲に略す

# 京都鐵道

●七條停車場

○七條　は京都市にして既に東海鐵道の部に其名勝舊蹟を掲げたれば之を參照すべし

●大宮停車場

○大宮口　は京都の西南にして即ち之より即ち鳥羽街道なり

●丹波口停車場

○丹波口　は京都市千本通り南の外れにして即ち之より丹波街道なり朱雀野は此邊より西なるべし

●二條停車場

○二條停車場　は城西に在り以上京都市の内なり

二條城　は曩に京都府廳を茲に置きしが今離宮となせられたり



●花園停車場（京都府葛野郡花園村に在り）

○花園　は京都市の西に位し二條を距る一哩半餘

仁和寺　は光孝天皇の御宇仁和四年の創建なり宇多天皇落飾の後茲に入給ひて宮殿を營せられしより御室又大内山の稱あり朱雀天皇も亦茲に尊居を奠められ後世々法親王を置る、數多の堂宇皆壯嚴を究め數百の櫻樹其間に充滿し日本屈指の名勝たり又此邊著名なるは龍安寺、等持院、妙心寺、金剛院、木島祉（紀杜）太秦廣隆寺、廣澤の池、大澤の池等あり

●嵯峨停車場（同上嵯峨に在り）

○嵯峨　は花園を距る二哩餘、此邊には大覺寺（嵯峨天皇の在せし所なり）直指庵、清涼寺（嵯峨の釋迦）五大堂、祇王寺、三寶寺、天龍寺等あり其他數十の名勝舊蹟あり京都名所案内に就て探るべし

# 阪堺鐵道

◉難波停車場（大坂市南區難波六番町にあり）

○難波　は大坂市の南に位し市内第一の繁盛の地たり此地には遊覽所頗る多し先其大概を左に掲ぐ、難波新地には妓樓並に割烹店軒を列ね南の方には五階樓、パノラマ舘、新金比羅社あり千日前には小劇場並に觀世物及び飲食店等數多ありて東京の淺草、京都の新京極等に比すべし、自安寺の妙見堂、法善寺の琴比羅神社等の境内には寄席、飲食店數多あり、戎橋南を東に入れば是即ち道頓堀の芝居にして浪花座、中座、角座、朝日座、辨天座等あり、河岸の方には貸席を兼たる芝居茶屋あり其間に飲食店又は旅舍などあり、芝居裏にも妓席あり、戎橋より西に入れは九郎右衛門町、道頓堀北岸には宗右衛門町とて共に遊所なり



阿倍野神社　は天王寺村の南字阿倍野の丘陵にありて難波停車場を距る二十町許り、別格官幣社にして北畠親房、同顯家の靈を祭る、社殿は明治十五年の創建其結構清洒壯麗、境内も亦廣くして櫻樹、楓樹を栽う、滦車の進行中車窓より其社殿を望み得べし

◉天下茶屋停車場（大阪府攝津國西成郡勝間村に在り）

○天下茶屋　は堺街道勝間村の字にして同村に是齋と呼べる茶屋あり豊臣秀吉屢〻此家に來りしより天下茶屋と稱し今猶は大閤の愛せし盃等を藏す、勝間全村の戸數八百九十戸、人口三千六百餘人、林源次郎が父兄の讎を此地に報いたるとは稗史院本に名高く皆人の識る所なり

◉住吉停車場（大阪府攝津國西成郡粉濱村に在り）

住吉神社　は官幣大社にして停車場より僅々二町を緩歩すれば其境内に達すべし祭神は底筒男命、中筒男命、表筒男命にして神功皇后攝政中の創建に係り後ち皇后を合祀す社殿頗る壯麗其社地は遠く海濱に連なり青

松樹蒼として林を爲し海岸には舊燈臺ありて俗に高燈籠と云ふ又境内に泉池あり反橋あり國内及び華表前の街道には茶店軒を並べ住吉踊り、土偶人其他の玩弄物を鬻ぐ商店また多し、毎年六月御輿洗ひの興を執行し九月には御田祭りを行ひ參詣見物の人未明より來集して頗る雜沓を極め阪堺鐵道會社にては爲めに臨時瀧車を出すを常とす、近頃其海岸に海水浴場を設け新たに宏壯なる樓屋を建築して浴客の宿泊に使す又年々三四月の交は海濱一里の間潮退きて砂洲となるが故に男女爭ひて蛤を拾ひ名けて住吉の汐干狩と稱す、字今細江は古へ住吉の遺趾なり

●堺停車場（大阪府和泉國堺市吾妻橋通一丁目に在り）

○堺市　は和泉國の北端大鳥郡に屬し大和川の海口に沿ひて西に堺港を擁し市坊一百九十五、戸數九千五百餘戸、人口四萬五千人を有する一商區にして足利氏の時山名氏清和泉の守護となり城を築きて泉府と稱し德川氏に至りて堺奉行を置き明治の初年堺縣となせしが後ち之を廢して大



坂府の管轄とす、市内大鳥郡役所、堺區裁判所、警察署、郵便電信局、商業會議所、大西銀行、鹿喰銀行、泉州紡績會社、燐化會社、精米所等あり又酒造家、鍛冶屋多く刀劍、庖刀、鋏、剃刀等は此地の名産なり、此地往時は外國互市場たりしを以て外舶の繫泊するもの多かりしも港灣の形狀宜しからざるが爲め漸次衰運に傾き今は其繁大阪市に移りしもの〻如し、堺港灣の深さ三仞ばかり岸頭に不動綠色の燈臺あり

大濱海水浴　は堺港南端の海濱に在りて停車場より僅かに六町許り緩歩するに宜し、濱は西に面して遙かに淡路島と相對し東北には神戸市街及び六甲、武庫の峯巒を遠望し眺望絶佳殊に暑を避くるに適す、濱邊には海水浴旅店數軒ありて孰れも二層三層の高樓を搆へ館内海水温浴を設け傍ら料理屋を兼ぬ、中に就て茅海樓を最とし一力之に亞ぎ魚肉は殊に新鮮なるに誇り活ながら之を料理して客の膳に上す、茅海樓には一定の宿料なしと雖も一日凡そ五十錢以上壹圓以下其室の大小陋美幷に食物の如

何に依りて差異あると知るべし

菅原神社　は同市字戎ノ町に在り、郷社にして天穗日命、野見宿禰、菅公を合祠す、境内に辨天祠、影向の梅等あり

開口神社　は同市字甲斐町に在り俚俗三村明神と稱す、社地廣く茶亭軒を列ね賽人常に絶ず

南宗寺　は同市旅籠町にあり、釋迦、文珠、普賢の三尊を安置す、又千家歷代の香華院にして利久の墓茲に在り

妙國寺　は同市材木町の東に在り、僧日珖の開基にして永祿五年油屋常吉の創建なり寺地は三好之康の寄附せしものなり本堂には開山日珖の像を安置し西門の方に三層塔あり又方丈の前に著名なる蘇鐵樹あり大枝二十三本、小枝七十八本四方に繁茂して四時蒼色を帶ぶ曾て高名にして亦稀代の老樹なり寺内に蘇鐵の圖を鬻ぐ者あり

## 南海鐵道

㊀堺停車場（大坂府和泉國堺市吾妻橋通一丁目に在り）

堺市　は阪堺鐵道最終驛なり之より接續なして當鐵道の起點とす

㊁湊停車場（同泉北郡湊村に在り）

湊村　は堺市を距る一哩に過ず、一の名邑なり

反正天皇陵　は向井村に在り、楯井の御陵と號す

仁德天皇陵　は舳松村に在り、百舌鳥耳原即ち是なり

履中天皇陵　は神石村に在り、耳原南の御陵と稱す

百舌鳥八幡宮　は西百舌鳥村に在り鄉社にして應神天皇、神功皇后を祀る、應神天皇初め此地に奉葬し後河内の譽田に改祀すと云ふ

㊂濱寺停車場（同濱寺に在り）

濱寺村　は湊村より一哩餘、茲に海水浴場あり濱邊には青松相運な

り景色絶佳頗る幽邃愛すべしと雖も旅舍なく茶店を頼みて宿泊す遐々酒肴あれども僅かに饑を凌ぐに過ぎず、大字船尾より今在家に亙る海濱四十六町餘歩を濱寺公園とす、此地は古へ大雄寺とて古刹ありし故濱寺の名あり

大鳥神社　は大鳥村に在り、日本武尊を祀る、曾て尊伊勢の能褒野に崩じ給ひ其靈白鳥に化して茲に至る其後宮殿を營みて大鳥大明神と號す境内廣く泉池あり又老杉樹林をなす之を千種の森と云ふ

家原寺　は大鳥神社の東北家原村にあり、僧行基の開基にして後ち聖武天皇の勅に依り僧興正之を再建す、本堂には文珠、釋迦、普賢等の靈像を安置す又寺域の中に古城趾あり

信太の森　は中村に在り、古へは數十町に渉れる深林なりしが今は僅かの叢林なり、千枝の樟は枝葉繁茂し稀世の老樹なり又稻荷祠あり白狐を祀る葛葉神社と云ふ



聖神社　は同所に在り信田山信田明神と號し當村の鎭守とす

和泉の宮趾　は府中村に在り、靈龜二年茲に和泉監を置き後又元正天皇行宮を營み給ひ珍努離宮と稱し聖武天皇相繼で茲に幸す又冷泉あり蓋し和泉の稱之に因りと云ふ

●大津停車場（同泉北郡大津村に在り）

○大津村　は一の名邑なり南に大津川ありて松風潮月共に絶佳にして皆茲に筑を停む、曾て此地の勝景なることは土佐日記にも載り

●岸和田停車場（同泉南郡岸和田町に在り）

○岸和田町　は元岡部氏の藩地にして大坂灣の東に位し豪商檐を竝べ殊に繁盛を極む、此地は元單に岸と稱せしを南朝の時和田高家茲に築城せしより岸の和田と呼び其城趾今尙ほ存す

天性寺　は大字南町にあり、本尊地藏菩薩は建武年間此海濱に蛸の背に乘して出現せし靈像なりと云ふ毎月廿四日の緣日には前夜より信徒堂

に籠りて夜を徹す

松尾寺　は松尾山に在り、役の小角の開基にして僧泰澄の創建なり本尊如意輪觀世音は小角の作にして境内には不動堂、首堂等あり

施福寺　は槇ノ尾山の中腹にあり、西國順禮第四番の札所にして僧行滿の開基なり長一丈六尺の彌勒菩薩を安置し左右に文珠、觀音の二像あり又大師堂、不動堂、阿彌陀堂等あり、山中には四十八瀧あり就中滿願寺の瀧を最大とす直下廿一丈餘幅三丈餘下流を槇の尾川と呼び末流は大津川と合す、松蕈を此山の名產とす

牛瀧寺　は大威德寺と號し牛瀧山の中腹に在り、本尊は大威德明王を安置す不動堂、行者堂あり初め役の行者之を開基し後空海、惠亮の二僧茲に錫を駐めしより二宗に分る、牛瀧川の水源に瀑布あり巨石を狹み三段となりて落下す其石を牛石と云ひ瀑を牛瀑と呼ぶ又此山は楓の名所にして滿山の楓樹奇觀云ふ可からず



●貝塚停車場（同貝塚村に在り）

○貝塚町　は之も亦一の名邑にして繁盛の地たり

願泉寺　は字中ノ町に在り、和銅元年の創建にして僧行基の開基なり後僧卜半茲に住し世俗貝塚御坊と稱す

久米田村　は池尻村にあり僧行基の開基にして天平十一年の創建なり釋迦、文珠、普賢の三尊を安置す境内に不動堂、觀音堂、開山堂等あり當寺には什寶を藏す門前に大池あり久米田池と云ふ周一里餘町

●佐野停車場（同佐野村に在り）

○佐野村　は之も一の名邑にして富饒の地たり

日根神社　は日根野村にあり鄉社にして鷦鷯草葺不合尊、玉依姫命を合祀す聖武天皇御宇の鎭座なり、南に御手洗川あり、此邊日根野の松と云ひ光風佳景なり又熊取村には白河法皇の熊取野の行宮趾あり熊取ノ鄉は曾て桓武天皇遊獵の御時熊を多く獵給ひし故之に因りと、北中通村に

は珍努の池、上之郷村には茅停の宮趾、長瀧村には蟻通神社、信達村には蹴鞠ケ岡等此近傍勝地舊蹟頗る多し

●樽井停車場

○樽井村　は名邑なる一驛にして繁華の地たり

金熊寺　は金熊寺村に在り元觀音院と號し役の小角の開基にして自作の如意輪觀世音を安置す後境内に金峰、熊野の二神を鎮守として勸請し金熊寺と云ふ

●尾崎停車場

○尾崎村　は之も街道の名邑にして人家稠密し繁華の地たり

男神社　は字大里にあり縣社にして二宇を建り一は神武天皇を祀り俚俗男森明神と云ひ一は彦五瀬命を祀り濱の天神と稱す



## 山陽鐵道

●神戸停車場（兵庫縣神戸市東川崎町に在り）

○神戸市　は東海鐵道最終の驛にして同市の記事は既に其部に掲げたれは茲に略す

湊川　は楠正成戰沒せし處にして曾て著名なり、此水源は北方諸村の小流相合して一となり八部郡大字石井村に於て千鳥ケ瀧となり東南して福原町に至る両岸には松栢繁茂し堤上を今遊園地とす茶亭數軒ありて常に逍遙する者多し、線路は河底を穿ちて下を通過し頗る奇觀たり

●兵庫停車場（兵庫縣摂津國八部郡林田村に在り）

○兵庫市街　は神戸市の一部にして一に湊西部と稱す湊川を以て神戸市街との境界とするが故に此名あり古へ所謂兵庫の津にして中國街道に衝り治承年中平の清盛安德天皇を奉じて都を福原（今の神戸停車場近傍）

に造り島を海濱に築きて風濤の害を防ぐ當時は商業繁盛五畿內屈指の賑地なりしが神戸港を互市場として開くに及んで漸次其繁昌を神戸に移し今は稍や寥微の摸樣あり、市坊七十四、戸數一萬四千二百戸、人口四萬〇三百人、兵庫假留監、兵庫警察分署、尋常師範學校、川崎造船所、山陽鐵道會社、日本精米會社、米穀輸出會社、第六十五銀行、第七十三銀行等は皆湊西部に在りて其他神明町邊には旅籠屋多し

和田神社　は兵庫停車場の東南十三四町字和田崎町に在り縣社にして天御中主神を祭り俗に海上鎭守の神と稱す社殿壯麗、其前に汐入の小灣あり橋を渡れば和田岬の通路なり毎年五月大祭を執行す

和田ノ岬　は和田神社の南五六町の處に斗出せる岬角の名にして岬頭に不動赤色の燈臺あり其東を兵庫港とし西は近く須磨の海濱に接す岬角の西即ち舊砲臺と消毒所との間に和樂園あり數萬坪の砂濱を圍ひ込みて遊園地となし中央に西洋造りの三層樓を築き入口の左に勸商場を設けて



來客の縱覽購買に便す又別に海門館、魚善樓、自由軒等の料理屋ありて園內生洲の魚を捕り生ながら調理して客に薦め且傍ら宿屋を兼ねて客を宿泊せしむ其他海水溫浴あり冷浴あり、風を迎ふべく夏日の避暑納涼には亦屈竟の遊び場所なり

築島寺　は停車場の東七町許り島上町築島橋の北畔にあり淨土宗にして本名來迎寺と稱し應保三年平ノ淸盛の創建にして本堂に阿彌陀佛を祭る、傳へて言ふ淸盛曾て築島の擧あり風波荒くして工事の成就せざるを見、人柱を沈めて其成就を謀らんとし旅人を捕へて海に投せんとす僕童大井松王衆の悲みを見るに忍びず自ら犧牲となりて海に沈む後ち如意輪觀音海中に現せしを以て松王の靈來迎の意を採りて來迎寺と名く云々、七堂伽藍は湊川の役に燒失し今は本堂のみを存す

淸盛の塔　と名くるもの南逆瀨川町眞光寺の南、大藏省米廩の隣りに在りて兵庫停車場より僅かに五六町を隔つ十三層の輪塔にて北條貞時の

建つる所なりと云ふ街衢を隔てゝ其眞向ふに經正の琵琶塚なるものあれど今は草間に埋もれて見易からず

湊山温泉　は湊川の上流有馬街道より左折せし湊山の麓にあり冷泉にして硫黄の氣を混じ胃腸加答兒、痛風、子宮病等に効能ありと云ふ其近傍四五軒の茶亭、料理屋あり浴槽は直ちに湊川上流の岸に接し一ノ湯、二ノ湯等の設けありて夏日は浴客群集す

長田神社　は停車場の西十餘町、中國街道より右折せし松林中に在り官幣小社にして事代主命を祭り神功皇后攝政元年の創建なりと云ふ社殿は清麗を盡し且別に攝社末社あり其華表の額は小野道風の書なり、毎年八月大祭を執行し毎月一日小祭を行ふ一日に參詣すれば福を授かると言傳へ元旦の如きは賽人蝟集して頗る雜沓を極む

◎須磨停車場（兵庫縣攝津國八部郡須磨村字西須磨に在り）

○須磨村　は中國街道に方り西須磨、東須磨の稱あり今は自治制に基き大手、西代、池田等の各村を併せて須磨村と云ふ戸數一千六百六十戸、人口五千百三十人土地乾燥にして空氣清く腳氣患者の轉地療養に適するを以て夏日は神戸兵庫より此地に來り留まる者多し其海濱を須磨ノ浦と呼び松風潮月、明石と併び稱せらるゝの名所なり

須磨寺　は福祥寺と號し停車場の東四五町の處に在り僧聞鏡の開基、光孝天皇仁和二年の創建にして古へは坊舍數十を支配せし巨刹なりしが堂宇傾き伽藍朽ちて今は大に衰頽せり寺寶には青葉の笛、敦盛自筆の和歌、辨慶筆若木櫻の制札其他數品を藏し望みに應じて參詣人に縱覽を許す、近來其寺地近傍を以て公園地になさんとの計畫ありと云ふ

一ノ谷　は源平古戰場として名高き地、停車場の西凡そ三四町の處にありて山は直ちに海岸に迫り其間に溪谷ありて一ノ谷、二ノ谷、三ノ谷と云ふ壽永の昔し安德天皇が假に皇居を設けられたるは一ノ谷の上鐵枴の峯にして今猶は土手跡と覺しきものを存す、山下なる街道の傍らに敦盛

の塔と稱するものあり其形ちは挿繪に示したるが如き五輪の塔にて半は砂中に埋められたれど猶は地上に顯はるゝもの凡そ二間の高さを有す其傍らに蕎麥店ありて敦盛蕎麥を賣ぎ高貴の人も徃々之を味ふ事あり

境川温泉　は一ノ谷の西數町攝津播磨の州界なる境川の邊りに在り山に據りて浴場を設け客室皆な清潔、土地閑靜にして夏日は神戸、明石等より浴客群集す又一ノ谷の麓街道の左傍にも一の海水浴場ありて館を海月館と云ひ夏は海濱を以て遊泳場に充て且館内常に温浴の設けあり

（兵庫縣播磨國明石郡垂水村字西垂水に在り）

●舞子停車場　は東西の二村に分れ停車場は西垂水村に在るも其地舞子ノ濱と近接するが故に舞子停車場と呼ぶ垂水村の戸數千四百三十戸、人口五千〇四十人、垂水の東端に海神社あり國幣中社にて底津少童命、中津少童命、表津少童命を祭り神功皇后攝政元年の創建なり又停車場の東十五町、街道の傍らに二三の割烹店あり家は直ちに沙濱に接し海峽を隔



てゝ近く淡路島を望み風景眞に畫圖に對するが如く夏季避暑客の來り遊ぶ者多し、瀧ノ茶屋と云ふは即ち是なり

舞子の濱　は停車場の西凡そ七八町の處より始まり東西五六町に沙る海濱の名にして古松の枝たわみ幹蟠まるもの數千株或ひは起て舞ふが如きあり或は臥して眠るが如きあり翠色は眞砂の白きと相映じ風は輕く梢を掠め浪は靜かに岸を洗ひ且淡路島の嫣然笑ひを含みて海濱と相對するありて其風色の絶佳なる眞に天然の美術を盡したるものゝ如し濱の南、街道に沿ひて龜屋、菊屋等三四軒の割烹店ありて春夏の二季には遊人の來りて其景を賞する者頗る多し

（兵庫縣播磨國明石郡明石町に在り）

●明石停車場

○明石町　は元と松平氏の城市にして市坊五十八、戸數四千四百五十戸、人口二萬〇四百人南に明石海峽を擁して水陸の交通共に至便、其北端深林翁鬱たる處を舊城趾とす、城は元和三年小笠原忠眞の築く所慶濠後

之を公園と爲し園中に明石神社を創建し鐘樓櫻平直明の靈を祭る、驛内に明石郡役所、區裁判所、郵便電信局、警察署、監獄、第五十六銀行、三國繰行、社寺にては光明寺、長壽院、月照寺、休ノ天神祠、嚴神社等あり例に依り驛内著名の旅店を擧れば左の如し

ゑびす屋（高見吉衛）明石町人丸神社前　かご屋（籠屋勝吉）同　字西新町上
橋本屋（菅原久右衛門）同　山本屋（山本善右衛門）同　上
小澤屋（小澤源右衛門）同　井筒屋（井筒屋文四郎）同　上

人丸神社　は停車場の北、舊城趾の山續きに在りて柿本人麿の靈を祭り社殿に長七尺の木像を安す創建の年月は詳らかならざれども元は城内に鎭座せしを藩主松平信之の代に至り此地に移せしものなりと云ふ境内に旨杖さくら、筆楸、人麿の碑ありて神庫には什寶數個を藏す又社前には前記戒屋、橋本屋等の旅店ありて樓上よりの眺望殊に宜し

明石海水浴　は停車場の南十町（人力車賃三錢）明石港の海濱に在りて一を濤衝館、一を集望閣と云ふ館内孰れも温浴場を設け其海岸を以て



水浴場に充つ、此の海峽は潮流の循環交代する處にして水清く浪靜かなるが故に最も婦人少童等の水浴を取るに適し毫も危險の恐れなし又兩館定めの宿料は一日二十五錢以上五十錢以下なりと云ふ

◉大久保停車場（兵庫縣播磨國明石郡大久保村に在り）

○大久保驛　は中國街道に方り明石町を距る一里廿餘町今は町村制に依り近傍九ケ村を併せて大窪村と稱し驛を字大久保町と云ふ一村の戸數平四百八十戸、人口六千百七十人、停車場より驛の中央まで六町を隔て驛内郵便局、警察署等あり族舍は大津屋、丸屋を最とす

天鄕梅林　は停車場の北凡そ二十町小高き丘の中腹に在り（停車場より人力車賃六錢）老梅六百餘株皆な八重の薄紅梅にして花候に至り之を遠望すれば宛がら紅氈を敷き連ねたるが如く近ければ身は唯だ彩霞の爲めに包まれたるかの思ひありて人をして花の爲めに醉ひ又花の爲めに狂せしむ其四十餘町の處にも亦金ケ崎梅林あり梅樹の數は天鄕より少なく

景も天に劣る所あれども花は天鄕と同種類の紅梅にて東西相對して一區の仙境を造れり實に縣下第一の香世界なるべし

◎土山停車場（兵庫縣播磨國加古郡阿閉村幷に二見村に跨る）

○土山村　は中國街道の一村落にして停車場は其南端阿閉村の境に在り土山は町村制實施以後他の八小村と共に合併して平岡村と稱し全村の戸數八百二十戸、人口三千五百二十人、此地より美囊郡三木へ三里、二見港へ三十町兩所への通路は共に平夷にして人力車を驅るに宜し

別府手枕ノ松　は停車場の西南一里十五町別府村住吉神社の境内に在り（停車場より人力車賃十二錢）古松蜿蜒其枝四方に蔓延して四十歩の面積を覆ひ一見して其靈木たるを知るべし社の創建は詳らかならざるも古へより別府、阿閉の産土神と崇め今に至るまで毎年九月大祭を行ふ、別府村は戸數八百戸ばかり地は海に接して漁人多く其海濱を昔し響の灘と稱せり、村内に旅店二あり一を川口屋、一を加古屋と云ふ



◎加古川停車場（兵庫縣播磨國加古郡加古川町に在り）

○加古川町　は中國街道の一驛にして東は大久保へ三里十町、西は御着驛へ二里廿八町、驛内に加古川郡役所、警察分署、區裁判所出張所、郵便電信局等ありて戸數七百五十戸、人口三千百五十人、町内常住寺に加古ノ松あり初代の樹は既に枯朽し今存在するものは後世植付けしものなりとぞ、古へ此邊りは都て海濱にして萬葉集其他の古書に加古島、加古ノ渡或は加古ノ湊など見えたるは皆此地の名なりと云ふ、夫の播州名所巡り乃ち尾上の松、尾上の鐘、曾根の松、高砂の松、石の寶殿等を巡覽せんとする者は此の停車場にて滊車を下り曾根の松を最後に廻して同所より阿彌陀停車場に出るを順序とし此の一巡回の人力車賃は凡そ四十錢なるべし、驛内の旅店は升田屋伊平殊に名高し

加古川　は播州三大川の一にして水源を丹波に發し佐治川と云ひ西南流多可郡に入り加東郡瀧野を經て瀧野川と稱し三草、東條、美囊の三川を

合せて印南郡に入り猶ほ西南に流れ加古川驛の西に於て二流に分れ一は加古郡高砂港に注ぎ一は同郡荒井に至りて海に入る其長さ州界より凡そ十九里、上流瀧野近傍は鮎漁を以て其名高く夏時には避暑かた〴〵鮎漁の遊覽に赴く者また多し

鶴林寺　は加古川町の東南廿五六町（人力車賃五錢）加古郡小安村に在り天台宗、僧定惠の開基、靈龜二年藤原宇合の創建なりと云ふ入口に樓門あり之を入れば正面に九間四方の佛堂ありて藥師如來の像を安置す寺記に曰く用明天皇の十二年乃ち聖德太子十六歳の御時此地に精舍を造營せんとて秦ノ川勝に命じて梵刹を創建せしめ本堂には釋迦三尊の像を安し四柱には八大金剛童子の形を彫み又內陣には太子の像を藏し古へは四天王寺と號せり云々此の本堂は曩に頽廢し今存するものは後年の再營に係り寺內別に護摩堂、觀音堂等あり

尾上神社〔尾上の松〕〔尾上の鐘〕　は停車場より南の方一里十町許り（人力車賃六錢）



同郡尾上村に鎭座する鄕社にして住吉明神を祭れり、社殿の前なる小屋掛の中に有名なる尾上の鐘あり昔し神功皇后三韓より持歸り給ひし由言傳ふれども其傳來詳らかならず然れど千年以前に鑄造せし古鐘なることは疑ふべくもあらず其形ちは高さ三尺二寸、周圍七尺二寸、厚さ二寸許りにして上部に乳子なく龍頭の傍らに竹管の形ちを鑄付け外面は人常に摩擦するが爲めに燦然光りを生じ一見して其奇品なるを知るに足るべし、古鐘と相對して相生の松あり雌雄の兩種一根より生じ枝葉四方にはびこり翠色滴らんとす又社殿の左傍に片枝の松あり其枝東にのみ延びて西方には一枝をも見ず俚人名けて「都戀しき片枝の松」と云ふ

高砂神社（高砂の松）　神社は尾上の東凡そ十町高砂町の海濱に在りて素盞嗚命、大貴已命を合祀す社內にある相生の松は一根二幹其形ち尾上の松と相似たれど枝葉は四方に繁茂して彼よりも一層の見榮あり初代の松は天正年中小早川の兵士之を伐りて篝と爲し爾後枯朽し了りたるを以

て舊領主池田輝政其枯根の上に神祠を移せし由社記に見ねたり故に今の松は後年植繼ぎたるものなるべし、高砂町は古へより名ある勝地にして松林遠く海濱に連なり南は一海峽を隔てゝ阿讃の二州と相對し風景明媚、一町の戸數は凡そ一千二百戸にして漁家最も多し、又寛永年間十五歳にして印度に渡航せし船頭天笠德兵衛は此地の出生にして今猶ほ其宅趾ありと云ふ

十輪寺　は高砂町の西にあり淨土宗、僧空海の開基、承元元年僧源空の中興せし古刹にして本堂には阿彌陀佛を安し祖師堂には圓光大師の畫像を掲ぐ昔しは眞言宗なりしが故なり、寺寶として七寶の珠數、置文の影多羅葉等を秘藏し又毎年舊曆三月大法會を執行す

曾根天神祠（曾根の松）　社は高砂の西北一里五六町曾根村に在りて天穗日命を祭り之に菅原道實の靈を合祀す延喜元年菅公筑紫へ左遷の砌り船を伊保の港（今の伊保村崎）に寄せ檜笠の岡に登りて四方の景色を眺望



せし事ありしとて社を檜笠の天神とも稱せり社地の東隅、門を入りて右の方に曾根の松あり播州名所の一に數へらるゝ名木にして幹の大さ直徑六尺餘、高さ三丈餘、枝葉は四方に繁生して凡そ三百五十坪の面積を覆ひ柱數百本其枝を支ふ、手枕の松、片枝の松、相生の松は共に其名高けれども一見人をして秀群なるに驚かしむるは此松なりとす、傳へて言ふ菅公此地に休憩の際小松の苗を社前に栽ゑて去る後ち蔓りて稀世の大樹とはなれりと去れど初代の松は既に腐朽し今は社殿の東隣に一祠を營みて古根を祭り此松は乃ち某二代目なるものなり

石の寶殿　は播州名所の內殊に奇異なるものにして生石子神社（鄕社）と號し曾根村の東北凡そ二十町印南郡生石村の山腹に在り一大巖石を切拔きて寶殿の形を造り之を横さまにしたるものにて石殿の大さ方三間半、棟二丈六尺、屋根は西に傾き扉は天に面し其上に自から土留まりて二三の稚松を生じ殿の四方は鑿りて窪きが故に常に赤土色の水を湛へ一見

すれば宛がら水面に泛ものゝ如し傳へて言ふ往昔大巳貴、少名毘古の二神一夜に石の御殿を造らんとし給へるに事終らずして夜明けければ其儘に打捨て給へるなりと、今は其前に拜殿を設け石殿を以て神体と崇め祭れり、又石の寶殿の南に方れる小山に「觀濤所」の三大字を刻せる巖あり姫路の碩儒永根文峯翁の撰する所にして南方に近く海を望み眺望頗る快濶なり、石の寶殿より阿彌陀停車場まで凡そ三十町、故に寶殿のみ一覽せんとする旅客は同停車場にて汽車を下るを善しとす

◉阿彌陀停車場（兵庫縣揖東郡印南郡阿彌陀村大字阿彌陀に在り）

○阿彌陀村　は中國街道に方れる一小村にして村の南端時光寺に阿彌陀の像を祭れるを以て村名に呼び來れり、今は町村制を實施し魚橋生石（石ノ寶殿の在る所）南池、北池、北新山、長尾、地徳の八ケ村を併せて阿彌陀村と云ひ戸數七百八十戸、人口三千二百四十人を有す、石ノ寶殿、曾根の松等を見物せんとする者は此停車場にて汽車を下るべく人力車賃は寶



殿まで六錢、曾根まで四錢、兩所を一巡して停車場に歸るまでの往復人力車賃は十五錢内外なるべし

時光寺　は阿彌陀村の南端に在り僧時光（源顯經）の開基にして建長元年の創建なり當時は曾根村曾根神社の西にありしが文永十年今の地に移すと、本堂に阿彌陀佛の像を安置するが故に俚人阿彌陀寺と呼び終に村名をも阿彌陀村と稱するに至れり（阿彌陀村は元と北原と稱せり）

高御位山　は阿彌陀停車場の北一里十五町許り（麓成井村より登り十八町）印南郡西志方村の西に在り大巳貴、少名毘古の二神此山に留まり給ひしと言傳へ昔しは山上に祠あり生石子神社（石ノ寶殿）と同体なれば例年九月生石子より神輿の渡御を行ひしと云ふ、山は悉く巖石より成り阪路曲折、其の途中一ノ丸、二ノ丸、御坐岩等の奇石あり山頂に到れば南に海を隔てゝ阿讃の巒峯を遠望し風色また秀麗なり

市川　は阿彌陀、姫路の間を横斷せる長流にして姫路に近きと十町許

り其水源は但馬の朝來郡に發し生野銀山の麓を過ぎ西南流神西郡に入り寺前村にて小田原川を容れ山崎村にて又た神東郡の岡部川を合せ姫路の東を過ぎ阿成村にて海に入る延長凡そ十二里なり

●姫路停車場（兵庫縣播磨國飾東郡國衙村に在り）

○姫路市　は舊酒井氏の城市、播州第一の都邑にして東西三十町、南北廿六町、市坊一百を有し戸數六千四百五十戸、人口二萬五千四百人、市内を大別して船場、内町、神谷、野里の四部とし街衢殷賑、往來頻繁、就中國道筋なる福中町、俵町、堅町、二階町等を以て市中の目貫と爲す、市の北端に舊姫路城あり五層の天主閣雲表に聳ね老樹之を圍みて白鷺常に群を爲す故に古へより白鷺城の名あり城は元と赤松貞範の守る所にして嘉吉元年其末孫赤松滿祐將軍義敎を弑し奔りて城山に據りしより以來本城は山名宗全の所領に屬し應仁元年赤松政則復た之を奪ひ返し文明元年より舊主の子孫小寺豐職をして城を守らしむ天正五年羽柴秀吉此城に移り



後ち木下家定を封じ慶長五年池田輝政に當國を賜はり播備淡三州の領主として之を姫路に封ず輝政乃ち本城を再營し慶長十三年始めて五重の天主閣を築き九ヶ年にして竣工すと現に存するものは即ち是なり此城今は陸軍の管轄に屬し步兵第八旅團の兵營となれり、市内また姫路市役所、飾東郡役所、區裁判所、警察署、郵便電信局、姫路病院、尋常中學校、姫路紡績會社、姫路汽船會社、第三十八銀行、姫路私立銀行等あり、遊廓は野里梅ヶ辻に在り割烹店は西魚町に多く又物產は姫路文庫其他の革細工、鍋、釜及び鑄物類、陶器、高砂染等にして國道筋には其商店櫛比せり、例に依り市内の旅店を掲ぐれば左の如し

| | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|
| こん庄（井上庄左衛門） | 姫路市字福中町 | すゐたに屋（山田孫兵衛） | 同 | 字京橋口 |
| 米清（後藤清三郎） | 同上 | 中井屋（中井佐平） | 同 | 上 |
| かな五（結城五一郎） | 同上 | 龍萬（……） | 同 | 字橋本新町 |
| 網干屋（……） | 同上 | 化蝶亭（……） | 同 | 字大黑町 |

射立兵主神社　は停車場の東北十餘町、姫路城に近き處に在り縣社に

して五十猛命、大巳貴命、九所神を合祀し各名を伊和明神と呼び通稱を總社と云ふ天平寶字七年の創立にして舞社末社多く境内に影向ノ松、鬼石等あり、毎年十一月大祭を行ひ又七月十三日より十五日までの間社前にて舞踏を催し俗に之を修羅踊りと云ふ

白國梅林　は停車場の北一里(人力車賃七錢)但馬街道の傍ら白國村の山腹に在り、山に倚りて數千株の梅樹を培養し花は單瓣あり重瓣あり白きあり紅ゐあり春王の三月花の正に盛んなる頃は、東西數町の間彩霞靄靄、馥郁、芬芳馥郁、其景は殆ど天郷梅林と伯仲す又梅林の傍らに白國神社あり國方姫命を祭る今は白國の産土神なり

廣峯山(廣峯神社)　廣峰山は白國村の北に在りて同村より直ちに阪路に差掛り登ること十八町にして山頂に達す、嶺きに廣峯神社あり縣社にして素盞嗚尊を祭り奇稻田姫、忍穗耳尊、天穗日命、天津彦根命等を合祀し天平六年吉備大臣之を創建す始めは同郡白幣山に在りしを天祿三年今の地に移す社殿は壯麗を極め其後ろに九ヶ所の神穴なるものあり如何なる用意の爲めに造りしものか未だ詳らかならざれども參詣人は之を一拜して穴に賽錢を投ずるを常とす、神社の西廣峯の山續きに古へ廣峯城あり廣峯昌俊の築く所にして昌俊は建武の亂に足利に屬し數度の勳功を顯せし者なるが後ち廢城となり今は僅かに城廓の趾を存す

増位山(隨願寺)　増位山は廣峯の山續きにして其東南に位し廣峯神社の前より相往來すべく距離僅かに八九町に過ぎず山の半腹に隨願寺あり往昔厩戸の皇子(聖德太子)自ら其像を巖に鐫し給ふ後ち天平七年僧行基山麓を過ぎて出井村に泊せし時藥師の示現に依りて寺を創建し自ら藥師如來の像を刻みて之を本堂に安す降つて天正年中堂宇は別所長治の兵燹に罹りて燒失し同十三年時の城主秀吉に請ひて本堂を舊地に再建す今存するもの即ち是なり、其山麓に風羅堂及び簑塚あり共に芭蕉翁の遺跡にして風羅堂には翁の木像を安置す

書寫山（圓教寺）　書寫山は姫路の西北凡そ一里二十五町（書寫村より登り三十町）夢前川との間に在り山上には老杉陰欝として晝猶ほ暗く阪路また嵯峨として登り易からず山頂に圓教寺あり天臺宗、西國巡禮二十七番の札所にして一條天皇の永延二年僧性定の開く所、本尊は長一丈六尺の如意輪觀世音なり又圓教寺道の左傍に王院焉場あり白河法皇書寫山登臨の際鳳輦を駐めさせ給ひし處にして車寄せの跡及び女人堂、紫雲堂あり、茲より西北七八町の處に辨慶學問所の硯水井に烏帽子岩あり土地幽雅にして夏日此山に暑を避くる者多しと云ふ（姫路停車場より山麓阪本まで人力車賃十五錢）

鹽田温泉　は姫路の北凡そ三里半（人力車賃廿五錢）飾西郡鹽田村の夢前川東岸より涌出するものにして泉質は炭酸冷泉なり其近傍に温泉浴場を設け樋にて冷泉を導き之を沸して入浴せしむ、去れど地僻にして浴場も亦清潔ならざれば病ある者の湯治として滯在するの外は紳士淑女の遊



山かたゞ〳〵來りて浴を取る者甚だ稀なり

○飾磨ノ津　は姫路を距る南一里許りの一港灣にして其街道には人家概ね接續して恰も姫路市中にあるもの〻如し殊に姫路に集散する商品の海運は皆此の港灣に據れるが故に商家櫛比、商船輻輳、常に繁昌を極むる の地たり、今は町制を實施し飾磨一市街と細江、惠美酒の二村とを併せて飾磨町と稱し戸數一千二百戸、人口五千七百人を有す

●網干停車場　（兵庫縣播磨國揖東郡旭陽村字和久に在り）

○網干港　は停車場の南三十町餘、揖東郡南端の一港灣にして新在家、興濱、餘子濱各村を併せて小市街を爲し戸數一千七百戸、人口七千五百餘人其港灣は揖保川河口に方れるが爲めに年々土砂塡塞し巨舶を容るゝに便ならずして漸次繁盛の度を削減するの摸樣あるも猶は揖保川上流に は龍野、山崎等の名邑ありて物産の輸送を此港に一任するが故に播州海港中に屈指せられ其名世に著はる而して其住民には製鹽、漁獵を業とす

る者多し(停車場より港まで人力車賃六錢)

**班鳩寺**　は停車場の北十五六町鰋村の中央に在り天台宗にして釋迦藥師、觀音の三像を本尊とし太子堂には聖德太子自畫の尊影を祭る其他寺内に三層塔あり彌勒堂あり本堂は方五間許りにして其壯麗なる一地方に於て稀に覩る所なり又寺の東南十四五町の山を檀特山と呼び其近傍に太子の駒繋ぎ石、蹄石等あり、鰋村即ち班鳩寺の在る所は中國街道の一驛にして戸數四百五十戸、人口一千九百二十人、驛内に揖東郡役所、區裁判所出張所、警察分署、郵便電信局、銀行支店あり、此地より龍野町へ一里十町、林田へ一里三十町又驛内名ある旅店を餅屋長造、綿屋利助、赤穗屋平左衛等の數軒とす

**家島群嶋**　網干港を距る南へ三里乃至五里の海上に無數の群島あり其中家島なるもの最も大にして丹鹿島之に亞ぎ外に松島、鞍掛島、簑島、隱家島、坊勢島、西島等あり、其形ち奥州の松島に似たりとて網干より船を



雇ひ各島を巡覽する者あれども其廣さは東西六七里に渉るを以て夏季の長日と雖も一日には巡見を了り難く且其費用も亦低廉ならざれば寧ろ網干の海岸より之を遠望して其景を賞するに如かず、家島には家島神社、及び二三十戸の人家あるも其他の小島には人の居住するもの無けれども島毎に多く稚松を生じ水天一碧の間に其色を衒ふなど眞に瀬戸内の一奇景なり

**龍野停車場**　(兵庫縣揖東郡揖西郡神部村字正條に在り)

○正條村　は停車場の所在地、中國街道の一驛にして南は室津二里、北は龍野町へ一里十五町、東は揖保川に瀕し南北には小丘を繞らして地勢平夷、古へは繁華なる一市驛なりしも一時は衰微の極に達し家を近村に移す者多かりしと云ふ去れど停車場設置以後は大に衰運を挽回し今は戸數六百餘戸に及び旅客の來往また隨つて頻繁にして村民爲めに喜色を帶るものゝ如し、驛内に郵便電信局、警察分署、履信學校等あり又旅店は井

筒屋忠七、小畑屋久兵衛、前田屋五右衛門等を佳しとす

○龍野町　停車場の北一里十五町、揖保川の西岸に位する名邑にして舊脇阪氏の治所、今は揖西郡役所の所在地なり(停車場より龍野まで人力車賃十錢)廣袤は東西十一町南北八町、戸數一千五百三十戸、人口六千六百五十人を有し古へより有名なる醬油の産地にして世に龍野醬油の名あり又揖保川にて産する鮎を以て此地の名物とす、町内重立たる建物は前記の郡役所を始め區裁判所、警察署、郵便電信局、町役場、高等小學校等にして此の小學校の西に龍野神社あり之に隣れる樓屋を聚遠亭と呼び脇阪氏の別業とす、亭は小高き丘の上にありて眺望に富み春時櫻花の爛漫たる頃は風致最も佳なり、旅店は鍵屋にふ其他數軒、

○室ノ津　は停車場の南二里(人力車賃十二錢)の海濱にある港にして古へ室の泊又は室の浦と稱し金剛山は其北に聳に金崎岬は西南に斗出して港内水深く船舶の碇泊に便利なると播州の各港に最たり故に往時封建



の世に在りては四國九州中國の諸侯參勤交代の折途を此地に取り室津より上陸するを常とし嶋津細川諸家の如きは此地に陣屋を設けし事もありしが維新後俄かに衰頽し今は家數僅々五百戸に過ぎずと

加茂神社　は縣社にして古へ室の明神と稱し室津村の南端明神山に在り本殿には別雷神を祭り其左右に片岡社、太田社、貴布禰社、若宮等あり境外には松柏蒼然として林をなし海より望めば樹間に社殿の隱見するを認め得べし維新前までは毎年五月小皐月の祭りを執行し此地の遊女數十人錦の袴を着して練出るを例とせしが維新以後終に廢絶せり又社には今猶は寶物として狩野之信の繪馬、平ノ重衡の琵琶を藏すと

●那波停車場　(兵庫縣播磨國赤穗郡那波村字陸村に在り)

○那波港　は停車場を距る南の方十町許りの處に在り、小港囊の如く灣入して能く風波を禦ぐも灣内水淺くして巨艦大船の投錨に適せず、港に沿ひて人家櫛比一部落を爲す是れ即ち那波村にして戸數四百八十戸、

人口二千一百人、其西南一里半に阪越港あり、那波、阪越の中間に峻嶺あり て應取峠と云ふ赤穂街道中の難所なり

○赤穂町　は那波停車場より阪越を經て里程二里二十町（人力車賃十六錢）同所より西南に方れる海濱、有年川の西岸に在り、戸數一千五百四十戸、人口六千九百三十八、元と淺野家の城市にして今に其城墟を存す其他赤穂郡役所、警察署、郵便局等ありて郡中第一の商區とす又此地多く鹽を製し世に赤穂鹽とて持て囃さるゝもの則ち是なり然れども地名の古へより人口に膾炙するは製鹽の業にあらずして四十七士復讐の擧にあり、大石良雄等以下の義士は實に此地より起りしものにして其遺跡處々に散在す是等は旅店山野屋、瓢箪屋に就て其案内を請はゝ懇切に旅客を各所に導くべし（赤穂より室津へ毎日便船あり）

華岳寺　は赤穂町の東、加里屋町にあり淺野家代々の菩提所にして本堂には淺野長矩の位牌、大石良雄信仰の一寸八分觀世音等を安し其左に



四十七士の墳墓、木像堂には同じく義士の木像あり僅かの見料を投ずれば寺僧出でゝ木像堂に誘ひ一々義士の略傳を講ず其辯滔々水の流るゝが如し堂を出でゝ之と相並びたる門を入れば碑あり忠義塚と云ふ寛延三年藤江熊陽翁が義士の忠膽を頌する爲めに建設せしものなり

大石氏の宅趾（赤穂城）　は町の南端舊城地の內に在り今は空地となりて雜草擅まゝに繁茂したれど其門のみは猶ほ存在し又地中に一樹の櫻あり良雄の愛樹なりしとて之を大石櫻と稱せり（華岳寺地內にも大石櫻あり孰れが眞物にや）此頃有志者は紀念として其宅趾を永遠に保存し且同地に大石神社創建の擧ありと聞けり偖赤穂城は天正年間備前岡山の城主宇喜多直家始めて之を築き後ち慶長五年池田輝政の岡山に封ぜらるゝに及びて郡代を置きて之を守らしめ次で淺野、永井、森の三家之を領し王政維新の際廢城に歸したるものにて目下は周圍の石垣のみを存せり

## ●有年停車場　（兵庫縣播磨國赤穗郡有年村字横尾に在り）

○有年村　は東西二村に分れ停車場は東有年の東、有年川の對岸に在り一村の戸數九百戸人口三千九百七十戸、中國街道に衝り其西一里半にして舟阪峠あり之を播備の州界とす、千種川(有年川の上流)の東岸を溯ぼると五十町にして上郡あり又東南一里二十町にして阪越港に到るを得べし、有年は古へ繁華なる宿驛なりしも今は唯だ寥々たる一小村落に過ぎずして近傍また名所舊跡に乏し、旅店は網屋、瓦屋等數軒あり

白旗山古城趾　は停車場の北三里廿五町許り赤松村に在り峯巒嶂峭として聳え其中腹蒼樹の蓊鬱たる間に城趾あり山を乃ち白旗山と云ひ西麓には千種川(有年川の上流)の水環流して巉巖屏立、實に天險の要地なり、天永年中源ノ秀房此險に據りて城を築き建武年中赤松圓心此に籠りて南朝に叛す、又白旗山の西麓十餘町千種川の對岸に寶林寺と云ふ一草庵あり古へは名刹にして圓心が別法禪師に歸依して建立する所、今に別法和尚の木像幷に赤松家代々の遺物を藏せり



●三石停車場　(岡山縣備中國和氣郡三石村字三石に在り)

○三石村　は中國街道に於る山間の一村落にして今は近村八木山、野谷を併せて三石村と稱し戸數四百六十戸、人口二千二百四十人を有す、其の近傍の山より蠟石を産し之を三石蠟石と呼ぶ又宿の東北七町溪間に深谷の瀧ありて水流二條に分れ一を男瀧と云ひ高さ五丈四尺、一を女瀧と云ひ高さ三丈、盛暑炎熱の頃は茲に來觀する者多し、驛内の旅店は橋本屋九郎志、福田屋五左衛門等を佳しとす

●吉永停車場　(岡山縣備中國和氣郡英保村字吉永中村に在り)

○吉永中村　は英保村に屬し戸數僅々五十戸に滿たざる寒村にして近傍また其勝を探るべき名所に乏し只だ南一里に閑谷學校の舊地あり又北四里餘、美作國英田郡瀧ノ宮村に天ノ岩門別社なるものあれども山路嶮惡なるが故に此地より參詣する者は頗る稀なり

閑谷學校の遺趾　は停車場の南凡そ一里字閑谷新田に在り此校は寛文

年間舊藩主池田光政が碩儒熊澤蕃山翁を聘して子弟を敎育せしめたる校舍にして其後延寶二年聖堂を建て次で元祿十四年聖像を鑄造して之を安置し堂を大成殿と稱し其翌十五年終に巍々たる講堂を建設し傍らに祠を營みて光政の靈を祭り之を芳烈祠と稱せしが後ち改めて閑谷神社と號せり維新以後一たび中學を此地に置きしも土地偏僻なるが爲めに之を廢し今は西毅一氏茲に私塾を開けり、故人が學事に熱心なると其用意の周到なるとを忖度せとんする者は必ず徃て一覽ずべき遺趾なり

○臥龍の松　閑谷學校を通り拔け南二十餘町にして國道に出で西行一里にして片上港に出づ（同港より赤穗へ日々押切の早船出船す片上より赤穗まで海上六里）片上より西一里六七町（伊部の西半里）字大内に臥龍の松あり枝幹蜿蜒として屈曲し綠葉四方に繁茂して其形ち龍の蟠まれるが如く播州の名木に優るとも之に劣らざるの古松なり

◎和氣停車場　（岡山縣備前國和氣郡本庄村字福富に在り）



○和氣村　は停車場を距る北八町許り津山川と吉井川との落ち口にあり て片上港より作州津山町に至る縣道に衝れり、戸數四百餘戸、人口一千七百十人、此地より津山川を溯ぼると一里餘、川に臨み奇巖峨々として山をなし岩石の間に青松綠樹雜生し風致淸雅を極むるの地あり之を天神山と稱し夏日舟を其流れに泛べて景の奇なるを賞する者あり又和氣より津山までの縣道は始終津山川に沿ひて北行し距離凡そ九里半、道は平夷ならざれども亦車を通ず其途中周匝村より分れて倉敷に至るの道あり故に津山倉敷に到らんとする者は和氣にて下車すべし

鷺ノ湯温泉　は和氣停車場の正北七里、英田郡倉敷の手前半里許り字湯ノ鄕村に在り和氣より津山街道を北行し岩戸、矢田、若水、鹽田等の小村落を過ぎて周匝村に至り同所より右折し倉敷川の東岸に沿ひて行くと二里半乃ち温泉場に達す其道は平坦と云ふには非ざれども車を妨ぐるもの唯だ二三の峻阪あるのみにして四時間を費さば同所に到るを得べく其

車賃は片道一人曳五十錢より六十錢迄の間にあり浴室は明治廿三年の新築に係り西洋風の二層樓にして樓下は一番より四番迄の四槽に分ちて浴場に充て樓上は浴客の休憩所となせり泉質は鹽類泉にして無色透明、打傷、水腫病、中風、僂麻質斯、貧血性、子宮病等に特効ありと云ふ又温泉旅舍は柏屋、龜屋、和泉屋、加茂屋等を上等の部とし其他に人家百戸許りあり過半は温泉の爲めに生活する者にして山陽道温泉場の最好處、山中の一賑地なり浴客は旅店の欄に凭りて四顧せば翠巒綠樹自から神を爽ふに足るべきものありと雖も葉舟を倉敷川に泛べて漁鮎の遊を試むるも亦時に取りての一興なるべし、温泉場より倉敷まで僅々半里同所には電信局、警察分署等あり又歸路は小舟を雇ひて津山川の流れを下らば凡そ三時間にして和氣停車場に着するを得べし此の川船賃は船頭二人付にて凡そ壹圓二十錢、夏季は乘合舟日々出船す

藤野の櫻園　は和氣停車場の東凡そ一里藤野村字日笠の後目神社境内にあり同境内より日笠川の堤に沿ひ若木の櫻千餘樹を植付け春時花の盛りなる頃は遠近より來觀する者多く樹下宴を開きて歌を謠ふあり堤上墨を磨して詩を賦するありて地方には珍しき雜沓を極むと云ふ



○瀨戸停車場（岡山縣備前國磐梨郡吉物理村字瀨戸に在り）

○瀨戸村　は物理村の内に屬し南一里餘にして國道の船橋村に出るの道あり戸數百戸餘り村民は農商相半し又二三の旅亭あり

西大寺　は停車場の南凡そ三里（人力車賃十八錢）上道郡西大寺村に在り郡内有名の亙刹にして寶龜年中僧安隆の創建、始めは犀戴寺と稱せしを後醍醐天皇今の名に改めたりと毎年一月一日より二七日の間修正の法會を執行し國家安全五穀成就の祈禱を爲し十四日の夜法會了りて後ち牛王を參詣人に投與す是れ所謂會陽なるものにして參詣の人々裸体被髪となり先づ身体を東大川の水に清め之を拾ひ取らんとを競ふ其喧噪雜沓云はん方なくして亦此の地方の一奇觀なり

車賃は片道一人曳五十錢より六十錢迄の間にあり浴室は明治廿三年の新築に係り西洋風の二層樓にして樓下は一番より四番迄の四槽に分ちて浴場に充て樓上は浴客の休憩所となせり泉質は鹽類泉にして無色透明、打傷、水腫病、中風、僂麻質斯、貧血性、子宮病等に特効ありと云ふ又温泉旅舍は柏屋、龜屋、和泉屋、加茂屋等を上等の部とし其他に人家百戸許りあり過半は温泉の爲めに生活する者にして山陽道温泉場の最好處、山中の一賑地なり浴客は旅店の欄に凭りて四顧せば翠樾綠樹自から神を發ふに足るべきものありと雖も葉舟を倉敷川に泛べて漁鮎の遊を試むるも亦時に取りての一興なるべし、温泉場より倉敷まで僅々半里同所には電信局、警察分署等あり又歸路は小舟を雇ひて津山川の流れを下らば凡そ三時間にして和氣停車場に着するを得べし此の川船賃は船頭二人付にて凡そ壹圓二十錢、夏季は乘合舟日々出船す

藤野の櫻園　は和氣停車場の東凡そ一里藤野村字日笠の猿目神社境内



にあり同境内より日笠川の堤に沿ひ若木の櫻千餘樹を植付け春時花の盛りなる頃は遠近より來觀する者多く樹下宴を開きて歌を謠ふあり堤上墨を磨して詩を賦するありて地方には珍しき雜沓を極むと云ふ

◉瀨戸停車場（岡山縣備前國磐梨郡物理村字瀨戸に在り）

○瀨戸村　は物理村の内に屬し南一里餘にして國道の船橋村に出るの道あり戸數百戸餘り村民は農商相半し又二三の旅亭あり

西大寺　は停車場の南凡そ三里（人力車賃十八錢）上道郡西大寺村に在り郡内有名の巨刹にして寶龜年中僧安隆の創建、始めは犀戲寺と稱せしを後醍醐天皇今の名に改めたりと毎年一月一日より二七日の間修正の法會を執行し國家安全五穀成就の祈禱を爲し十四日の夜法會了りて後ち牛王を參詣人に投與す是れ所謂會陽なるものにして參詣の人々裸体被髪となり先づ身体を東大川の水に清め之を拾ひ取らんとを競ふ其喧噪雜沓云はん方なくして亦此の地方の一奇觀なり

●長岡停車場（岡山縣備前國上道郡古都村字尖甘村に在り）

○長岡村　は停車場の西南七八町國道に當れる一小村落にして今は財田村に屬す岡山市を距る僅かに一里二十町、財田村一村の戸數六百四十人口二千八百三十人、其西北二十餘町の國府市場は古へ備前の國府を置きたるの舊地にして平家物語に末殿配流の時國府の邊湯迫と云ふ處に流す云々と見ゆ今も其北隣に湯迫村あり

關白屋敷跡　前記の湯迫村に在り是れ則ち治承の昔し關白松殿（基房）の配流せられし處なり又其近傍に武士屋敷といふ地あり松殿配流の時警固の武士等が居住せし舊趾なるべし

●岡山停車場（岡山縣備前國御野郡石井村即ち岡山市の西端に在り）

○岡山市　は舊池田氏の城市、山陽道屈指の都會にして備前國御野郡旭川の西岸に在り市區の廣袤は東西凡そ二十町、南北一里餘、市坊九十二を有し戸數一萬〇八百戸、人口四萬六千百餘人、街衢は縱橫に通じ就中西



大寺町、榮町、紙屋町、上の町、中の町、下の町の如きは豪家軒を並べ商業繁盛を極む、市の北隅に岡山城あり一に烏城と稱す五層の天主閣及び櫓の外壁を燒板にて覆ひ其色黒きが故に烏城とは名けしもの乎、城は何年何人の築きしや詳かならず按ずるに文明年間松田元成が州の半を攻略せし時新築せしものか否らざれば宇喜多直家が元成の玄孫松田元堅を殺して其領地を奪ひたる頃に築きしものなるべし直家は天正年中岡山に移りて浦上宗景を逐ひ自ら國主と稱して此城を守る後ち其子秀家に傳へしも秀家關ヶ原に敗れし後は德川氏小早川秀秋を此地に封じ慶長八年池田輝政の子忠繼を封ず爾後池田氏代々封を此地に受け明治維新に至りて廢城し今は唯だ其天主閣のみを存せり又岡山縣廳は弓ノ町に在り明治十八年の新築に係り巍然たる西洋造りの高樓なり其他地方裁判所、區裁判所、市役所、郵便電信局、監獄署、尋常師範學校、尋常中學校、病院、醫藥學校、紡績會社、倉庫會社、精米會社、廿二銀行、山陽新報社、岡山日報社等あり又

劇場は高砂座を最とし旭座之に亞ぎ、遊廓は東西中島町を限りて之を許可し金花樓、中富樓等の大樓多く、料理店は石關町の大黒屋、紺屋町の魚嘉(旅店兼業)、上出石の三好野花壇(同上)等最も繁昌せり例に依り市内重立たる旅店を擧ぐれば左の如し

三好野（若林　かれ）岡山市字西大寺町　丸高（高橋　逢江）同　字西大寺町
自由舍（三宅浦次郎）同　字上市ノ町　河波屋（……）同　京橋東詰
不甚（布角　力造）同　字天瀬町　津山屋（津山伊三郎）同　上

偕樂園　は上道郡操村に在りて一に東山公園と稱す明治十年新設の公園にして西に旭川の清流白布を洒せしが如きを瞰下し西南に烏城の天主閣を望み又晩春の頃には近傍の田圃に菜花の盛りなるを觀るべく其眺望の絶佳なるは岡山市の近隣に於て之に優るものあるを知らず、園内三勳祠あり和氣清麿、楠正成、兒島高徳の靈を祭り社傍に櫻、梅を植ゑ又招魂社ありて西南の役戰死せし志士の忠魂を鎭め其他東照宮、玉井ノ宮等あり て四時ともに遊歩を此園に試むる者頗る多し



後樂園　は日本三公園の一にして岡山城の北に流れを隔てゝ一區を爲し竹林其四方を圍み面積凡そ二萬七千坪を有す抑も此園は舊藩主池田綱政の創設にして貞享三年其臣津田重次郎に命じて工事を監督せしめ翌四年十二月始めて其工を起せしものなり園の廣さ東西百九十七間、南北百十七間地勢は西南の方稍や高くして岡阜の狀を爲し雜樹繁茂して宛がら深山の如く東北の方は平夷にして園外の諸峯を遠望し得べし園は舊藩主が或は稼檣の艱難を視察し或は藩主の武技を練習し又は儒臣を招きて經典を講せしむるの用に供し其他近隣諸藩主を延て饗宴を開くの場所に充たるものにて其初めは御茶屋座敷と云ひ後には單に後園と呼びしを明治四年後樂園と改稱して一般官民の偕樂地に充らる今「後樂園眞景及び詳誌」に據りて園中の勝を擧ぐれば左の如し

鶴見橋　は岡山市出石町より後樂園に入るの街路、旭川の上に架したるものにて長さ七十間餘、橋を渡れば園の北門に到る　墻を隔てゝ暫軒

あり暫軒は屋を二棟に分ち窓を開けば旭川を眼下に望み北には秦嶺諸山を遠見し最も避暑に適す暫軒の風は則ち十勝の一なり

鶴鳴館　は建坪凡そ百四十坪の廣間にして北門の右に在り二ケ所に玄關を設け東の玄關より入れば本館に至る館の前に古松一樹あり昔し里長平四郎の庭にありし古木なりとぞ

延養亭　は園中第一の建物にして鶴鳴館の東南に並び建坪七十七坪餘去明治十九年聖駕西巡の際玉座を設けたるは則ち此亭なり、亭は東南に向ひ岡山城の天主閣、瓶井山の三層塔、其他の諸山を簷下に望み得べく亭前には奇石羅列して苔滑かに草青く亦一個の好風景なり庭中鶴多くして能く人に馴る延養亭の西北に在り建評五十七坪許り柿望湖閣　は一に榮唱とも稱し延養亭に通ず、閣の前にある泉池を花葉の池と稱し昔しは榮唱橋ありて二色の岡に通せしも今は其橋廢れて跡を存



せず又池に臨みて巨石あり高さ四間餘之を大立石と呼ぶ

花葉　は榮唱の南に方れる園地の名にして北に門あり外面に直ちに西門に通じ之を花葉口と稱す、園地は自から岡阜の狀を爲し喬樹陰欝として枝を交へ一たび爰に來れば宛がら深山幽谷に遊べるが如き思ひを爲すべし此處より礫石を敷たる徑路を過ぐれば茂松庵に到る

茂松庵　は昔し舊藩主の茶事を修めし所の茶室にして全体の構造素撲なるも亦自から雅致を存す老松枝を垂れて檐を蔽ひ吟嘯耳に充ちて而も喧すしからず、其南に四天王堂あり夫より東北に方りて地藏堂あり地藏堂は古へ舊藩主の鎭守神として安置せしものなりとぞ

簾池軒　は南門の東にありて園中の勝を望むには第一の塲處とす屋の廣さ二十一坪餘之を二室に分ち屋背は竹林を隔てゝ旭川の清流に接す又屋前に池あり周圍五十五間之を簾池と云ふ

藤棚　は簾池軒の東に在り東西二架に分れ西にあるものは花白く東に

あるものは其色紫なり、傍らに一樹の老梅あり花白く香清くして幽韻餘りあり名けて臥龍梅と云ふ形の臥龍に似たるが故なるべし

蘇鐵　は藤棚の北に在り幹數十株赤砂の間に蟠まる四方に鐵柵を繞らし樹下毎に一微草をも止めず、蘇鐵の東に池を鑿ちて燕子花を植ゑ且八個の小板橋を架す蓋し參河の八ッ橋に擬するなり

流店　は八ッ橋の北に在り建坪十二坪餘の樓閣にして下は棧道左右に分れ中央に一條の水道を引き其中に奇石を布置す板を以て樓外の流れを遮れば水石に激して樓下に滲入するの仕掛けなり其水は東に繞りて征頭より南に注ぐものと相合し屈曲して八ッ橋の下に出づ眞に奇搆と謂ふべし、流店の水も亦古へ十勝の一に算へられしものなり

梅林　流店の東に櫻樹の林を爲せる處あり其間を潛りて東南の方に出れば一帶の梅林あり數は一百株に過ぎざるも素蕊冷絶の間に淡紅交はり幹は槎枒として苔之を蔽ふ亦た一奇觀なり其東竹林の間に一門あり



て園外に通ず是れ則ち東門にして其門外を櫻馬場と云ふ

唯心山　は園の中央に崛起せる岡阜の名にして園中第一の勝景なり山頂稍や平坦にして遠望に富み園中の勝は皆眉睫の間に集まり來り北は遙かに龍山の山脈を望み時に汽車の黒烟を吐きて走るを認むべし其側らに一小亭ありて唯心堂と名く、最も觀月に宜し

島の茶屋　は唯心山を北に降りたる處に在り屋前に泉池を鑿ち池中に三個の小島嶼を設く池を境澤と云ひ此邊多く蓮を生ず

新亭　は園の東北隅にあり窓を開けば園外の曠野を望み其の東西を千入の森と稱し楓樹數十株天を蔽ひ霜一たび至れば滿目の錦繡燦爛として斜陽之に映ずれば其色四邊に照射して一段の奇觀を呈す、森の東南に稻荷祠及び辨天祠あり、千入の紅葉は亦十勝の一に數へらる

〔席料〕以上掲げたる園内各家屋を借らんとする者は園の看守に就て打合せを爲す制規なるが其の一日の席料は左の如し

鳴鳴館　八十錢　鳴ノ茶屋　二十五錢
翠松庵　三十錢　的殿　五錢
深地軒　三十錢　唯心亭　五錢
酒店　三十錢　新享　二十錢
羅騎亭　二十錢
親射亭　十錢
寒水細響軒　十錢

**宗忠神社**　は停車場の西凡そ十五町御野郡上中野村に在り神道黒住教會の本社にして社殿壯麗、境内廣寬、雜樹蔚然として之を圍み地方罕に見る所の靈區たり、今は黒住教の起因を原ぬるに昔し上中野村に黒住左京なる者あり今村宮の神官を勤めしが常に太陽を信仰すること深く終に天照皇太神より天地生々の靈機を授かり日神の大道を覺悟したりとて自ら黒住教なる一派を敢くに至れり、左京は嘉永三年齡七十一にして死去し後ち安政三年宗忠大明神の神號を賜はり明治九年神道黒住派として一派の允許を蒙り本社は明治十六年の草創に係るものなり現時の建物は本社、拜殿、神饌所、守札所等にして大祭は毎年三月執行す

**眺望閣**　は大阪の眺望閣、凌雲閣等に倣ひて近頃建築せし七層の高樓にして市の北部縣廳前に在り其高さ凡そ一百尺岡山城と相拮抗して巍然雲表に聳ゆ、閣は八角形にして都て木造、內に勸工場を設け又茶亭等を置き客をして登臨眺望せしむるの趣向なり眺望閣の下園中には茶亭理料店等ありて遊人常に群集し市中屈指の賑地なり

**岡山寺**　は市內磨屋町に在り孝謙天皇の天平勝寶年間報恩大師勅を奉じて建立し其後村上天皇の天曆年間に僧信源一の伽藍を寺內に建設す岡山市中有名の巨刹にして衰人絕ゆると無し

**蓮昌寺**　は市內仁王町に在り法華宗、僧日像の基開にして與國五年松田元賢之を建立し後ち天正年間宇喜多直家再建す、昔しは宇喜多家の香華院にして今猶は本堂に其位牌を藏すと

**備前吉備津神社**　は停車場の西一里强り津高郡一ノ宮村に在り縣社にして大吉備津彥命を祭り推古天皇元年の創建、今の社殿は慶長九年池田照直の造營せしものなり社地は吉備中山の背後に當り本社は結搆善美を